

Sterling Selling and Fulfillment Foundation



カタログ管理構成ガイド

バージョン 9.1

Sterling Selling and Fulfillment Foundation



カタログ管理構成ガイド

バージョン 9.1

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、355 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン 9.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Sterling Selling and Fulfillment Foundation
Catalog Management Configuration Guide
Release 9.1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 1999, 2011.

目次

第 1 章 カタログ管理ビジネス・アプリケーションの導入

ビジネス・モデル	1
複数事業部制コーポレーション	2
サード・パーティー物流管理	2
マーケットプレイス (marketplace)	2
カタログ管理の構成	3
カタログ構成	3
アイテム	3
配送サービス	3
提供サービス	4
付加価値サービス	4

第 2 章 Applications Manager のナビゲート

Applications Manager の始動	5
Applications Manager のレイアウト	5
アプリケーション・ルールのサイド・パネル	7
作業領域	14
Applications ManagerConfigurator で使用可能なアクション	19
Applications Manager のルックアップ機能の使用	19
アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示	19
Applications Manager にログインしているユーザーの表示	21
リストおよびリスト・フィルタリングの使用	21
日時エントリ	22
コンテキスト・ヘルプの使用	23
エラーのトラブルシューティング	23
特殊文字の使用	23

第 3 章 カタログ・コンポーネントの構成

アイテム・ステータスの定義	25
アイテム・ステータスの作成	25
アイテム・ステータスの変更	26
アイテム・ステータスの削除	26
追加属性の定義	26
追加属性の作成	26
追加属性の変更	27
追加属性の削除	27
アイテム指示コードの定義	28
アイテム指示コードの作成	28
アイテム指示コードの変更	29
アイテム指示コードの削除	29
アイテム指示タイプの定義	29
アイテム指示タイプの作成	30
アイテム指示タイプの変更	30
アイテム指示タイプの削除	31
サービス・スキルの定義	31

サービス・スキルの作成	31
サービス・スキルの変更	33
サービス・スキルの削除	33
サービスの複雑度の定義	33
サービスの複雑度の作成	33
サービスの複雑度の変更	34
サービスの複雑度の削除	34
アイテムのエイリアス・タイプの定義	35
アイテムのエイリアス・タイプの作成	35
アイテムのエイリアス・タイプの変更	36
アイテムのエイリアス・タイプの削除	36
アイテム関連付けタイプの定義	36
アイテム関連付けタイプの作成	36
アイテム関連付けタイプの変更	37
アイテム関連付けタイプの削除	37
アイテム除外コードの定義	38
アイテム除外コードの作成	38
アイテム除外コードの変更	39
アイテム除外コードの削除	39
カタログ・ルール	39
カタログ・ルールの定義	40
アセットの定義	40
アセット・タイプの作成	41
アセット・タイプの変更	42
アセット・タイプの削除	42
アセット・コンテンツ・ロケーションの作成	42
アセット・コンテンツ・ロケーションの変更	43
アセット・コンテンツ・ロケーションの削除	43

第 4 章 製品の構成

アイテムの定義	45
アイテムの作成	45
アイテムの変更	46
アイテムの削除	82
アイテムの計算したユニット・コストの再計算	83
条件ビルダーを使用したアイテム検索のフィルタリング	83
ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの定義	89
ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの作成	90
ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの変更	91
ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの削除	91
マスター単位の定義	92
数量単位の定義	92
価格設定単位の定義	94
マスター・カタログの定義	95
マスター・カタログの作成	96
マスター・カタログの変更	96

マスター・カタログの削除	97
カテゴリーの定義	97
追加のカテゴリー属性の定義	97
分類の定義	101
分類定義の定義	102
分類目的の定義	103
分類階層の定義	107
エイリアス・タイプの定義	116
エイリアス・タイプの作成	116
エイリアス・タイプの変更	117
エイリアス・タイプの削除	117
アイテムのコスト計上分類	118
アイテムのコスト計上分類の作成	118
アイテムのコスト計上分類の変更	118
アイテムのコスト計上分類の削除	119

第 5 章 配送サービスの構成 121

配送サービス・オプションの定義	121
配送サービス・オプションの作成	121
配送サービス・オプションの変更	123
配送サービス・オプションの削除	123
配送サービスのマスター単位の定義	123
配送サービスのマスター単位の作成	123
配送サービスのマスター単位の変更	124
配送サービスのマスター単位の削除	124
配送サービス・タイプの定義	125
配送サービス・タイプの作成	125
配送サービス・タイプの変更	126
配送サービス・タイプの削除	126
追加キャパシティの定義	126
追加キャパシティの作成	126
追加キャパシティの変更	127
追加キャパシティの削除	128

第 6 章 提供サービスの構成 129

提供サービス・オプションの定義	129
提供サービス・オプションの作成	129
提供サービス・オプションの変更	130
提供サービス・オプションの削除	131
提供サービスのマスター単位の定義	131
提供サービスのマスター単位の作成	131
提供サービスのマスター単位の変更	132
提供サービスのマスター単位の削除	132
提供サービス・タイプの定義	133
提供サービス・タイプの作成	133
提供サービス・タイプの変更	134
提供サービス・タイプの削除	134

第 7 章 付加価値サービスの構成 135

付加価値サービスの定義	136
付加価値サービスの作成	136
付加価値サービスの変更	144
付加価値サービスの削除	144
アクティビティの定義	144
アクティビティの作成	145
アクティビティの変更	145

アクティビティの削除	145
------------	-----

第 8 章 時間トリガー・トランザクション参照 147

時間トリガー・トランザクション参照	147
時間トリガー・トランザクションの実行	148
時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ	148
エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成	149
前提条件	149
初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成	150
トランザクション情報の定義	151
ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション	152
非同期要求プロセッサ	152
大/小文字を区別しないデータ・ローダー	154
集合・混載ステータスの変更	155
出荷ステータスの変更	157
配送計画の終了	158
集合・混載を閉じる	160
積荷目録を閉じる (Close Manifest)	161
オーダーを閉じる	164
受入の完了	166
出荷を閉じる (Close Shipment)	167
出荷統計の収集	169
追加在庫の統合	171
出荷に統合	172
カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)	175
連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)	180
派生オーダーの作成 (Create Derived Order)	181
オーダー・インボイスの作成	183
出荷インボイスの作成	185
ESP 評価者	186
アイテム・ベースの割り当て	188
集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク	192
在庫の照合	194
支払集金	195
支払実行	198
在庫一致の公示	200
オーダー保留タイプの処理	202
保留作業オーダー・タイプの処理	204
交渉の発行結果	205
リリース	207
出荷のルーティング	209
スケジュール	211
インボイスの送付	215
アイテム変更の送信	217
顧客変更の送信	219
オーダーの送信	220
リリースの送信	222
オーダー開始交渉	223
コロニー・マップの同期化	224
ベスト・マッチ地域の更新	226
所有権転送サマリーの読み込み	228

時間トリガー・ページ・トランザクション	229
ページ方法	230
ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成	230
使用可能なページ	230
タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション	321
集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム	321
オーダー配達タスク・キュー同期プログラム	323
オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム	324
オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム	325
見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム	326
モニター	327

在庫状況モニター	327
例外モニター	329
在庫モニター	331
交渉モニター	332
強化したオーダー・モニター	334
強化した見積モニター	337
強化した返品モニター	339
リアルタイム在庫状況モニター	342
出荷モニター	350
作業オーダー・モニター	352

特記事項 355

索引 359

第 1 章 カタログ管理ビジネス・アプリケーションの導入

本書は、Applications Manager でカタログ管理ビジネス・アプリケーションを構成するためのルールおよびセットアップ構成に焦点を置いています。本書は、IBM® Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境のセットアップに Applications Manager を使用する、ハブ管理者とエンタープライズ管理者の両方を対象読者としています。さらにビジネス・アナリストも、ビジネス慣行が Sterling Selling and Fulfillment Foundation に関係している場合は、その計画に本書を使用してください。プログラマーは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の拡張に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本*」を参照してください。システム・インテグレーターの方は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation での外部アプリケーションの拡張または統合の詳細について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

本書は、読者が「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation カタログ管理概念ガイド*」を読み、そこに詳述されている概念およびビジネス機能を理解していることを前提としています。

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation を実装するために必要なすべてのルールとセットアップ構成の集合であり、各ビジネス・アプリケーションに対して個別に構成を実行できる仕方で編成されています。以下のビジネス・アプリケーションは、Applications Manager 内で構成できます。

- IBM Sterling Distributed Order Management
- IBM Sterling Global Inventory Visibility
- カタログ管理
- IBM Sterling Logistics Management
- IBM Sterling Supply Collaboration
- IBM Sterling Reverse Logistics
- IBM Sterling Warehouse Management System
- IBM Sterling Application Platform

ビジネス・モデル

すべての Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーションが使用できる環境を包含する単一のビジネス・モデルはありません。したがって、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境を構成する単一の方法はありません。

例えば、会社が複数事業部制コーポレーション、サード・パーティーの物流管理企業、またはマーケットプレイス・ビジネス企業と見なされているとしましょう。これらの各ビジネス・モデルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成に対して異なる概念アプローチを必要とします。

複数事業部制コーポレーション

複数事業部制コーポレーション・モデルは、主要な焦点が購入と販売のアクティビティを管理することであるビジネス・コーポレーションです。標準的な複数事業部制コーポレーションには、バイヤー、セラー、またはその両方が可能です。これはさらに、小売店、製造業者、またはその両方も可能です。複数事業部制コーポレーションがどのような形式を取るとしても、それは通常、消費者、小売店、販売業者、および相手先商標製造業者などの、さまざまなタイプの顧客との複数のチャネルを持ちます。

複数事業部制コーポレーション・モデルでは、各事業部は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation でエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、事業部別のトランザクションの分離と、企業レベルでのグローバルな可視性の両方が可能になります。各エンタープライズは、固有のビジネス・ルール、ワークフロー、およびトランザクション処理を構成します。

サード・パーティー物流管理

従来のサード・パーティー物流管理会社は、倉庫保管、輸送、および委託製造などの幅広いアウトソーシング・サービスを提供します。

大規模な会社では、そのサプライ・チェーンのリアルタイム管理によって、競争上の優位性を得ることができます。この利点には、コストの削減や顧客サービスの向上が含まれます。さらに、Web ストア、ハンドヘルド・デバイス、および店舗内キオスクなどの新たな販売チャネルにより、企業がその顧客に到達する新しい方法が備えられています。このすべての結果により、フルフィルメント・プロセスの複雑さは増大しました。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、契約フルフィルメント・プロバイダーの操作の実行に必要なエンジンだけでなく、フルフィルメント・ネットワーク全体でのリアルタイムのオーダー実行やイベント駆動型の問題解決のための中央システムを提供します。それによって、フルフィルメント・プロバイダーは、顧客のニーズを満たすフルフィルメント・プロセスを構成できるようになります。

サード・パーティー物流管理モデルでは、各クライアントをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、サード・パーティーの物流管理ハブは、ハブ環境内のすべてのトランザクションの可視性を持つことができますが、エンタープライズとしてセットアップされているクライアントは、それ自身のトランザクションに対してのみ可視性を持ちます。これによりサード・パーティーの物流管理ビジネスは、固有のトランザクション処理をそのクライアントに提供することができます。

マーケットプレイス (marketplace)

マーケットプレイスは、バイヤーとセラーを結び付けるオンラインの仲介です。マーケットプレイスは、多くのセラーからの提供アイテムを集約したり、交換またはオークションでバイヤーとセラーをマッチングさせることで、非効率を削減します。バイヤーは、これにより購入コストを引き下げ、新規のセラーに到達するために役立てることができます。セラーは、これによりセールス・コストを引き下げ、新規顧客へのアクセスを取得できます。これは中央ロケーション、つまりハブであ

り、そこでは信頼された仲介者がプロシージャーとテクノロジーの両方を統合して、コストを引き下げ、バイヤーとセラーのトランザクションの効率を強化します。

マーケットプレイス・モデルでは、各マーケットをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、各マーケットはその独自の製品またはサービスの取り扱いにおいて固有であることができます。

カタログ管理の構成

組織では、カタログ管理アプリケーションを使用して、アイテムおよびカタログに関連付けられた情報および属性 (attribute) を管理できます。

注: Sterling Distributed Order Management をデプロイメントして実行している場合は、IBM Sterling Business Center を使用して、アイテム、カテゴリー (category)、および分類などのマスター・データを構成します。詳しくは、*Business Center* アイテム管理ガイド を参照してください。また、カタログ管理アプリケーションを使用して、構成データの定義など、カタログ管理に関連した 1 回限りの保守タスクを実行します。

注: Sterling Warehouse Management System をデプロイメントして実行している場合は、カタログ管理アプリケーションを使用して、構成データやマスター・データを構成します。この手順については、本書「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。

カタログ管理構成グループを使用すると、以下で説明するような、ご使用のビジネス・アプリケーション・モジュールに応じた Sterling Selling and Fulfillment Foundation の構成が可能です。

カタログ構成

カタログ管理アプリケーション全体で使用される共通コードを定義できます。

カタログ構成について詳しくは、25 ページの『アイテム・ステータスの定義』を参照してください。

アイテム

アイテムとは、オーダー、出荷、および返品が可能な物理的単位です。アイテムは、アイテム ID と単位 (unit of measure) によって一意的に定義されます。アイテム属性やアイテムが属すカタログを定義できます。

アイテムについて詳しくは、45 ページの『第 4 章 製品の構成』を参照してください。

配送サービス

配送サービスは、顧客宅までの近距離配達に関連付けに使用されるサービス・アイテム (service item) です。顧客宅までの近距離配達では、オーダーの出荷とは異なり、キャパシティー制約が定義された配送業者を使用して特定のアイテムを配送します。配送サービスのアイテム属性、オプション、および単位を定義できます。

配送サービスについて詳しくは、121 ページの『第 5 章 配送サービスの構成』を参照してください。

提供サービス

提供サービス (provided service) は、オーダーで提供可能な、物理アイテムではない任意の追加アクションです。提供サービスの一例として、「洗濯機」アイテムの取り付けサービスが挙げられます。提供サービスのアイテム属性、オプション、および単位を定義できます。

付加価値サービス

流通加工サービスは、バイヤー向けにアイテムをカスタマイズするサービス、または、内部の在庫管理を許可するサービスです。例えば、バイヤーから特定のアイテムに特別なラベルを貼り付けることを要求される場合があります。その場合は、アイテムが顧客に発送される前にラベルを貼ることができます。

キット化サービス、キット解除サービス、在庫変更サービス、およびコンプライアンス・サービスを定義できます。

付加価値サービスについて詳しくは、135 ページの『第 7 章 付加価値サービスの構成』を参照してください。

第 2 章 Applications Manager のナビゲート

Applications Manager の始動

このタスクについて

Applications Manager にアクセスするには、以下の手順を実行します。

手順

1. ブラウザーで、`http://<hostname>:<portname>/smcfs/console/start.jsp`を参照します。

ここで、

- `hostname` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのコンピューター名または IP アドレスです。
- `portnumber` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのリスニング・ポートです。

ブラウザーで「サインイン」ウィンドウが表示されます。

2. ログイン ID とパスワードを入力して「サインイン」ボタンを選択します。コンソールのホーム・ページが表示されます。
3. メニュー・バーから「構成」>「コンフィギュレーターの起動」を選択します。

Applications Manager が新しいウィンドウに表示されます。

また、エンタープライズを管理するエンタープライズ・ユーザーは、

`http://<Sterling Selling and Fulfillment Foundation installation server>/smcfs/console/login.jsp`からも Applications Manager をアクセスできます。

Applications Manager と System Management Console のモニターが両方同時に開いている状態で、いずれか一方のアプリケーションのダイアログ・ウィンドウが開いていると、もう一方のアプリケーションはそのダイアログ・ウィンドウが閉じるまでユーザー入力に応答しません。これは、Java プラットフォームのバグに起因するものです。

Applications Manager のレイアウト

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のさまざまな面を構成するために使用できるグラフィカル・ユーザー・インターフェースです。さまざまな構成は、Applications Manager メニュー・バーからアクセスできる、アプリケーションと呼ばれる論理グループによって定義されます。



図1. アプリケーション・メニュー

各アプリケーションは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の特定の面に焦点を合わせており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が実世界のビジネス設定で機能するために必要なすべてのルール、共通コード、および設定が含まれています。

以下のアプリケーションは、このバージョンの Sterling Selling and Fulfillment Foundation で構成できます。

- 分散オーダー管理
- 統合在庫管理
- カタログ管理
- 物流管理
- 供給コラボレーション
- 返品物流
- 倉庫管理
- アプリケーション・プラットフォーム

構成するアプリケーションを選択すると、Applications Manager は、選択したアプリケーションに使用できるすべての構成ルールと、それらのルールを構成できる作業領域が含まれているサイド・パネルを表示します。

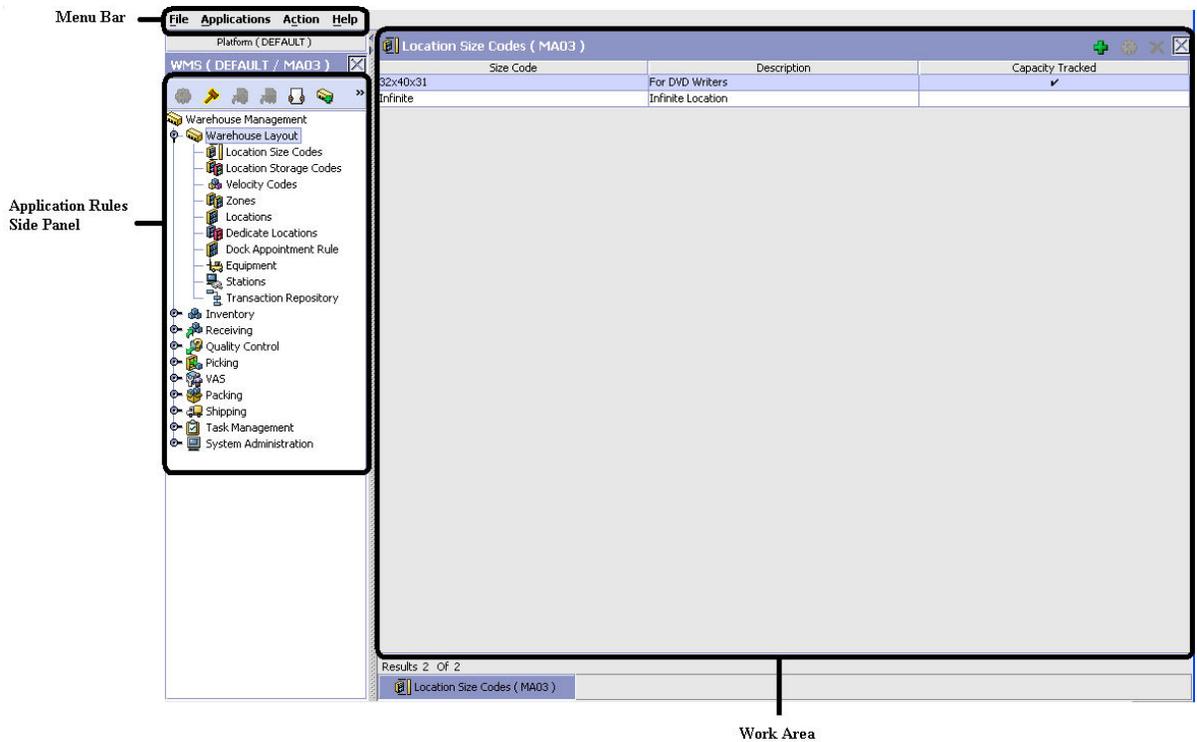


図 2. Applications Manager の標準インターフェース

アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルは、アプリケーション内で使用されるプロセスに固有の要素を、階層ツリーで表示します。

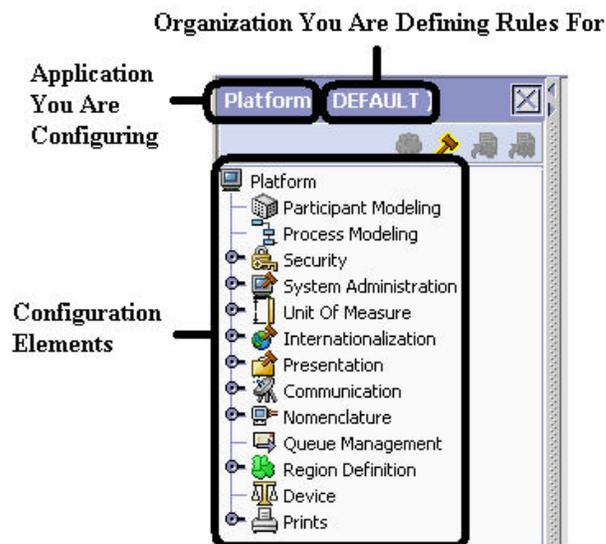


図 3. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの例

また、アプリケーション・ルール・サイド・パネルには、ルールを構成する対象となる組織と、もしあれば、別の組織から継承したルールも示されます。

アプリケーション・ルール・サイド・パネルは、構成画面へのアクセス、継承の決定、および別の組織のルールのロードに使用できます。

構成画面へのアクセス

アプリケーション・ルール・サイド・パネルの主な目的は、アプリケーションの個々の構成画面にアクセスするためのインターフェースを備えることです。構成画面にアクセスするには、アプリケーション・ツリーを表示して、該当する構成要素をダブルクリックすると、要素の構成画面が作業域に表示されます。

継承の決定

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、エンタープライズが作成されると、既存のエンタープライズの構成ルールのすべてまたは一部を継承できます。この継承は、構成グループ・レベルで実行されます。構成グループとは、類似の構成要素を分類したものです。例えば、アイテムを扱うルールと構成を、ある構成グループにまとめてグループ化し、組織を扱うすべてのルールと構成を、別の構成グループにグループ化します。

管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。別の組織のルールのロードについては、13 ページの『別の組織のルールをロード』を参照してください。

構成グループは、組織レベルに関連付けられます。組織レベルは、構成グループの継承方法と、それを保守できる組織を決定します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されている組織レベルは、以下のとおりです。

- ハブ・レベル - ハブ組織に関連付けられる構成グループ。
- エンタープライズ・レベル - ハブ環境内の、個々のエンタープライズ組織に関連付けられる構成グループ。
- カタログ組織 - ハブ環境内の、カタログを保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 在庫組織 - ハブ環境内の、在庫を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 価格設定組織 - ハブ環境内の、価格設定を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 組織 - ハブ環境内の、いずれかの組織に関連付けられる構成グループ。

アプリケーション・マネージャーは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で説明されているデータ・アクセス・ポリシーに基づく構成データと許可はロードしません。

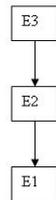
プロセス・モデルの拡張継承

エンタープライズは、他のエンタープライズから以下のエンティティの構成を継承できます。

- パイプライン
- ユーザー出口
- サービス
- アクション
- 条件
- ステータス
- トランザクション
- イベント

エンタープライズが他のエンタープライズからこれらのエンティティを継承する場合、現在のエンタープライズは、継承の階層内の (ハブを含む) 他のすべてのエンタープライズから継承される構成を表示できます。さらに、現在のエンタープライズは、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

例えば、以下の継承の階層について考慮してみましょう。



この階層では、エンタープライズ E1 はエンタープライズ E2 から継承しており、エンタープライズ E2 はエンタープライズ E3 から継承しています。エンタープライズ E1 は、エンタープライズ E2 とエンタープライズ E3 に対して定義されている構成を表示できます。さらに、エンタープライズ E1 は、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

組織レベルのルール

以下の表では、組織レベルで定義された構成グループを保守できる組織の判別に使われるルールについて、詳しく記述しています。さらにこの表は、組織の作成時に構成グループの継承方法を決定するルールを説明しています。

表 1. 組織レベルのルール

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
ハブ・レベル	ハブ組織のみが、ハブ・レベルで構成グループを変更できます。他のすべての組織は、読み取り専用アクセス権限を持ちます。	すべての組織はこの情報を共有します。

表 1. 組織レベルのルール (続き)

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
エンタープライズ・レベル	エンタープライズ組織のみが、エンタープライズ・レベルで構成グループを変更できます。 エンタープライズ構成を必要とするすべてのビジネス・トランザクションは、トランザクション・コンテキストにより設定されたエンタープライズからピックアップされます。例えば、オーダー・ドキュメントには固有のエンタープライズがあります。	エンタープライズはこの構成を別のエンタープライズから継承できます。さらに、この構成は構成グループ・レベルでオーバーライドできます。
カタログ組織	カタログ組織として指定された組織は、カタログ組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
在庫組織	在庫組織として指定された組織は、在庫組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
価格設定組織	価格設定組織として指定された組織は、価格設定組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
組織	役割 (セラー、バイヤーなど) が割り当てられている組織は、組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。

構成する組織と同じ在庫、キャパシティー、およびカタログ組織を持たないエンタープライズからは継承できません。

アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルには、継承されているルールがグレー化されて表示されます。

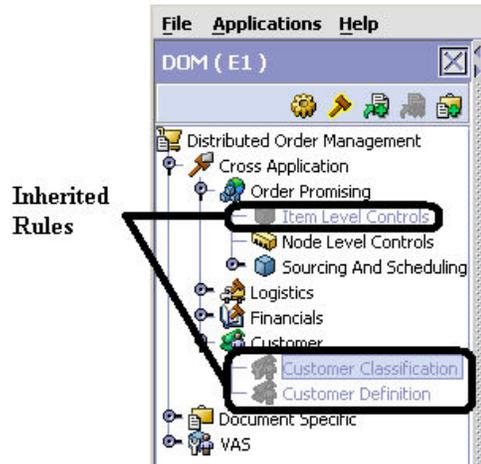


図4. アプリケーション・ルールサイド・パネルの継承済みルール

上記の表で記述されているように、ログインしている組織によっては、継承済みルールの一部をオーバーライドできる場合があります。ルールがオーバーライド可能な場合、ルールを強調表示すると、アプリケーション・ルールサイド・パネル内の「構成のオーバーライド」アイコンが使用可能になります。

Override Configuration Icon is Available

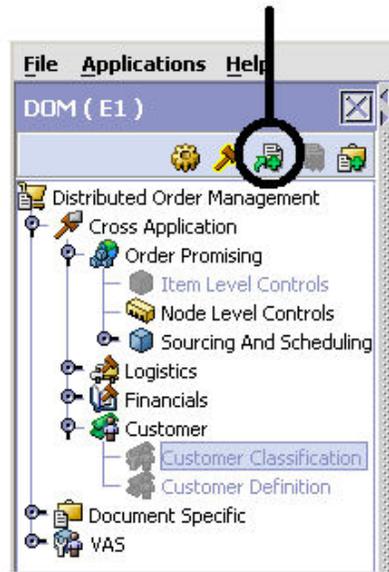


図5. 「構成のオーバーライド」アイコン

ルールのオーバーライドを選択した場合、オーバーライドするルールが関連付けられている構成グループ内の他のルールも、すべてオーバーライドされます。「構成のオーバーライド」アイコンを選択すると、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、オーバーライドされるルールが表示されます。

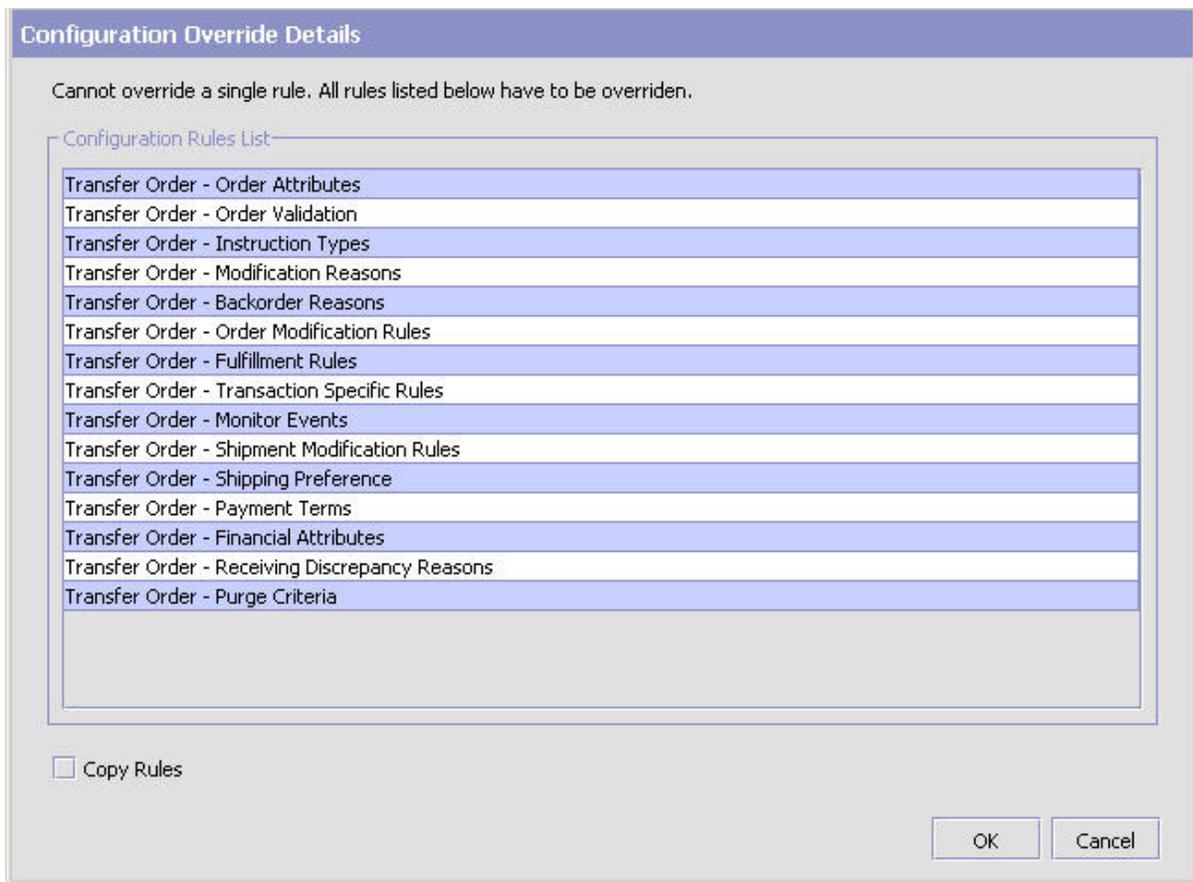


図6. 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウの例

構成グループのオーバーライド

構成グループをオーバーライドし、次いで元のルールを「再継承」することを決めた場合は、「構成所有権を戻す」アイコンを選択できます。このアイコンは、オーバーライドされているルールのアプリケーション・ルール・サイド・パネルで使用できます。

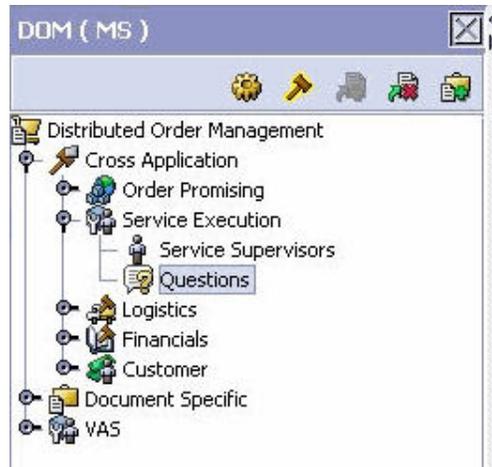


図7. 「構成所有権を戻す」アイコン

「構成所有権を戻す」アイコンを選択した場合、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウに、再継承されるルールが示されます。

注: 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウで「ルールの削除」フィールドを選択した場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻し、そこから継承したすべてのルールを保持しないことになります。このフィールドを選択しなかった場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻しますが、そこから継承したルールは保持することになります。

別の組織のルールをロード

このタスクについて

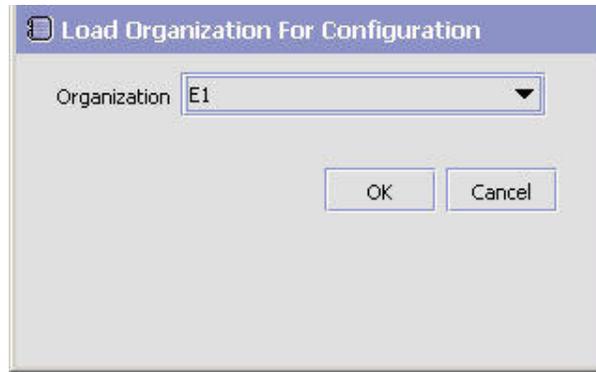
管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。管理可能な組織を判定するルールについては、9 ページの表 1 を参照してください。

アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから使用可能なルールは、選択した組織のタイプとそれが割り当てられている役割によって異なる場合があります。

別の組織のルールをロードするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 該当するアプリケーション・ルールサイド・パネルで、 を選択します。「構成する組織のロード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「組織」で、処理対象の組織を選択します。
3. 「OK」を選択します。その組織のルールがアプリケーション・ルールของサイド・パネルに表示されます。

タスクの結果

アプリケーション・ルールのサイド・パネルで、処理対象の組織が括弧の中に表示されます。

作業領域

作業領域は、さまざまな構成画面が表示されるメイン領域です。作業領域に表示される画面のメイン・タイプは、検索、リスト、詳細、およびドラッグ・アンド・ドロップのウィンドウです。

検索ウィンドウ

「検索」ウィンドウでは、フィルタリングされた検索を行うための手段を提供します。「検索」ウィンドウの上部パネルでは、検索するエンティティーに適用可能な条件を提供し、検索を絞り込むことができます。検索を実行すると、下部パネルに検索結果がリストされます。

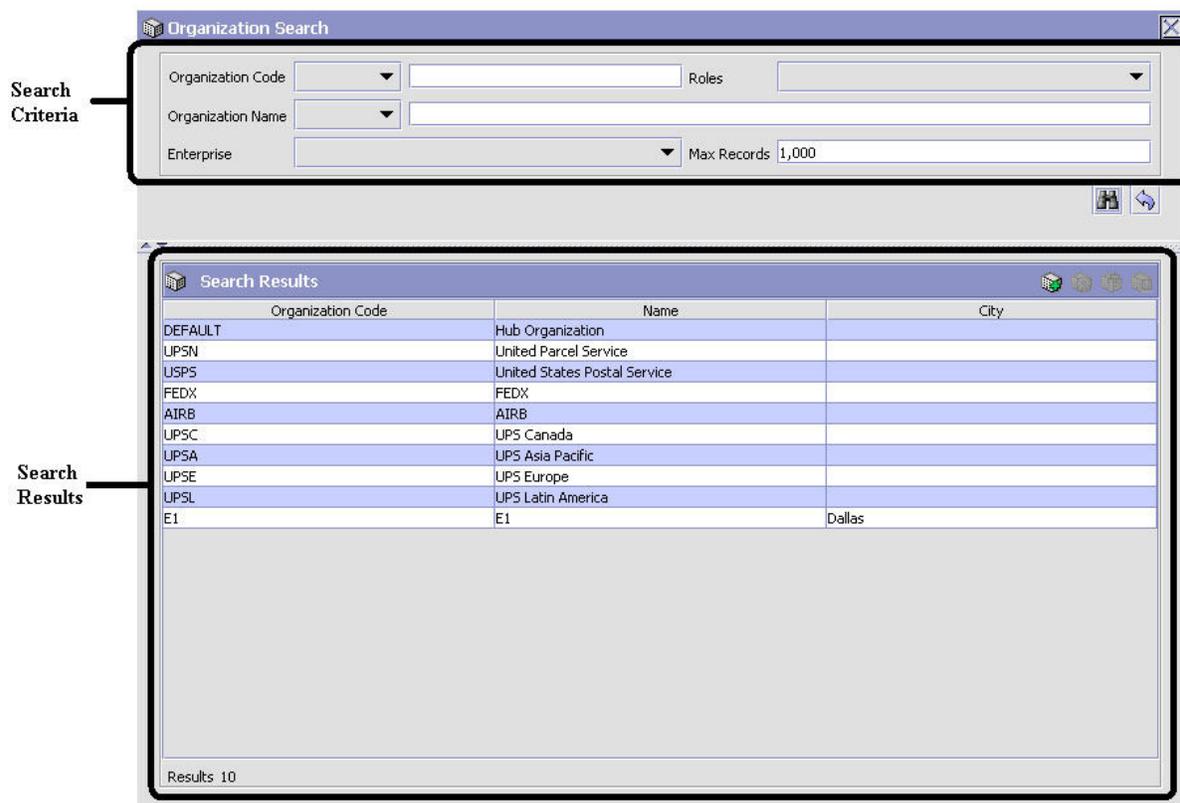


図8. 「検索」ウィンドウ例

リスト・ウィンドウ

検索を必要としない特定のルールまたはコードを構成することを選択すると、Applications Manager は、前に構成済みのルールおよびコードの基本リスト・ウィンドウを表示する場合があります。

Dimension UOMs (DEFAULT)	
UOM Code	UOM Description
CM	Centimeter
FEET	Feet
IN	Inch
KM	Kilometer
METER	Meter
MILE	Mile

Results 6 Of 6

図9. リスト・ウィンドウの例

詳細ウィンドウ

詳細ウィンドウは、ほとんどの構成の実行に使用される、メイン・インターフェースです。詳細ウィンドウは、編集可能なフィールドとテーブル、エンティティのさまざまな特徴を構成するためのタブ、およびエンティティに対して実行可能な追加アクションを含むことができます。

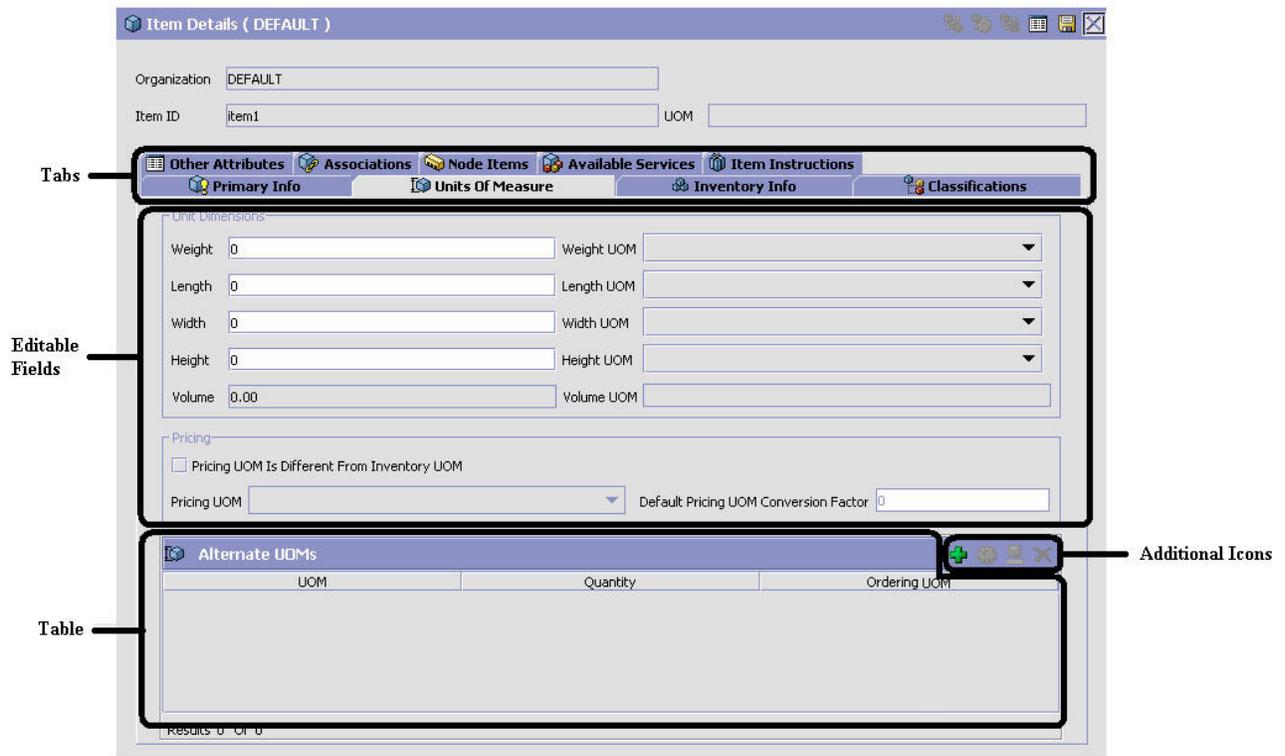
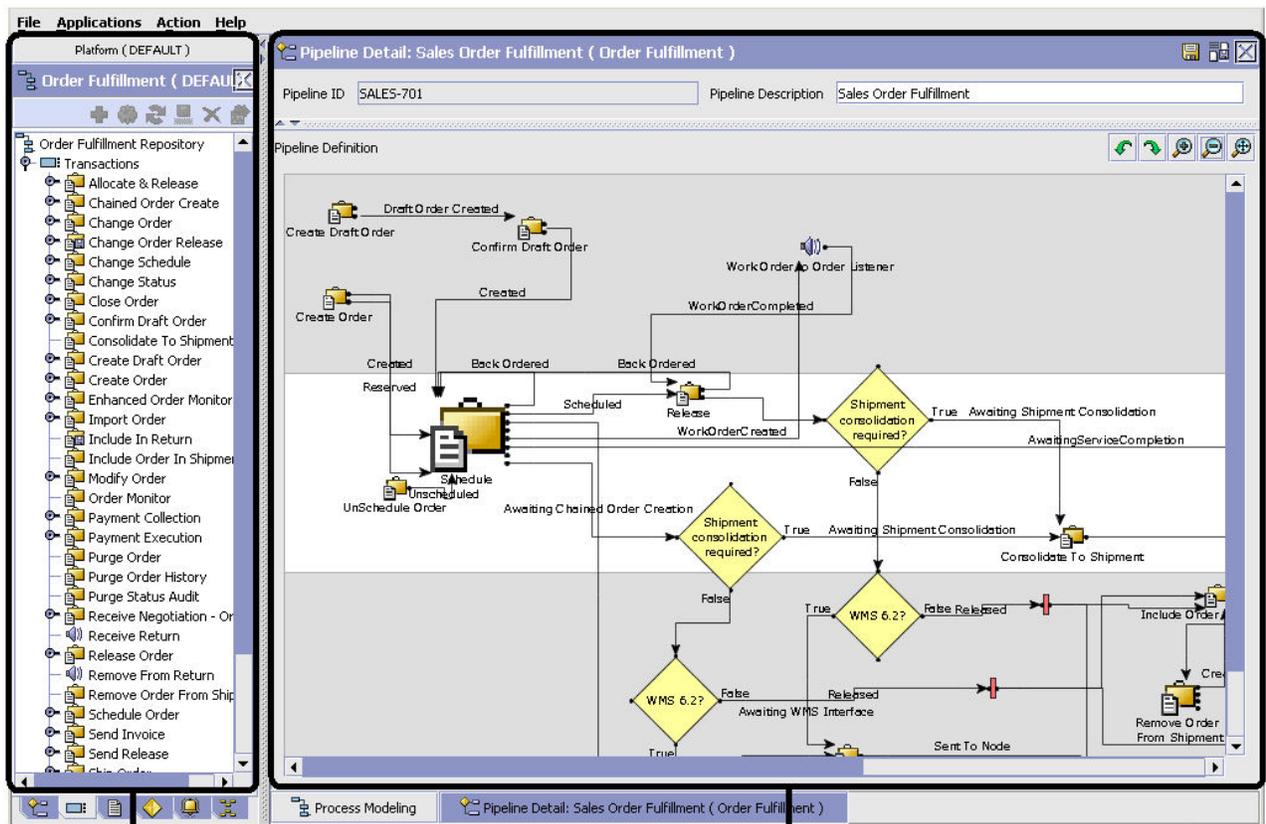


図 10. 詳細ウィンドウの例

ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウ

グラフィカルなドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウを使用して、パイプラインの作成、パイプラインの決定、イベント・ハンドラー、状況モニター・ルール、およびサービスを容易にできます。ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウは、パレットとグラフィカル作業領域から成ります。



Pallet

Graphical Work Area

図 11. ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウの例

これらのエンティティの構築を開始するには、トランザクションなどのコンポーネントをパレットから選択します。コンポーネントをグラフィカル作業領域にドラッグします。これでトランザクションが、それ自身のグラフィカル表現で表示されます。

1 つのコンポーネントを別のコンポーネントに接続するには、コンポーネントの出力ポートから、別のコンポーネントの入力ポートまでマウスでドラッグして、接続ラインを形成する必要があります。コンポーネント間のリンクを、水平方向または垂直方向に設定することができます。

コンポーネントまたはリンクを削除するには、コンポーネントを右クリックして、「削除」を選択します。コンポーネントとリンクが構築されると、それらを任意の場所にドラッグして移動し、その位置に従って自動的にリンクを再描画することができます。Ctrl キーを押したままコンポーネントをドラッグすると、グラフィカル作業領域内でコンポーネントがコピーされます。

Applications Manager のルックアップ機能の使用

Applications Manager 全体で、ルックアップ機能があるフィールドが多数あります。ルックアップ機能は、このフィールドに属する追加レコードの検索や作成を行うための機能です。例えば、「組織の詳細情報」画面の「主要情報」タブで、「ロケール」フィールドには、画面から新規ロケールを作成するためのルックアップ機能があります。「新規作成」ルックアップ・ボタンを選択すると、ユーザーが変更するロケールの詳細情報がポップアップ画面に表示されます。

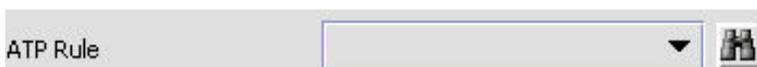


図 12. ルックアップ・アイコンの例

ルックアップ・フィールドに表示される情報は、その特定フィールドに属するレコードの数により変わります。レコード数が 20 以下の場合、ルックアップは「新規作成」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。レコード数が 21 から 75 の場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。

レコード数が 75 より多い場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたテキスト・ボックスとして表示されます。値をテキスト・ボックスに入力するか、その値を「検索」ボタンを使用して検索できます。値を入力する場合、値は保存する際に妥当性検査されます。値がドロップダウン・リストとして表示される場合、必ず表示されるとおりに値を入力する必要があります。例えば通貨ルックアップの場合、通貨コードがテーブルに保存されるとしても、通貨の説明をテキスト・ボックスに入力する必要があります。ユーザーが誤った値を入力した場合、保存時にエラーが表示されます。

Applications Manager 内で特定のフィールドに対してルックアップを使用する場合、本書の対応するセクションを参照して、特定の情報をセットアップする必要があります。

アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示

分散オーダー管理、供給コラボレーション、返品物流、および物流管理の構成アプリケーションで、アプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別を表示できます。販売オーダー、転送オーダー、マスター・オーダー、見積もり、および購入オーダーは、すべての伝票種別の例です。

アプリケーションの関連付けられた伝票種別を表示するには、該当するアプリケーションをメニューから開いて、 をアプリケーション・ルールのサイド・パネルから選択します。「関連付けられた伝票種別」ウィンドウでは、作業しているアプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別のリストを表示します。

Document Type	Description
0004	Template Order
0006	Transfer Order
0001	Sales Order
0007	Master Order
0015	Quote

Results 5 of 5

図 13. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウ

伝票種別のアプリケーションへの追加

このタスクについて

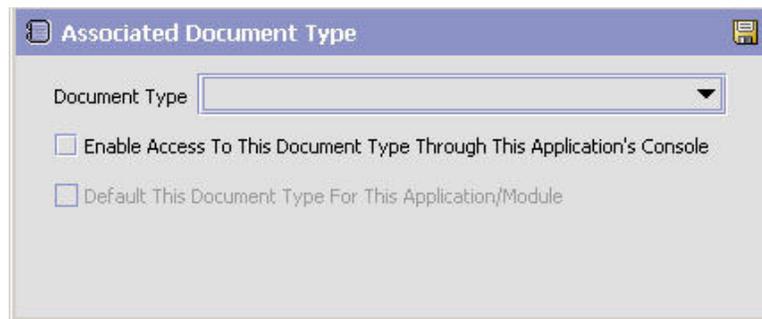
別のアプリケーションに関連付けられた伝票種別を、現在作業中のアプリケーションに追加することができます。

追加された伝票種別の関連する画面は、伝票種別を関連付けるアプリケーションに関係がない場合があります。

伝票種別をアプリケーションに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウから、 を選択します。「関連付けられた伝票種別」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「伝票種別」から、アプリケーションに関連付ける伝票種別を選択します。

3. 「このアプリケーションのコンソールを使用してこのドキュメントへのアクセスを可能にする (Enable Access To This Document Through This Application's Console)」を選択します。
4.  を選択します。

Applications Manager にログインしているユーザーの表示 このタスクについて

Applications Manager およびそのロケールにログインしているユーザーを表示できます。この情報を表示するには、アプリケーションの右下隅にあるユーザー・アイコンおよびロケール・アイコンの上にマウスを移動して、ツールチップを表示します。

リストおよびリスト・フィルタリングの使用 このタスクについて

Applications Manager で任意のリストを表示するときに、条件の定義に基づいてリストの内容をフィルタリングすることができます。リストの列見出しを任意の位置で右クリックし、リストに関連付けられたテーブル・フィルター・エディターを使用して、フィルタリングを行うことができます。

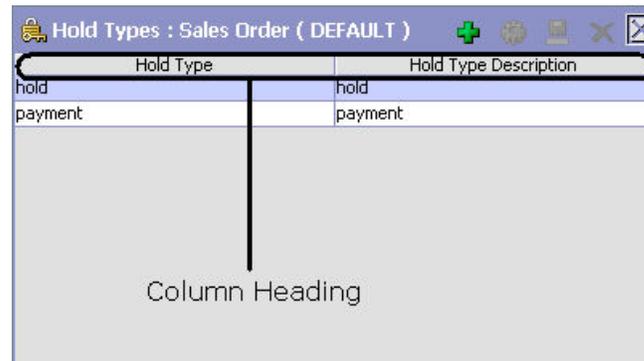


図 14. リストの列見出し

表 2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ

フィールド	説明
既存のレコードに適用	このボックスにチェック・マークを付けると、セット全体ではなく、事前にフィルタリングされた結果の新しいフィルター・セットを適用します。
最大レコード	フィルターから返されるレコードの最大数を指定します。デフォルトの数は 100 です。

表2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
動的フィールド (Dynamic Fields)	<p>図 15 の「保留タイプ」や「保留タイプの説明」のフィールドは、表示しているリストに基づいて動的に読み込まれます。</p> <p>これらのフィールドは、テキスト・ストリングと「次と同じ」、「次から始まる」、または「次を含む」などの選択条件と組み合わせて検索することができます。</p>

「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウの例:

図 15. 保留タイプ: 販売オーダー

検索ストリングでは、大/小文字が区別されます。例えば、「Item」は「item」と同じ値を返しません。

日時エントリー

Applications Manager のすべての日付フィールドはカレンダー・アイコンを伴っており、これを使用してそのフィールドに関する日付を検索することができます。このアイコンをクリックすると、小さなカレンダーが表示されます。このカレンダーをナビゲートして目的の日付を指定することができます。例えば「カレンダーの作成」ウィンドウでは、「デフォルトの有効終了日」フィールドがカレンダー・アイコンを伴っており、このアイコンを使用して目的の出荷予定日を確認し、フィールドに入力することができます。

図 16. カレンダー・アイコンの例

Applications Manager のどの時刻情報も、入力することもできます。これを行うには、時刻フィールドをダブルクリックして、時刻を入力します。

Shift Name	Start Time	End Time
	<input type="text"/>	

図 17. 時刻フィールドの例

どの Applications Manager の場合も、時刻は 24 時間形式で入力する必要があります。

コンテキスト・ヘルプの使用

このタスクについて

「ヘルプ」ボタンをクリックして、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のコンテキスト・ヘルプにアクセスします。

エラーのトラブルシューティング

このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生したエラーの説明と原因、およびトラブルシューティングするためのアクションについて表示することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のシステム・エラーの説明を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「ヘルプ」>「トラブルシューティング」を選択します。「エラー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。エラー・コードのリストおよびその説明が表示されます。
3.  を選択して、エラーの原因およびトラブルシューティングするためのアクションを表示します。

特殊文字の使用

Applications Manager 全体で、データ入力の際に特殊文字の使用が必要なインスタンスがある可能性があります。Sterling Selling and Fulfillment Foundation での特殊文字の使用については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本」を参照してください。

第 3 章 カタログ・コンポーネントの構成

アイテム・ステータスの定義

アイテムの設定時に使用されるアイテム・ステータスの共通コードを定義できます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトのアイテム・ステータスは、以下のとおりです。

- 2000 - 保留 (このステータスのアイテムに対しては、Sterling Selling and Fulfillment Foundation での一部の操作が使用できません。例えば、このステータスのアイテムは、「オーダー・コンソール」内のアイテム検索画面に表示されません。)
- 3000 - 公開済み

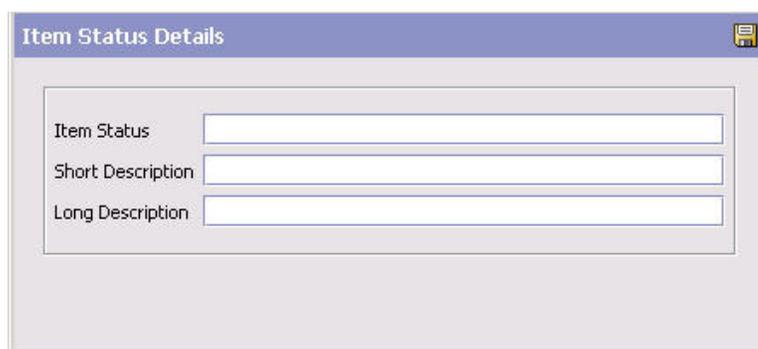
アイテム・ステータスの作成

このタスクについて

アイテム・ステータスを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アイテム・ステータス」を選択します。作業領域に、「アイテム・ステータス」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アイテム・ステータスの詳細 (Item Status Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Item Status Details". It contains three text input fields: "Item Status", "Short Description", and "Long Description".

3. 「アイテム・ステータス」に、使用するアイテム・ステータスの値を入力します。
4. 「簡略説明」に、アイテム・ステータスの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、アイテム・ステータスの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

アイテム・ステータスの変更

このタスクについて

アイテム・ステータスを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム・ステータス」を選択します。作業領域に、「アイテム・ステータス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム・ステータスを選択して、 を選択します。「アイテム・ステータスの詳細 (Item Status Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、アイテム・ステータスの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、アイテム・ステータスの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アイテム・ステータスの削除

このタスクについて

アイテム・ステータスを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム・ステータス」を選択します。作業領域に、「アイテム・ステータス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム・ステータスを選択して、 を選択します。

注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation で提供されるデフォルトのアイテム・ステータスを削除することはできません。

追加属性の定義

アイテムの設定時に使用される追加属性の共通コードを定義できます。これにより、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルト設定によって取り込まれない、アイテムに関するすべての追加情報を保管できます。これらの属性は、「アイテムの詳細」画面にフィールドとして表示されます。

以下に示すのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの追加属性です。

- REFERENCE

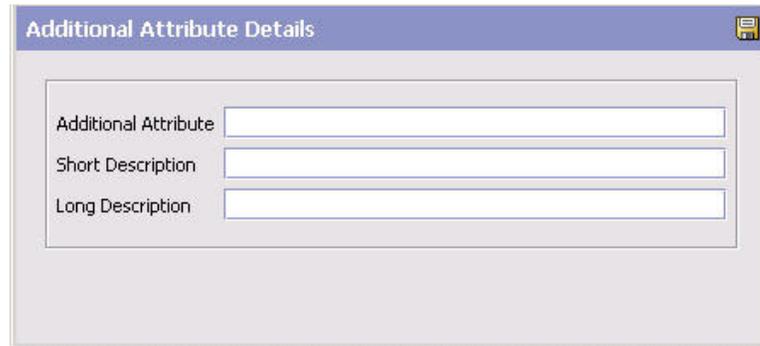
追加属性の作成

このタスクについて

追加属性を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「追加属性」を選択します。作業領域に、「アイテムの追加属性」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「追加属性の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「追加属性」に、使用する追加属性の値を入力します。

重要: 追加属性にはスペースも特殊文字も入れないでください。

4. 「簡略説明」に、追加属性の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、追加属性の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

追加属性の変更

このタスクについて

追加属性を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「追加属性」を選択します。作業領域に、「アイテムの追加属性」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する追加属性を選択して、 を選択します。「追加属性の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、追加属性の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、追加属性の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

追加属性の削除

このタスクについて

追加属性を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「追加属性」を選択します。作業領域に、「アイテムの追加属性」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する追加属性を選択して、 を選択します。

注: デフォルトの追加属性を削除することはできません。

アイテム指示コードの定義

アイテムと関連付けることのできる特別指示を記述するコードを定義できます。例えば、壊れやすいすべてのアイテムに関連付ける、「取扱注意」というアイテム指示コードを作成できます。

アイテム指示コードの作成

このタスクについて

アイテム指示コードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アイテム指示コード」を選択します。作業領域に、「アイテム指示コード」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アイテム指示コード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 「アイテム指示コード」に、アイテム指示コードの名前を入力します。
4. 「アイテム指示タイプ」で、構成するアイテム指示の種類を定義する指示タイプを選択します。例えば、「取り扱い」または「ピッキング」などです。アイテム指示タイプの構成について詳しくは、29 ページの『アイテム指示タイプの定義』を参照してください。
5. アイテム指示コードについてさらに詳しく説明するために必要な特別指示があれば、「テキスト」に入力します。

6.  を選択します。

アイテム指示コードの変更

このタスクについて

アイテム指示コードを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム指示コード」を選択します。作業領域に、「アイテム指示コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム指示コードを選択し、 を選択します。「アイテム指示コード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「アイテム指示タイプ」で、構成するアイテム指示の種類を定義する指示タイプを選択します。例えば、「取り扱い」または「ピッキング」などです。アイテム指示タイプの構成について詳しくは、『アイテム指示タイプの定義』を参照してください。
4. アイテム指示コードについてさらに詳しく説明するために必要な特別指示があれば、「テキスト」に入力します。
5.  を選択します。

アイテム指示コードの削除

このタスクについて

アイテム指示コードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム指示コード」を選択します。作業領域に、「アイテム指示コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム指示コードを選択し、 を選択します。

アイテム指示タイプの定義

アイテム指示コードとの関連付けが可能な共通コードを定義して、その指示コードがどのような種類のものであるかをさらに詳しく説明することができます。例えば、「ピック」指示タイプおよび「取り扱い」指示タイプを作成できます。「ピック」指示タイプは、アイテム・ピッキング・プロセスに関するすべてのアイテム指示コードと関連付けることができます。また、「取り扱い」指示タイプは、アイテムの取り扱いに関するすべてのアイテム指示コードと関連付けることができます。アイテム指示コードの構成について詳しくは、28 ページの『アイテム指示コードの定義』を参照してください。

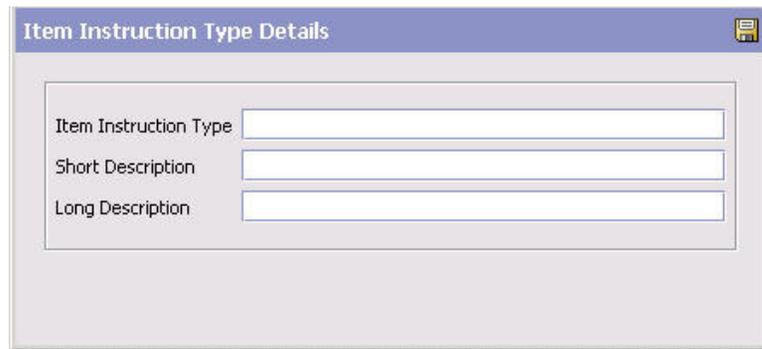
アイテム指示タイプの作成

このタスクについて

アイテム指示タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム指示タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテム指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アイテム指示タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「アイテム指示タイプ」に、使用するアイテム指示タイプの値を入力します。
4. 「簡略説明」に、アイテム指示タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、アイテム指示タイプの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

アイテム指示タイプの変更

このタスクについて

アイテム指示タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム指示タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテム指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム・タイプを選択して、 を選択します。「アイテム指示タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、アイテム指示タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、アイテム指示タイプの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アイテム指示タイプの削除 このタスクについて

アイテム指示タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アイテム指示タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテム指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム・タイプを選択して、 を選択します。

サービス・スキルの定義

提供サービス・アイテムおよび配送サービス・アイテムの設定時に、サービス・スキルを定義できます。サービス・スキル (service skill) を、アイテムのサービスの関連付けに関連付けることもできます。

サービス・スキルの作成 このタスクについて

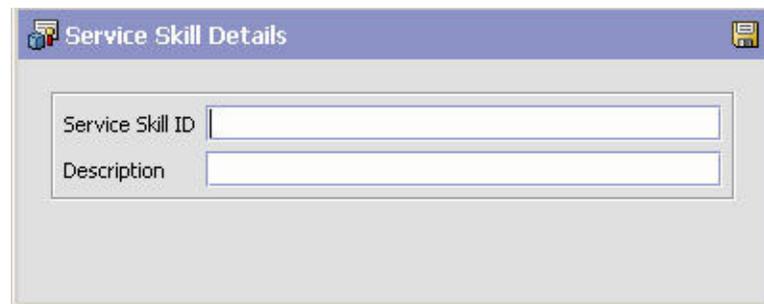
サービス・スキルを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーで、「カタログ構成」>「サービス・スキル」を選択します。作業領域に、「サービス・スキル」ウィンドウが表示されます。

Service Skill ID	Description
Electrical	Electrical
Plumbing	Plumbing

3.  を選択します。「サービス・スキルの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The dialog box titled "Service Skill Details" contains two input fields:

- Service Skill ID:
- Description:

4. 「サービス・スキル ID」に、サービス・スキルに対して使用する値を入力します。
5. 「説明」に、サービス・スキルの説明を入力します。
6.  を選択します。

サービス・スキルの変更 このタスクについて

サービス・スキルを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーで、「カタログ構成」>「サービス・スキル」を選択します。作業領域に、「サービス・スキル」ウィンドウが表示されます。
3. 該当するサービス・スキルを選択して、 を選択します。「サービス・スキルの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「説明」に、サービス・スキルの説明を入力します。
5.  を選択します。

サービス・スキルの削除 このタスクについて

サービス・スキルを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーで、「カタログ構成」>「サービス・スキル」を選択します。作業領域に、「サービス・スキル」ウィンドウが表示されます。
3. 該当するサービス・スキルを選択して、 を選択します。

サービスの複雑度の定義

提供サービス・アイテムおよび配送サービス・アイテムの設定時に、サービスの複雑度を定義できます。また、サービスの複雑度をアイテムのサービス・タイプに割り当てることもできます。すると、そのサービス・タイプが作業オーダーのサービスの複雑度を計算するのに使用されるようになります。

サービスの複雑度の作成 このタスクについて

サービスの複雑度を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーで、「カタログ構成」>「サービスの複雑度」を選択します。作業領域に、「サービスの複雑度」ウィンドウが表示されます。

3.  を選択します。「サービスの複雑度の詳細 (Service Complexity Level Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表3を参照してください。

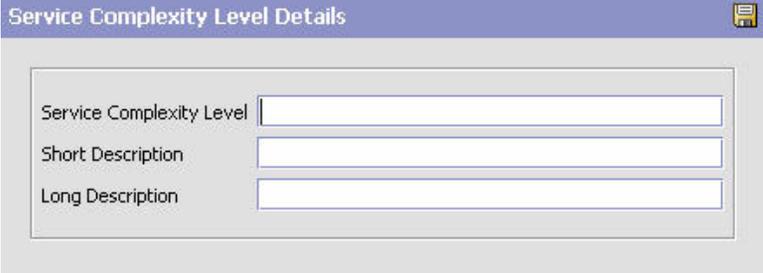


表3. 「サービスの複雑度の詳細 (Service Complexity Level Details)」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービスの複雑度	サービスの複雑度の名前を入力します。
簡略説明	サービスの複雑度の簡単な説明を入力します。
詳細説明	サービスの複雑度の詳細説明を入力します。

5.  を選択します。

サービスの複雑度の変更

このタスクについて

サービスの複雑度を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーで、「カタログ構成」>「サービスの複雑度」を選択します。作業領域に、「サービスの複雑度」ウィンドウが表示されます。
3. 該当するサービスの複雑度を選択して、 を選択します。「サービスの複雑度の詳細 (Service Complexity Level Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドの情報を編集します。詳しくは、表3を参照してください。
5.  を選択します。

サービスの複雑度の削除

このタスクについて

サービスの複雑度を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーで、「カタログ構成」>「サービスの複雑度」を選択します。作業領域に、「サービス・レベル」ウィンドウが表示されます。
3. 該当するサービスの複雑度を選択して、 を選択します。

アイテムのエイリアス・タイプの定義

アイテム、提供サービス、および配送サービスを構成するときに使用されるアイテムのエイリアス・タイプの共通コードを定義できます。エイリアス (alias) は、「アイテムの詳細」画面にフィールドとして表示されます。

以下に示すのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトのエイリアス・タイプです。

- UPC コード

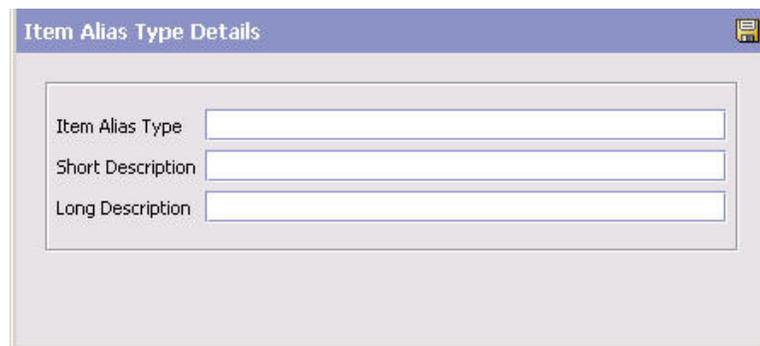
アイテムのエイリアス・タイプの作成

このタスクについて

アイテムのエイリアス・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アイテムのエイリアス・タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムのエイリアス」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「エイリアス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「アイテムのエイリアス・タイプ」に、使用するエイリアス・タイプの値を入力します。

重要: 「アイテムのエイリアス・タイプ」は、先頭を数字にしたり、スペースまたは特殊文字を使用したりすることはできません。

4. 「簡略説明」に、アイテムのエイリアス・タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、アイテムのエイリアス・タイプの詳細な説明を入力します。

6.  を選択します。

アイテムのエイリアス・タイプの変更

このタスクについて

アイテムのエイリアス・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテムのエイリアス・タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムのエイリアス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するエイリアス・タイプを選択して、 を選択します。「エイリアス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、アイテムのエイリアス・タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、アイテムのエイリアス・タイプの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アイテムのエイリアス・タイプの削除

このタスクについて

アイテムのエイリアス・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテムのエイリアス・タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムのエイリアス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテムのエイリアス・タイプを選択して、 を選択します。

注: デフォルトのアイテムのエイリアス・タイプは削除できません。

アイテム関連付けタイプの定義

アイテム、提供サービス、および配送サービスを構成するときに使用されるアイテム関連付けタイプの共通コードを定義できます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの関連付けタイプは、以下のとおりです。

- 関連製品販売
- 代替品
- 上位製品販売

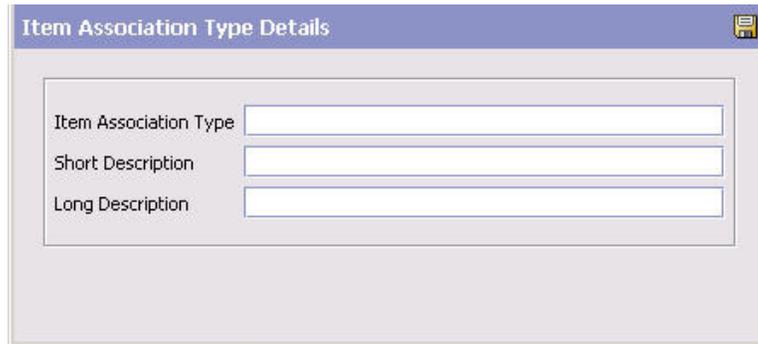
アイテム関連付けタイプの作成

このタスクについて

アイテム関連付けタイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アイテムの関連付けタイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムの関連付けタイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アイテム関連付けタイプの詳細 (Item Association Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「アイテムの関連付けタイプ」に、使用する関連付けタイプの値を入力します。
重要: アイテム関連付けタイプにはスペースも特殊文字も使用しないでください。
4. 「簡略説明」に、アイテム関連付けタイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、アイテム関連付けタイプの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

アイテム関連付けタイプの変更

このタスクについて

アイテム関連付けタイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アイテムの関連付けタイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムの関連付けタイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する関連付けタイプを選択して、 を選択します。「アイテム関連付けタイプの詳細 (Item Association Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、アイテム関連付けタイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、アイテム関連付けタイプの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アイテム関連付けタイプの削除

このタスクについて

アイテム関連付けタイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテムの関連付けタイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムの関連付けタイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム関連付けタイプを選択して、 を選択します。

注: デフォルトのアイテム関連付けタイプは削除できません。

アイテム除外コードの定義

アイテム、提供サービス、および配送サービスを構成するときに使用されるアイテム除外コードの共通コードを定義できます。準拠している商慣習で、特定の国へのアイテムの出荷が規制されている場合は、アイテム除外コードを設定することができます。例えば、特定の危険物を含むアイテムの出荷が禁止されている特定の国が配送先に含まれる場合は、その危険物を含む可能性があるすべてのアイテムに関連付けることができるアイテム除外コードを作成することができます。

注: デフォルトでは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation にアイテムの除外コードを処理するロジックは備わっていません。この機能は、アイテム除外コードを処理可能な外部システムに Sterling Selling and Fulfillment Foundation を統合できるようにするために用意されています。

以下に示すのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトのアイテム除外コードです。

- DEFAULT

アイテム除外コードの作成

このタスクについて

アイテム除外コードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム除外コード」を選択します。作業領域に、「アイテム除外コード」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アイテム除外コードの詳細 (Item Exclusion Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



Item Exclusion Code Details	
Item Exclusion Code	<input type="text"/>
Short Description	<input type="text"/>
Long Description	<input type="text"/>

3. 「アイテム除外コード」に、使用するアイテム除外コードの値を入力します。
4. 「簡略説明」に、アイテム除外コードの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、アイテム除外コードの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

アイテム除外コードの変更

このタスクについて

アイテム除外コードを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム除外コード」を選択します。作業領域に、「アイテム除外コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム除外コードを選択し、 を選択します。「アイテム除外コードの詳細 (Item Exclusion Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、アイテム除外コードの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、アイテム除外コードの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アイテム除外コードの削除

このタスクについて

アイテム除外コードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール of サイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」> 「アイテム除外コード」を選択します。作業領域に、「アイテム除外コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアイテム除外コードを選択し、 を選択します。

注: デフォルトのアイテム除外コードを削除することはできません。

カタログ・ルール

製品管理者が属性グループをカテゴリーおよび分類に割り当てるときに、属性グループの再定義を可能にするカタログ・ルールを定義できます。属性グループは属性ドメインのマスター・データを準備するときにいったん定義されますが、その後属性グループをカテゴリーおよび分類に割り当てるときに再定義することができます。属性グループを再定義するには、「属性グループの再定義」オプションを使用します。

また、ユーザー (user) が IBM Sterling Business Center アプリケーションからアイテムの詳細をプレビューできるようにするために、カタログ・ルールを定義できま

す。アイテムの詳細は、ユーザーの内部または外部 Web サイト上の画面に表示されます。そのため、ユーザーは、アイテムに加えた変更を動的に表示に反映させることができます。

カタログ・ルールの定義

このタスクについて

IBM Sterling Business Center アプリケーションからユーザーが属性グループの再定義およびアイテム詳細のプレビューを行うことができるようにするには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「カタログ・ルール」を選択します。「カタログ・ルール」ウィンドウが作業領域に表示されます。



2. 「属性グループの再定義」を選択して、属性グループをマスター・カタログ内のカテゴリに割り当てるときにユーザーが属性グループを再定義できるように指定します。
3. 「IBM Sterling Business Center からのアイテム詳細のプレビューを許可する」を選択して、IBM Sterling Business Center アプリケーションからユーザーがアイテム詳細をプレビューできるように指定します。
4. 「検索ファセットに表示する属性値の割り当て数」で、catalogSearch() API によってファセット・リストを使用して返すことのできる、属性当たりの最大割り当て値数を指定します。このオプションを使用して、カタログ検索の実行時に表示される値の数を制限します。デフォルトでは、割り当てられる属性値の数は 8 に制限されています。
5.  を選択します。

アセットの定義

以下を作成することによって、アセットを定義します。

- アセット・タイプの共通コード
- アセットのコンテンツ・ロケーション

アセットは、電子メディア・オブジェクトであり、アイテム、カテゴリ、属性、および許容される属性値と関連付けます。アセット・タイプには、画像、ビデオ、オーディオ、およびテキスト・ファイルが含まれます。

アセット・タイプの共通コードを定義するほか、アセットのコンテンツ・ロケーションを指定する必要があります。一般的に、アセットは外部システムにあるデジタ

ル・ベースのオブジェクトです。例えば、オンライン・カタログを通じて販売するアイテムに画像ファイルを割り当てて、オンラインの顧客がそれらのアイテムの写真を見られるようにすることができます。この場合、画像ファイルのコンテンツ・ロケーションを指定する必要があります。コンテンツ・ロケーションは、画像ファイルのロケーションを示すパスです。

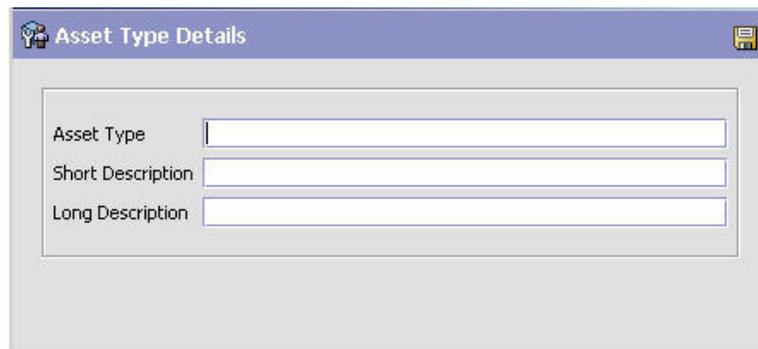
ユーザーが、エンタープライズ・アセット・タイプまたはコンテンツ・ロケーションのいずれかとハブ (hub) を定義すると、その 2 つの組み合わせがエンタープライズ・レベルで使用されます。

アセット・タイプの作成 このタスクについて

アセット・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アセット」>「アセット・タイプ」を選択します。作業領域に、「アセット・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アセット・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「アセット・タイプ」に、使用するアセット・タイプの値を入力します。

注: イメージに対してアセット・タイプを定義し、IBM Sterling Business Center の管理者が IBM Sterling Business Center から対応するイメージをプレビューできるようにするには、アセット・タイプの値が「Image」で始まるようにします。例えば、小さいイメージに対してアセット・タイプを定義している場合は、アセット・タイプの値を「Imagesmallpicture」や「Image_small」と指定できます。

4. 「簡略説明」に、アセット・タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、アセット・タイプの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

アセット・タイプの変更 このタスクについて

アセット・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アセット」>「アセット・タイプ」を選択します。作業領域に、「アセット・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアセット・タイプを選択して、 を選択します。「アセット・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、アセット・タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、アセット・タイプの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アセット・タイプの削除 このタスクについて

アセット・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

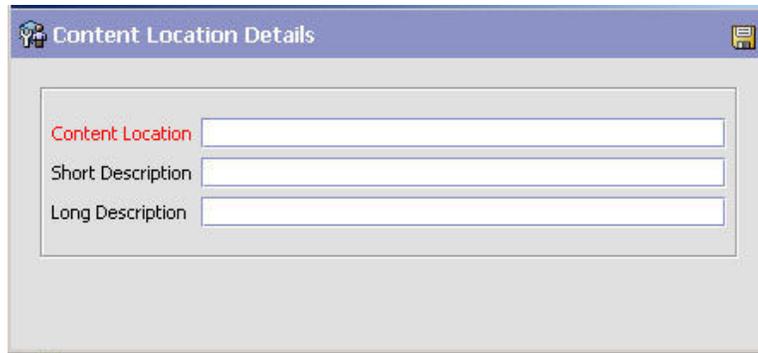
1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アセット」>「アセット・タイプ」を選択します。作業領域に、「アセット・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するアセット・タイプを選択して、 を選択します。

アセット・コンテンツ・ロケーションの作成 このタスクについて

アセット・コンテンツ・ロケーションを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アセット」>「コンテンツ・ロケーション」を選択します。作業領域に、「コンテンツ・ロケーション」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「コンテンツ・ロケーションの詳細 (Content Location Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「コンテンツ・ロケーション」に、使用するコンテンツ・ロケーションの値を入力します。
4. 「簡略説明」に、コンテンツ・ロケーションの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、コンテンツ・ロケーションの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

アセット・コンテンツ・ロケーションの変更 このタスクについて

アセット・コンテンツ・ロケーションを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アセット」>「コンテンツ・ロケーション」を選択します。作業領域に、「コンテンツ・ロケーション」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するコンテンツ・ロケーションを選択して、 を選択します。「コンテンツ・ロケーションの詳細 (Content Locations Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、コンテンツ・ロケーションの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、コンテンツ・ロケーションの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アセット・コンテンツ・ロケーションの削除 このタスクについて

アセット・コンテンツ・ロケーションを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「カタログ構成」>「アセット」>「コンテンツ・ロケーション」を選択します。作業領域に、「コンテンツ・ロケーション」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するコンテンツ・ロケーションを選択して、 を選択します。

第 4 章 製品の構成

アイテムとは、オーダー、出荷、および返品が可能な物理的単位です。アイテムは、アイテム ID と単位 (unit of measure) によって一意的に定義されます。アイテム、単位、マスター・カタログ (master catalog)、カテゴリ、分類、および追加アイテム属性を構成できます。アイテム在庫ルールの構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。アイテム・ソーシング・ルールの構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

アイテムの定義

アイテムは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用可能なアイテムの作成、およびそれらの固有属性の定義に使用されます。

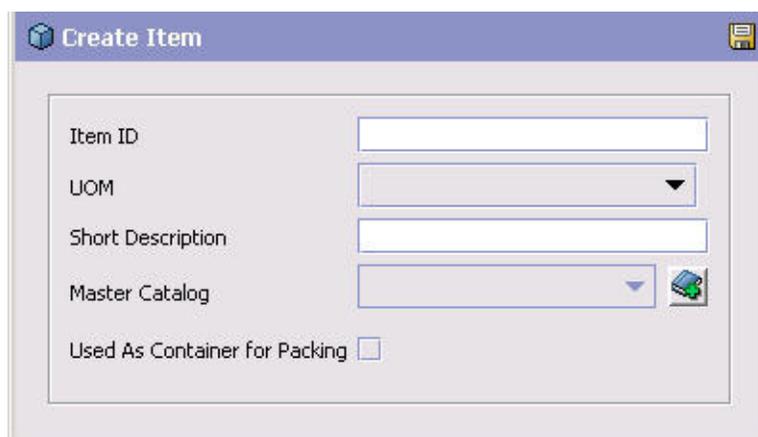
アイテムの作成

このタスクについて

アイテムを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム」を選択します。作業領域に、「アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アイテムの作成」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、46 ページの表 4 を参照してください。
4.  を選択します。



The screenshot shows a 'Create Item' dialog box with the following fields:

- Item ID: [Text input field]
- UOM: [Dropdown menu]
- Short Description: [Text input field]
- Master Catalog: [Dropdown menu with a globe icon]
- Used As Container for Packing:

表4. 「アイテムの作成」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム ID	製品 ID を入力します。
単位	アイテムに関連付ける数量単位を選択します。 注: 単位により、そのアイテム ID は固有のものとなります。 例えば、米国のノードおよびカナダのノードから同じアイテム ID を持つ同じアイテムを販売する際に、米国が単位にポンド、カナダがキログラムを使う場合、アイテム ID に関連付けられるこの 2 つの単位は、システム内では 2 つの固有のアイテムを作成することになります。
簡略説明	アイテムの簡単な説明を入力します。
マスター・カタログ	このアイテムが属するマスター・カタログを選択します。マスター・カタログは、組織のアイテムの包括的なリストです。マスター・カタログの構成については、95 ページの『マスター・カタログの定義』を参照してください。
梱包の容器として使用	このアイテムが容器であることを示す場合に選択します。78 ページの『アイテムの容器属性の定義』を参照してください。

注: 危険物データを作成または変更するためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースは提供されていません。危険物情報をアイテムと関連付けるために、危険物コンプライアンスのソート順を製品の危険物クラスとして定義し、そのクラスにアイテムを関連付けてください。つまり、危険物コンプライアンスのソート順はアイテムの危険物クラスでなければなりません。

アイテムの変更

このタスクについて

アイテムを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」>「アイテム」を選択します。「アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「アイテム・リスト」が表示されます。
3. 該当するアイテムを選択して、 を選択します。「アイテムの詳細」ウィンドウが表示されます。

アイテムの主要情報の定義

このタスクについて

アイテムの主要情報では、アイテムについての一般情報を提供します。

これらの属性の一部は、分類レベルでも指定できます。継承可能な属性の表示について詳しくは、59 ページの『継承可能な属性の表示』を参照してください。

共通アイテム属性の定義について詳しくは、108 ページの『分類値の共通アイテム属性の定義』を参照してください。

アイテムの主要情報を設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「主要情報」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表5を参照してください。

表5. 「主要情報」タブ

フィールド	説明
マスター・カタログ	アイテムを含めるマスター・カタログを選択します。
バリエーションがあるアイテム	バリエーションがあるアイテムの場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。すると、「子アイテム」タブが表示されるようになります。 注: バリエーションのあるアイテムをバンドルに追加すると、オーダーの作成中およびオーダー・プロセスの変更中にエラーがスローされます。
簡略説明	アイテムの簡単な説明を入力します。
キット・コード	アイテムがキット・アイテムである場合は、それが物理キット、バンドル、または動的物理キット (dynamic physical kit) のいずれであるかを選択します。 物理キットは、単一アイテムとして保守されます。 動的物理キットには、ノードで付加価値サービス (value-added services) を実行する必要がある場合がある個別のキット・アイテムが含まれます。動的物理キットを選択すると、「利用可能なサービス」タブで「他のサービス」タブが使用可能になります。このタブで、キット化 (kitting) およびキット化解除サービスを選択して、キットの作成に適した作業オーダーを作成できます。 バンドルには、アイテム、サービス、および他のバンドルを含めることができます。バンドルをキット・コードとして選択すると、「コンポーネント」タブが使用可能になります。「コンポーネント」タブでは、製品の詳細を入力できます。「論理キット機能を有効にする」チェック・ボックスにチェック・マークを付けると、ドロップダウン・リストに論理キットがリストされます。チェック・マークを付けない場合は、物理キット、動的物理キット、およびバンドルのみがリストに表示されます。 注: アイテムのキット・コードを選択すると、追加の「コンポーネント」タブが「アイテムの詳細」ウィンドウに表示されます。 注: アイテムのキット・コードを変更した場合は、キットのコンポーネント・リストをチェックして、変更内容が正しいことを確認してください。
説明	アイテムの詳細な説明を入力します。

表 5. 「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
GTIN	アイテムの国際取引商品コード (GTIN) を入力します。GTIN は、製品の識別情報に関する、進化しつつある標準です。Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、定義間の相互参照に GTIN が使用されます。カタログ組織の定義について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i> 」を参照してください。
GTIN 製造業者の接頭辞の長さ	GTIN で指定した製造業者の接頭辞の長さ。
ステータス	アイテムを使用不可にするには、「保留」を選択します。このようなアイテムは Sterling Selling and Fulfillment Foundation API によって処理できます。 API で UI を使用してアイテムを処理できるようにするには、「公開済み」を選択します。
コスト通貨	アイテムのコストに関して使用される通貨 (ユーロやドルなど)。
最小オーダー数量	アイテムをオーダー可能な最小数量を入力します。 注: このフィールドには、関連付けられているロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に従って構成することができます。
最大オーダー数量	アイテムをオーダー可能な最大数量を入力します。 注: このフィールドには、関連付けられているロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に従って構成することができます。
単価	アイテムのコストを入力します。すべての循環棚卸は、アイテムのユニット・コストに基づきます。
計算したコスト	アイテムの計算したコスト。
サイズ・コード	アイテムのサイズ・コードを入力します。
色分け	アイテムの色分けを入力します。
課税対象	アイテムが課税される場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
サービス・ツールとして作業オーダーへの追加が可能	アイテムを作業オーダーでサービス・ツールとして使用できるようにするには、このボックスにチェック・マークを付けます。この場合でも、サービス・ツールは通常アイテムとして機能し、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内でこの在庫を調整および追跡できます。また、アイテムは、リソース (resource) が作業オーダーのサービスを実行するために使用することのできるツールとして、作業オーダーと関連付けることもできます。
ソース	
製造業者の名前	アイテムを製造した製造業者の名前を入力します。
製造業者のアイテム	アイテムを識別するために製造業者が使用する ID を入力します。
製造業者のアイテムの説明	製造業者がアイテムに対して使用する説明を入力します。

表 5. 「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
原産国	 をクリックし、原産国または原産地を選択します。
返品物流	
返品可能	バイヤーがアイテムを返品できる場合は、「はい」を選択します。
返品期間日数	アイテムの受入から何日以内であればバイヤーがアイテムを返品可能であるかを入力します。
返品出荷ラベルは不要	返品出荷ラベルが不要の場合、このオプションを選択します。 「返品可能」ドロップダウン・リストから「はい」を選択する場合のみ、このオプションを選択できます。
SKU レベルで返品出荷ラベルが必要	容器に梱包されている各単位のアイテムに対して返品出荷ラベルが必要な場合、このオプションを選択します。 「返品可能」ドロップダウン・リストから「はい」を選択する場合のみ、このオプションを選択できます。
パッケージ・レベルで返品出荷ラベルが必要	アイテムが梱包されている各容器に対して返品出荷ラベルが必要な場合、このオプションを選択します。 「返品可能」ドロップダウン・リストから「はい」を選択する場合のみ、このオプションを選択できます。
領収書のないクレジット	バイヤーがアイテムを返品する前に返金を受け取ることができる場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
追加説明	あらゆるメモや取扱指示などの、アイテムに関する詳細な説明を入力できます。 構成したロケール (locale) の複数の言語で説明を入力するには、「ローカライズ」ボタンを選択します。 注: 拡張されたアイテムの説明を入力する前に、すべてのロケール構成を完了する必要があります。ロケールの構成について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

アイテムの単位の定義

このタスクについて

出荷や保管を目的として、アイテムの重量と寸法を指定することができます。アイテムの代替価格設定およびオーダー単位も構成できます。

アイテムの寸法を設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「単位」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、50 ページの表 6を参照してください。

Other Attributes Associations Node Items Available Services Item Instructions

Primary Info Units Of Measure Inventory Info Classifications

Unit Dimensions

Weight 0 Weight UOM

Length 0 Length UOM

Width 0 Width UOM

Height 0 Height UOM

Volume 0.00 Volume UOM

Pricing

Pricing UOM Is Different From Inventory UOM

Pricing UOM Default Pricing UOM Conversion Factor 0

Alternate UOMs

UOM	Quantity	Ordering UOM
Results 0 Of 0		

表6. 「単位」タブ

フィールド	説明
重量	アイテムの重量を数値で入力し、「重量単位」でその単位 (例: ポンド) を選択します。
長さ	アイテムの長さを数値で入力し、「長さの単位」でその単位 (例: インチ) を選択します。
幅	アイテムの幅を数値で入力し、「幅の単位」でその単位 (例: インチ) を選択します。
高さ	アイテムの高さを数値で入力し、「高さの単位」でその単位 (例: インチ) を選択します。
価格設定	
価格設定単位が在庫単位と異なる	このアイテムの価格設定の計算で使用される単位が、実際の在庫アイテムに関連付けられている単位と異なる場合は、「価格設定単位が在庫単位と異なる」を選択します。例えば、「リンゴ」というアイテムを作成しているとします。「リンゴ」の在庫および販売の単位は「ケース」だとします。ただし、価格は各ケースの重量によって決定します。この場合は、おそらく、「リンゴ」というアイテムの在庫単位に「ケース」が割り当てられ、価格設定単位に「重量」が割り当てられることとなります。
価格設定単位	「価格設定単位が在庫単位と異なる」を選択した場合、このアイテムの価格設定に使用する単位を選択します。

表 6. 「単位」タブ (続き)

フィールド	説明
デフォルトの価格設定単位 変換係数	在庫単位から価格設定単位への変換率を入力します。例えば、アイテム「リンゴ」の在庫単位が「ケース」で、価格設定単位が「ポンド」だとします。この場合は、リンゴの在庫があり、1 ケースあたり 10 ポンドで販売されるのであれば、変換係数として「10」と入力します。
代替単位	定義するアイテム ID と単位の組み合わせで使用される代替単位のリスト。代替オーダー単位について詳しくは、『アイテムへの代替単位の追加』を参照してください。
単位	単位。
数量 (Quantity)	在庫単位から代替単位への変換率。
オーダー単位	販売環境でこの単位が使用できることを示します。

注: 「代替単位」画面でケースまたはパレットに対して指定された容積は、パック・プロセスで超過梱包が必要かどうかを決定するうえで考慮されます。ケースまたはパレットの容積が「梱包方法」画面で定義された容積より小さい場合、容器は超過梱包になります。

アイテムへの代替単位の追加: このタスクについて

固有のアイテム ID と単位の組み合わせを複数の方法でパッケージ化できるアイテムの作成が必要となる場合があります。この場合、販売環境で使用できる代替のオーダー単位を作成することができます。

例えば、ペン 6 本入りパックに対して、固有のアイテム ID と単位の組み合わせを作成するとします。ただし、販売環境ではこのアイテムを 3 つの方法 (個別、ケースごと、パレット (pallet) ごと) のいずれかで販売するとします。この場合は、6 本入りパックの在庫単位に関連付ける 3 つの代替単位を作成することができます (6 本入りパック、ケース、およびパレット)。

代替単位を追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「単位」タブで、「代替単位」表から  を選択します。「代替単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、52 ページの表 7 を参照してください。
3.  を選択します。

表7. 「代替単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
代替単位 (Alternate UOM)	使用する代替単位を選択します。
在庫単位への変換数量	在庫単位から代替単位への変換数量を入力します。例えば、在庫単位が「個」のアイテムに対し、「ダース」という代替単位を構成しようとしているとします。12 個の「個」によって 1 つの「ダース」が構成されます。この場合は、変換数量に「12」と入力します。 重要: このフィールドは、実装の初めに構成してください。オーダーがシステム内に存在するようになってからは、このフィールドを変更しないでください。
正のパッケージ許容数量	本リリースではこのフィールドは使用されません。
負のパッケージ許容数量	本リリースではこのフィールドは使用されません。
この単位を使用してオーダー可能	販売環境で特定のアイテム ID と単位の組み合わせに対してこの単位を使用できる場合は、「この単位を使用してオーダー可能」を選択します。
ユニットの寸法	
重量	単位の重量を入力します。
長さ	単位の長さを入力します。
幅	単位の幅を入力します。
高さ	単位の高さを入力します。

アイテムの代替単位の変更: このタスクについて

アイテムの代替単位を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「単位」タブ内の「代替単位」テーブルで、該当する代替単位を選択して、 を選択します。「代替単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、52 ページの表 7 を参照してください。
3.  を選択します。

アイテムの代替単位の削除: このタスクについて

アイテムの代替単位を削除するには、「代替単位」テーブルから該当する単位を選択して、 を選択します。

アイテムのソーシングおよび輸送情報の定義

アイテムがソーシングおよび輸送されるときに、それらのアイテムがどのようにモニターおよび処理されるかを決定する、アイテムのソーシングおよび輸送情報の属性を構成できます。

これらの属性の一部は、分類レベルでも指定できます。継承可能な属性の表示について詳しくは、59 ページの『継承可能な属性の表示』を参照してください。

共通アイテム属性の定義について詳しくは、108 ページの『分類値の共通アイテム属性の定義』を参照してください。

アイテムのソーシング (sourcing) および輸送情報を設定するには、次の手順を実行します。

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「ソーシングおよび輸送情報 (Sourcing and Transportation Info)」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、54 ページの表 8 を参照してください。
3.  を選択します。

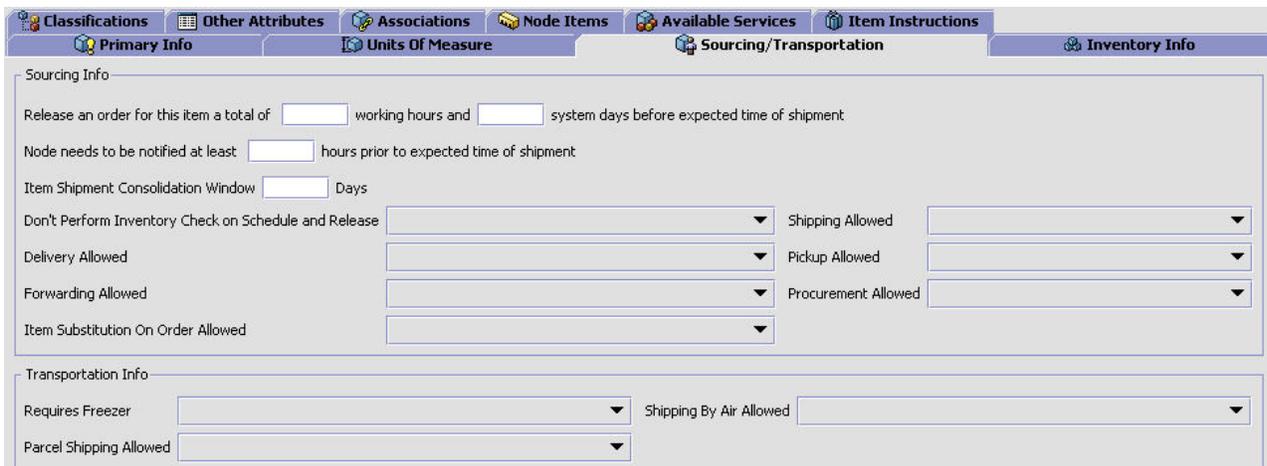


表 8. ソーシング情報および輸送情報 (アイテムの詳細)

フィールド	説明
ソーシング情報	
このアイテムのオーダーを、出荷予定日時より合計<時間数> 時間 (作業時間) と <日数> 日 (システム日数) 前にリリースする	このアイテムに対するオーダーを出荷予定日時の前にリリースする必要のある合計の作業時間数とシステム日数を入力します。
出荷予定日時の少なくとも<時間数> 時間前にノードに通知する必要がある	出荷予定日時の前にノードに通知する必要のある最小時間数を入力します。
アイテム出荷集約期間 <日数> 日	アイテムが使用可能になった後、他のアイテムと集約するためにアイテムの出荷を遅らせることが可能な日数を入力します。
スケジュール時およびリリース時に在庫チェックを実行しない	「スケジュールおよびリリース」プロセスで在庫チェックを実行するかどうかを指定します。
出荷許可	出荷が許可されるかどうかを指定します。オプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - はい、出荷は許可されます • M - 配達不可の場合にのみ許可されます • N - いいえ、出荷は許可されません
配達許可	配達が許可されるかどうかを指定します。オプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - はい、配達は許可されます • M - 他にも配達するものがある場合にのみ許可されます • N - いいえ、配達は許可されません
ピックアップ許可	ピックアップが許可されるかどうかを指定します。
フォワーディング許可	フォワーディングが許可されるかどうかを指定します。
調達許可	調達が許可されるかどうかを指定します。
オーダーでのアイテム代替許可	アイテムの代替品が許可されるかどうかを指定します。
輸送情報	
要冷凍庫	輸送中にアイテムを冷凍庫で保管する必要があるかどうかを指定します。
航空便利用可能	アイテムを航空便で出荷できるかどうかを指定します。
小包出荷利用可能	アイテムの転送において小包の出荷が許可されるかどうかを指定します。

アイテム在庫情報

全体の在庫図に対して、アイテムの在庫をどのようにモニターおよび処理するかを決定する、アイテムの在庫情報の属性を構成できます。全体の在庫図は、Application Console のユーザーにアイテムの在庫および需要に関する情報を提供します。この情報は、アイテムの処理にかかる時間、また、該当する場合、アイテムが期限切れになるまでの時間を判断するために使用することもできます。

アイテムをタグで管理するかどうかも決定できます。タグ番号は、使用する在庫 ID 番号 (例えば、ロット番号 (lot number) や改訂番号など) にかかわらずアイテムをシステム内で一意的に識別するために使用します。「アイテム・インスタンス」は異なる特性を持っているため、在庫 ID 番号は在庫内のアイテムを物理的かつ系統的に区別するために使用されます。ID 番号の一般的な例には、ロット番号、改訂番号、製造バッチ番号などがあります。

組織は複数の在庫 ID 番号を持つことができますが、これらの ID 番号は、組織のカタログにあるすべての製品に対して必ずしも関連性がある必要はありません。一部の製品はロット番号によってすべての特性が一意に定義され、また別のアイテムでは改訂番号によって区別されます。在庫タグ番号は、これらのさまざまな状況の合理化を図るために使用します。ほとんどの場合、タグ番号はアイテムに基づくロット番号、バッチ番号、または改訂番号などの在庫 ID 番号のいずれかを表します。

例えば、ロット番号によって一意に定義されているアイテム A と、改訂番号によって一意に定義されているアイテム B の、2 つの異なるアイテムがあるとします。この場合、アイテム A のインスタンスがロット番号 12345 で作成されると、タグ番号 12345 も割り当てられます。アイテム B のインスタンスが改訂番号 98765 で作成されると、アイテムにはタグ番号 98765 も割り当てられます。

これらの属性の一部は、分類レベルでも指定できます。継承可能な属性の表示について詳しくは、59 ページの『継承可能な属性の表示』を参照してください。

共通アイテム属性の定義について詳しくは、108 ページの『分類値の共通アイテム属性の定義』を参照してください。

アイテムの在庫情報の定義:

このタスクについて

アイテムの在庫情報を設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「在庫情報」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、56 ページの表 9 を参照してください。

<input type="checkbox"/> Time Sensitive		Default Expiration Days <input type="text" value="0"/>	
ATP Rule <input type="text"/>	<input type="button" value="..."/>	ATP Monitor Rule <input type="text"/>	<input type="button" value="..."/>
Node Level ATP Monitor Rule <input type="text"/>	<input type="button" value="..."/>	Default Product Class <input type="text"/>	<input type="button" value="..."/>
Track FIFO in Inventory <input type="text"/>	<input type="button" value="..."/>	Lead Days <input type="text"/>	
Future Safety Factor Percentage <input type="text"/>		Primary Supplier <input type="text"/>	<input type="button" value="..."/>
<input checked="" type="radio"/> Onhand Safety Factor Percentage <input type="text"/>		<input type="radio"/> Onhand Safety Factor Quantity <input type="text"/>	
<input type="checkbox"/> Serial Tracked		<input type="checkbox"/> Serialized	
Number Of Secondary Serials <input type="text" value="0"/>			
Item Based Allocation Allowed <input type="text" value="Yes"/>	<input type="button" value="..."/>	Use Unplanned Inventory <input type="text"/>	<input type="button" value="..."/>
Tag Controlled			
<input checked="" type="radio"/> Not Tag Controlled <input type="radio"/> Sometimes Tag Controlled <input type="radio"/> Always Tag Controlled			

表9. 「在庫情報」タブ

フィールド	説明
時間依存 (Time Sensitive)	<p>アイテムが痛みやすく、特定の出荷期限がある場合は、「時間依存」を選択します。</p> <p>時間依存アイテムに対して出荷期限が指定されていない場合:</p> <p>正の調整の場合、出荷期限は「システム日付」 + 「デフォルトの有効期限」の値として計算され、「供給」が増えます。負の調整の場合、システムは使用期限が切れるものから先出し (FEFO) で供給を減らします。在庫数量が不足している場合は、負の数の新規供給レコードが 01/01/2500 付けで作成されます。例えば、FEFO が許可され、出荷期限が入力されていない場合、40 の供給レコードが在庫にあるときにユーザーが在庫を 50 減らそうと試みると、システムはこの供給をゼロにまで減らして、別の供給レコードを数量 -10、出荷期限 01/01/2500 で作成します。</p> <p>注: (Sterling Warehouse Management System に該当) 出荷期限は自動的に計算されません。入力で渡される必要があります。</p>
デフォルトの有効期限	<p>アイテムが受け入れられた後、そのアイテムが使用可能な日数を入力します。この期間を過ぎると、アイテムは使用可能な在庫とは見なされなくなります。</p> <p>例えば、バラを販売していて、受け入れてから 3 日後に使用期限が切れることがわかっている場合は、「3」と入力します。</p>

表9. 「在庫情報」タブ (続き)

フィールド	説明
ATP ルール	このアイテムに対して使用する ATP ルールを選択します。ATP ルールで定義されているパラメーターは、このアイテムの使用可能な在庫を決定するために使用されます。ATP ルールについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド</i> 」を参照してください。 注: ATP ルールを選択しない場合は、システムのデフォルトの ATP ルールが使用されます。
ATP モニター・ルール	このアイテムに対して使用する在庫モニター・ルールを選択します。このアイテムの最小在庫レベルは、選択した ATP モニター・ルールに設定されているパラメーターに基づきます。ATP モニター・ルールについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド</i> 」を参照してください。
ノード・レベルの ATP モニター・ルール	このアイテムに対して使用するノード・レベルの在庫モニター・ルールを選択します。このアイテムの最小在庫レベルは、選択した ATP モニター・ルールに設定されているパラメーターに基づきます。ATP モニター・ルールについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド</i> 」を参照してください。
デフォルトの製品クラス (Default Product Class)	商慣習に基づいて構成した製品分類があれば、選択します。製品クラスについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i> 」を参照してください。
在庫の FIFO 追跡	先入れ先出し (FIFO) の数値を使用して在庫の需要を追跡する必要があることを示します。 FIFO の数値は、システムによって自動的に生成されます。
リード日数	アイテムを調達し、出荷できるようになるまでに要する時間 (日数) を入力します。
将来の安全係数率	このアイテムの、将来の在庫状況から除外する在庫の割合を入力します。
主要サプライヤー	このアイテムの主要サプライヤーを入力します。
手持ちのセーフティー要因率	このオプションを選択して、このアイテムの、手持ちの在庫状況から除外する在庫の割合を入力します。 このオプションを選択した場合は、「手持ちのセーフティー要因の数量」は指定できません。
手持ちのセーフティー要因の数量	このオプションを選択して、このアイテムの、手持ちの在庫状況から除外する在庫の数量を入力します。 このオプションを選択した場合は、「手持ちのセーフティー要因率」は指定できません。
いずれかのセーフティー要因の値 (数量または割合) がアイテムの分類から得られても、手持ちのセーフティー要因の値 (数量または割合) がアイテム・レベルで指定されている場合、 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> ではアイテム・レベルで指定された値が常に使用され、アイテムの分類から値が継承されることはありません。	

表9. 「在庫情報」タブ (続き)

フィールド	説明
シリアル追跡 (Serial Tracked)	Sterling Warehouse Management System のシリアル番号 (serial number) によるロケーション・レベルでの追跡を有効にするには、「シリアル追跡」を選択します。
シリアル番号付け	出庫 (outbound) および返品のプロセスでシステムによりシリアル番号が確実に取り込まれるようにするには、「シリアル番号付け」を選択します。
2 次シリアルの数	シリアル番号での追跡に使用する 2 次シリアル番号の数字 (0-9) を入力します。
アイテム・ベースの割り当て許可	ドロップダウン・リストから選択されたアイテムに対してアイテム・ベースの割り当てを許可するには、このオプションを選択します。「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールが有効である場合、アイテム・ベースの割り当ては、アイテム・ベースの割り当て許可属性が有効となっているアイテムおよびノードに対してのみ適用することができます。アイテム・ベース割り当てについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き</i> 」を参照してください。
未定在庫の使用	このアイテムの未定在庫を使用できるようにするには、このオプションを選択します。 この構成は、アイテム分類から継承することもできます。詳しくは、『 <i>分類定義の定義</i> 』を参照してください。
タグ管理	
タグ管理していない	システムでこのアイテムを一意に識別するためにタグ番号を使用しない場合は、「タグ管理していない」を選択します。
タグ管理の場合あり	顧客によるピックアップなどの特別な状況でアイテムを識別するために、タグ番号を割り当てることができるようにするには、「タグ管理の場合あり」を選択します。
常にタグ管理	システムでこのアイテムの異なるインスタンスを一意に識別するために常にタグ番号が使用されるようにするには、「常にタグ管理」を選択します。
タグ ID	
	「タグ管理の場合あり」または「常にタグ管理」のいずれかが選択されたときにこの表が表示されます。この表で、アイテムのタグ ID として使用される 1 つ以上の属性を選択します。 タグ ID の組み合わせによって、システムがタグ管理アイテムを識別するために使用するタグ番号が生成されます。
タグ属性	

表9. 「在庫情報」タブ (続き)

フィールド	説明
	<p>「タグ管理の場合あり」または「常にタグ管理」のいずれかが選択されたときにこの表が表示されます。この表で、アイテムのタグ記述子として使用される 1 つ以上の属性を選択します。</p> <p>タグ属性はタグ番号を生成しません。これらの属性は情報目的に使用され、チェックを付けた属性のみが「アプリケーション・コンソール UI (Application Console UI)」に表示されます。</p>

継承可能な属性の表示

このタスクについて

「ソーシング情報」、「輸送情報」、「在庫情報」、および「拡張属性」ウィンドウ上の一部の属性は、分類レベルで共通アイテム属性として指定できます。共通アイテム属性の定義について詳しくは、108 ページの『分類値の共通アイテム属性の定義』を参照してください。

継承可能な属性を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

「アイテムの詳細」ウィンドウで、 を選択します。「継承可能な属性」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

Inheritable Attributes			
Name	Value	Classification Path	Is Inherited
Onhand Safety Factor Quantity	10.0	/Class1/CV1	N
ATP Monitor Rule	new	/Class1/CV1	N
ATP Rule	DEFAULT	/Class1/CV1	Y

表10. 「継承可能な属性」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
名前	属性の名前。
値	分類レベルで属性に対して指定される値。
分類パス	このパスは、共通アイテム属性が指定されている分類のロケーションを示します。
継承されている	この属性の値がこのアイテムに対して継承されているかどうかを示します。

アイテムの分類の定義

このタスクについて

アイテムの出荷に必要なコードおよび分類を設定できます。この画面内のフィールドにはフリー・フォームのテキストを入力することができるほか、フィールド値を

事前定義の値のリストから選択できるように分類階層を作成することもできます。分類および分類階層については、101 ページの『分類の定義』を参照してください。

アイテムの分類を設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「分類」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 11 を参照してください。

表 11. 「分類」タブ

フィールド	説明
標準分類	
統一コード (Harmonized Code)	アイテムの統一コードを入力します。分類目的が目的定義「統一コード」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。

表 11. 「分類」タブ (続き)

フィールド	説明
スケジュール B コード	アイテムのスケジュール B コードを入力します。分類目的が目的定義「スケジュール B コード」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
商品コード (Commodity Code)	アイテムの商品コードを入力します。分類目的が目的定義「商品コード」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
NMFC コード (NMFC Code)	アイテムの National Motor Freight Code (NMFC) を入力します。分類目的が目的定義「NMFC コード」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
ECCN 番号 (ECCN Number)	アイテムの輸出規制品目分類番号 (ECCN) を入力します。分類目的が目的定義「ECCN 番号」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
NAICS コード (NAICS Code)	アイテムの North American Industry Classification System (NAICS) コードを入力します。分類目的が目的定義「NAICS コード」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
UNSPSC (UNSPSC)	アイテムの United Nations Standard Product and Services Code (UNSPSC) を入力します。分類目的が目的定義「UNSPSC」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
NMFC クラス (NMFC Class)	アイテムの National Motor Freight Code (NMFC) クラスです。
課税製品コード	アイテムの課税製品コードを入力します。
コスト計上分類	アイテムのコスト計上分類です。
危険物クラス (Hazardous Material Class)	アイテムの危険物クラスを入力します。分類目的が目的定義「危険物クラス」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
危険物を含むアイテムかどうか (Is Hazardous Item)	危険物クラスが危険物コンプライアンス・エントリーとして有効な場合、  をクリックすると、アイテムが危険物であることを示すためにこのチェック・ボックスが自動的に選択されます。 必要に応じて、チェック・ボックスを選択します。
モデル	アイテムの型式番号を入力します。

表 11. 「分類」タブ (続き)

フィールド	説明
組織の分類	
アイテム明細 (Product Line)	ユーザーの商慣習に従った製品明細を入力します。分類目的が目的定義「製品明細」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
アイテム・タイプ (Item Type)	ユーザーの商慣習に従ったアイテム・タイプを入力します。分類目的が目的定義「アイテム・タイプ」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
運用の分類	
保管タイプ (Storage Type)	アイテムの保管コードを入力します。保管コードは、特定の場所での保管、または倉庫内での特別な方法による保管が必要とされるアイテムに対する、任意の特別属性を示します。分類目的が目的定義「保管タイプ」に対して定義済みの場合は、  アイコンが表示されます。そのアイコンをクリックすると、バインド先の分類の定義が表示されます。
ピッキング・タイプ (Picking Type)	本バージョンではこのフィールドは使用されません。
アイテム回転コード (Velocity Code)	アイテムの製品回転コードを入力します。アイテム回転コードは、倉庫内でのアイテムの回転率を示します。
操作の構成が完了	本バージョンではこのフィールドは使用されません。
危険物情報	このパネルは、「危険物クラス」フィールドに値が入力されており、かつ「危険物」チェック・ボックスが選択されている場合に表示されます。 「危険物クラス」フィールドに入力されている値が有効な場合、「危険物情報」パネルは値が入力された状態で表示されます。 「危険物クラス」フィールドに入力されている値が無効な場合、「危険物情報」パネルは値が空白の状態で表示されます。
記号	危険物の危険物記号を示します。
適切な出荷名 (Proper Shipping Name)	危険物の適切な出荷名または説明。
危険物クラス (Hazard Class)	製品の危険物クラス。
UN 番号 (UN Number)	これは、商業的重要性がある危険物 (爆発物や毒物など) を識別する 4 桁の番号です。この番号付け方式は国際通商で幅広く使用されています。これは例えば、出荷容器の内容のラベル付けをするために使用されます。
梱包グループ (Packing Group)	危険物のその危険物クラスまたは区分内の危険性の程度、およびその製品に必要なパッケージのタイプを示します。有効値は、「梱包グループ I (Packing Group I)」 - 危険度高、「梱包グループ II (Packing Group II)」 - 危険度中、「梱包グループ III (Packing Group III)」 - 危険度低です。

表 11. 「分類」タブ (続き)

フィールド	説明
ラベル・コード (Label Code)	危険物のラベル・コード。
特別備蓄 (Special Provisions)	危険物の出荷用に備えられている特別備蓄。
例外	危険物の出荷用の梱包例外。

アイテムの追加属性の定義

このタスクについて

「カタログ構成」で作成された追加属性を設定できます。エイリアスおよびアイテム除外コードを構成することもできます。

アイテムの追加属性を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「他の属性」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、64 ページの表 12を参照してください。

The screenshot displays the 'Other Attributes' tab in a software application. The interface is organized into several sections:

- Additional Attributes:** Contains two input fields labeled 'Attr2' and 'Reference'.
- Aliases:** Contains one input field labeled 'UPC Code'.
- Item Exclusion Codes:** This section contains two lists:
 - Available:** A list box containing the item 'DEFAULT'.
 - Subscribed:** An empty list box.
 Between these two lists are two arrow buttons: a right-pointing arrow (→) and a left-pointing arrow (←), used for moving items between the 'Available' and 'Subscribed' categories.

表 12. 「他の属性」タブ

フィールド	説明
追加属性	「カタログ構成」で作成されたすべての追加属性。ユーザーの商慣習に従った情報を入力します。アイテムの追加属性の作成について詳しくは、26 ページの『追加属性の定義』を参照してください。
エイリアス	「アイテム属性」で作成されたすべてのエイリアス。アイテムのエイリアスは、アイテムの ID です。ユーザーの商慣習に従った情報を入力します。エイリアスの作成について詳しくは、116 ページの『エイリアス・タイプの定義』を参照してください。
アイテム除外コード	<p>「アイテム属性」で作成されたすべてのアイテム除外コード。準拠している商慣習で、特定の国へのアイテムの出荷が規制されている場合は、アイテム除外コードを設定することができます。例えば、特定の危険物を含むアイテムの出荷が禁止されている特定の国が配送先に含まれる場合は、その危険物を含む可能性があるすべてのアイテムに関連付けることができるアイテム除外コードを作成することができます。</p> <p>矢印ボタンを使用して、関連するアイテム除外コードを追加および削除できます。</p> <p>アイテム除外コードの作成について詳しくは、116 ページの『エイリアス・タイプの定義』を参照してください。</p>

表 13. 「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム指示タイプ	アイテム指示タイプを選択します。
シーケンス番号	アイテム指示が複数あり、順序が決まっている場合は、追加する指示の順序を入力します。

表 13. 「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
アイテム指示コードを使用	既存のアイテム指示コードを使用する場合は、「アイテム指示コードを使用」を選択します。
アイテム指示コード	「アイテム指示コードを使用」を選択する場合は、該当のアイテム指示コードを選択します。
新規アイテム指示の作成	既存のアイテム指示コードが存在しない場合に、フリー・フォームのテキスト指示を作成するには、「新規アイテム指示の作成」を選択します。
テキスト	「新規アイテム指示の作成」を選択した場合は、指示を入力します。

アイテム指示の変更: このタスクについて

アイテム指示を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細 (Product item Details)」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。
2. 「アイテムの指示」テーブルで、該当するアイテム指示を選択して、 を選択します。「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、73 ページの表 17を参照してください。
4.  を選択します。

アイテム指示の削除: このタスクについて

アイテム指示を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細 (Product Item Details)」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。
2. 「アイテムの指示」テーブルで、該当するアイテム指示を選択して、 を選択します。

アイテム関連付けの定義

アイテムに適用する関連製品販売 (cross-sell)、上位製品販売 (up-sell)、交換品、代替品、および競合品の関連付け (competitive association) を設定できます。アイテム関連付けは、アイテム別または特定のアイテムが属するクエリー別に設定できます。

注: バンドル親は、アイテム関連付けを持ちません。

関連製品販売

関連製品販売とは、主要製品と組み合わせることで「さらに優れた」パッケージとなるアドオン製品や付属品の購入を勧める手法です。例えば、ある靴に似合うシャツの在庫があるとします。カタログで靴アイテムを作成する際に、そのシャツを関連製品販売として関連付けます。このようにすると、顧客が靴をオーダーする際に、それに似合うシャツを勧めることができます。

上位製品販売

上位製品販売とは、より高性能な製品や上位製品の購入を勧める手法です。例えば、特定のモデル (model) のランニング・シューズの在庫があり、それらのシューズは安価で低品質のランニング・シューズと高額で最高級のランニング・シューズのいずれかとして提供されるものとします。その場合は、低品質の靴のカタログ・アイテムを作成するときに、より高額の靴を上位製品販売として関連付けます。すると、顧客が低品質の靴をオーダーしようとしたときに、より高品質な靴があることを通知することができます。

交換品

交換品の関連付け (supersession association) を設定すると、オーダー済みアイテムに対して他に 1 つ以上の交換可能なアイテムが存在することがわかるようになります。アイテムは、その有効日が過ぎた時点で置き換えられます。一般に、廃止されたアイテムは、企業の Web サイトで通常の検索を実行する顧客には提供されません。ただし、顧客が拡張検索を実行して、廃止されたアイテムを具体的に探す場合は、一連の交換品の中で次のアイテムが顧客に提供されます。さらに、アイテムの売り切れなど、アイテムが入手不可になった場合、システムは一連の交換品の中から次のアイテムをオーダーしようとします。例えば、すぐに売り切れになる非常に人気の高いブランドの靴の在庫があるとします。また、人気はあっても売れ行きはそれほど芳しくない、別の類似ブランドの靴があるとします。その場合は、人気ブランドの靴のカタログ・アイテムを作成するときに、他のいくつかのブランドの靴を交換品として関連付けます。すると、顧客が人気ブランドの靴をオーダーしたときに、そのブランドの在庫がなければ、他のいずれかの靴と交換するためのオプションを顧客に提示できるようになります。

優先代替品

優先代替品とは、元のアイテムを調達する前に調達されるアイテムです。システムでオーダーが確認および履行されるときには、元のアイテムを提供可能な場合であっても優先代替品が出荷されます。

代替品

代替品の関連付けにより、元のアイテムとよく似たアイテムを代替品として選択できるようになります。例えば、ハイトップとロートップの 2 つの異なるモデルが用意されている人気モデルのランニング・シューズの在庫があるとします。顧客がハイトップ・スニーカーを選択すると、ロートップを代替品として選択するための選択肢が提示されます。

競合品

競合品の関連付けにより、異なる製造業者が提供する類似アイテムを関連付けることができます。この関連付けを使用して、競合業者の製品を追跡することもできます。例えば、X 社のハイトップ・バスケットボール・シューズの競合品は、Y 社のハイトップ・バスケットボール・シューズです。

アイテム別の関連付け: 手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「関連付け」タブをクリックします。



2. アイテムに対して設定する関連付けタイプのブランチを展開表示します。アイテムやクエリーをダブルクリックして、該当するリストを表示することもできます。
3. アイテムを強調表示し、 をクリックします。フィールドの値の説明については、68 ページの表 14を参照してください。必要なフィールドに情報を入力します。
4.  をクリックします。

The 'Associated Item' dialog box contains the following fields:

- Item ID:
- UOM:
- Effective Date From:
- Effective Date To:
- Quantity:
- Priority:

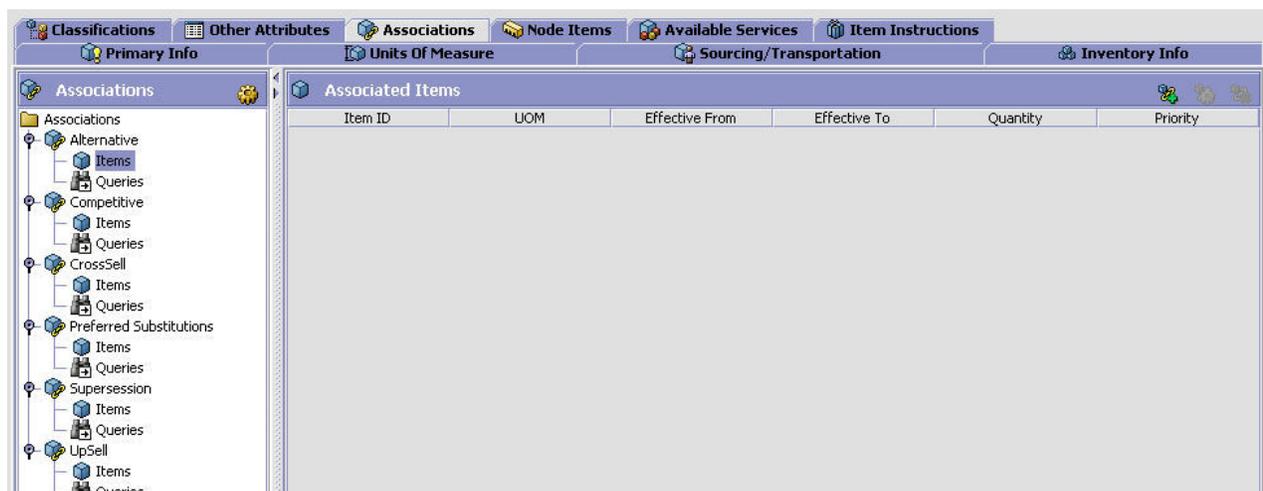
Buttons: OK, Cancel

表 14. アイテム別の関連付け

フィールド	説明
アイテム ID	アイテムの ID を入力します。
単位	ドロップダウン・メニューからアイテムの単位を選択します。
有効開始日	関連付けが有効となる最初の日付を入力します。
有効終了日	関連付けが有効である最後の日付を入力します。
数量 (Quantity)	関連付けを有効にするために必要なアイテムの数量を入力します。例えば、水の入った 2 本の 1 リットル・ボトルは、2 リットル・ボトル 1 本の代用となると考えることもできます。
優先順位	別の関連付けられたアイテムに対する、アイテムの優先順位を入力します。

クエリー別の関連付け: 手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「関連付け」タブをクリックします。



2. アイテムに対して設定する関連付けタイプのブランチを展開表示します。
3. クエリーを強調表示し、 をクリックします。必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、69 ページの表 15を参照してください。
4.  をクリックします。

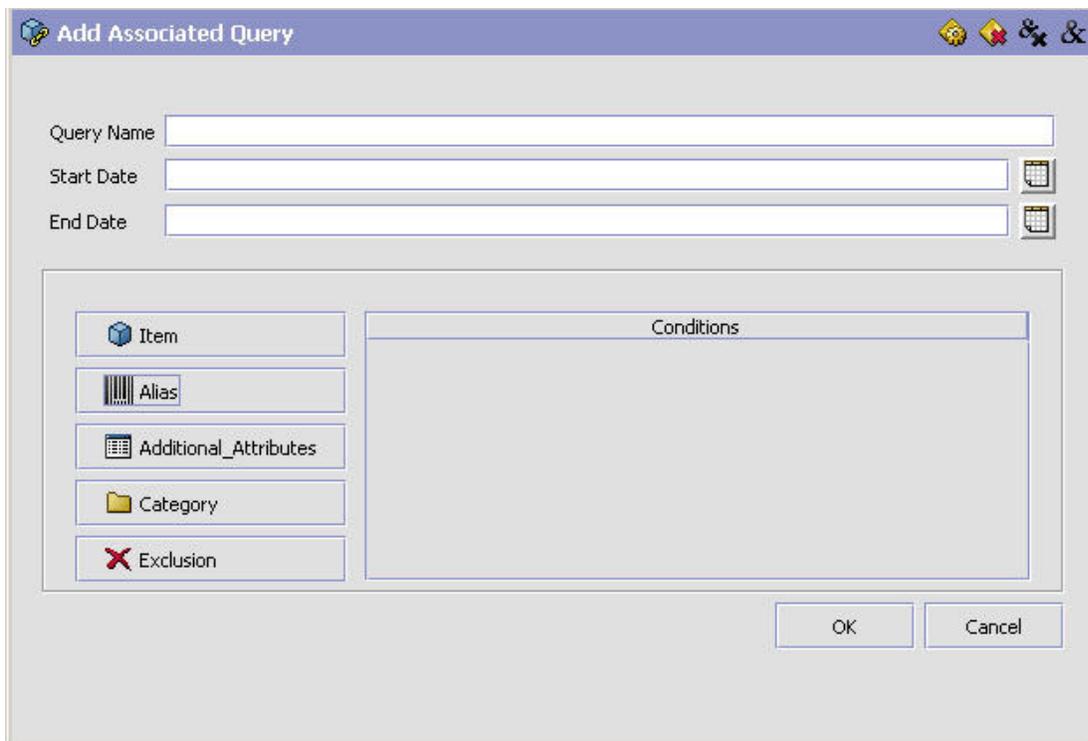


表 15. クエリー別の関連付け

フィールド	説明
クエリー名	クエリーの名前を入力します。
開始日	関連付けが有効となる最初の日付を入力します。
終了日	関連付けが有効である最後の日付を入力します。
アイテム・クエリー・ウィンドウ (Item Query Window)	このウィンドウを使用して、関連付けを作成するアイテム・クエリーを作成します。アイテム・クエリーの作成について詳しくは、83 ページの『条件ビルダーを使用したアイテム検索のフィルタリング』を参照してください。

アイテムのノード・アイテム属性のオーバーライドを定義

組織 (organization) 内の所定のノード (node) でのアイテム属性のオーバーライドを定義できます。アイテムを含むオーダーがノードにリリースされるときに、そのアイテムに対して定義されたすべての関連属性が、ノード・レベルで割り当てた属性によってオーバーライドされます。ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの定義方法について詳しくは、89 ページの『ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの定義』を参照してください。

アイテムに関連付けられたサービス・アイテムの定義

アイテムのオーダー時にオプションでオーダー可能なサービス・アイテムを関連付けることができます。例えば、「皿洗い機」というアイテムを作成し、それに「2名で配達」配送サービス・アイテムと「設置」提供サービス・アイテムを関連付けることができます。すると、顧客がこのアイテムをオーダーする際に、これらのサービス・アイテムを追加オプションとして利用できるようになります。

また、キット化サービス (アイテムを組み合わせるプロセスを定義) などの他の付加価値サービスを関連付けることもできます。

**アイテムへのサービス・アイテムの関連付け:
このタスクについて**

サービス・アイテムをアイテムに関連付けるには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「利用可能なサービス」タブを選択します。
2. 「利用可能なサービス」タブで、「提供サービス」タブを選択して提供サービス・アイテムを関連付けるか、「配送サービス」タブを選択して配送サービスを関連付けます。
3. 「利用可能なサービス」テーブルで、 を選択します。「サービス関連付け」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 16 を参照してください。
5.  を選択します。

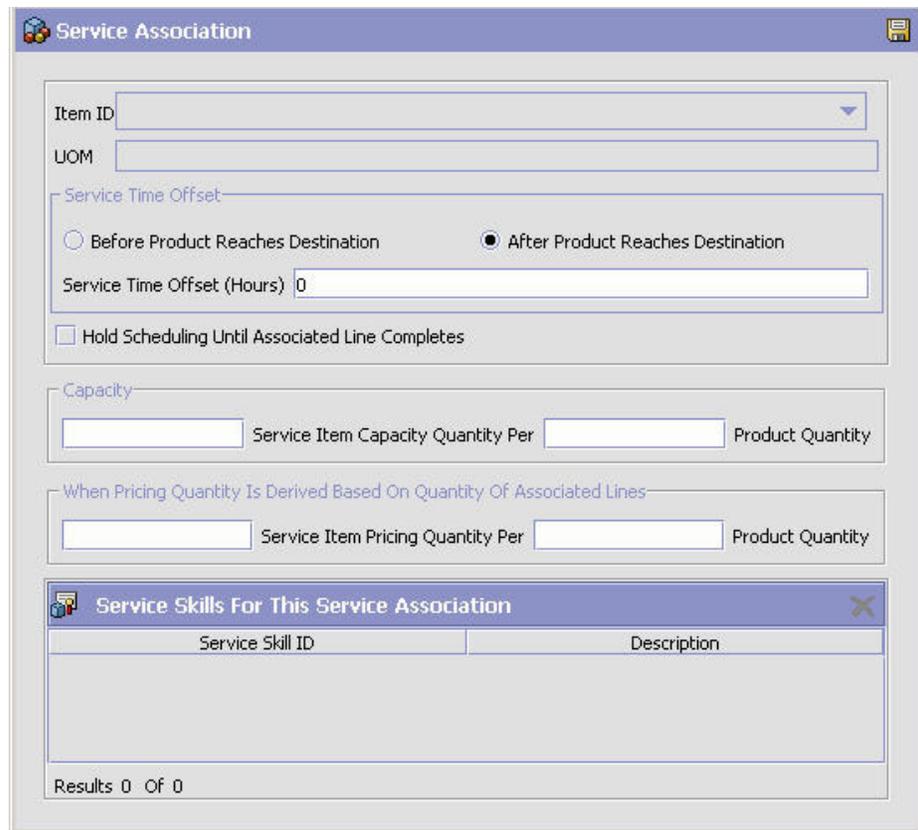


表 16. 「サービス関連付け」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム ID	サービス・アイテム ID を選択します。
単位	サービス・アイテムの単位を選択します。

表 16. 「サービス関連付け」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
サービス・タイム・オフセット	サービスの提供と製品の配達との間の時間差 (時間単位) を入力します。例えば、「1 人で配達」配送サービスを使用して配達する 1 日前に「測定」提供サービスを必要とする「ドア」アイテムを構成する場合は、「サービス・タイム・オフセット」を 24 時間に設定します。
関連付けられた明細が完了するまでスケジューリングを保留にする	アイテムが出荷されるまでサービス・アイテムをスケジュールしたくない場合は、「関連付けられた明細が完了するまでスケジューリングを保留にする」を選択します。
容量	
サービス・アイテムのキャパシティー数量/	定義されているオーダー済み製品の数量で消費するリソース・プールのキャパシティーを、サービス・アイテムの単位に従って入力します。例えば、1 台の皿洗い機の設置に 1 時間かかる場合は、オーダーされた 1 台の「皿洗い機」アイテムあたり 1 時間のリソース・キャパシティーを消費する、1 時間単位での「設置」提供サービスを構成できます。
製品数量	キャパシティー数量が消費されるアイテムの数量を入力します。
関連付けられた明細の数量に基づいて価格設定数量が得られる場合	
サービス・アイテムの価格設定数量	指定した製品数量あたりのサービス価格設定単位の使用数量を入力します。例えば、「カーペット」アイテムの「設置」提供サービスを定義している場合に、「設置」の価格設定単位 (pricing unit of measure) が「時間」であるとします。カーペット 300 平方フィート当たり 2 時間かかります。その場合は、このフィールドに「2」と入力します。
製品数量	価格設定数量が決定されるアイテムの数量を入力します。
このサービス関連付けでのサービス・スキル	
サービス・スキル ID	アイテム・サービスの関連付けでのサービス・スキル ID のリスト。アイテム・サービスの関連付けへのサービス・スキルの追加については、72 ページの『サービスの関連付けへのサービス・スキルの追加』を参照してください。 アイテム・サービスの関連付けからのサービス・スキルの削除については、72 ページの『サービスの関連付けからのサービス・スキルの削除』を参照してください。
説明	リストされた各サービス・スキルの簡単な説明。

アイテムに関連付けられているサービス・アイテムの変更: このタスクについて

アイテムに関連付けられているサービス・アイテムを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「利用可能なサービス」タブを選択します。

2. 「利用可能なサービス」タブで、「提供サービス」タブを選択して関連付けられた提供サービス・アイテムを変更するか、「配送サービス」タブを選択して関連付けられた配送サービスを変更します。
3. 「利用可能なサービス」テーブルで、該当するサービス・アイテム関連付けを選択して、 を選択します。「サービス関連付け」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、70ページの表 16を参照してください。
5.  を選択します。

アイテムに関連付けられているサービス・アイテムの削除: このタスクについて

アイテムに関連付けられているサービス・アイテムを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「利用可能なサービス」タブを選択します。
2. 「利用可能なサービス」タブで、「提供サービス」タブを選択して関連付けられた提供サービス・アイテムを削除するか、「配送サービス」タブを選択して関連付けられた配送サービスを削除します。
3. 「利用可能なサービス」テーブルで、該当するサービス・アイテム関連付けを選択して、 を選択します。

サービスの関連付けへのサービス・スキルの追加: このタスクについて

複数のサービス・スキルを 1 つのサービスの関連付けに追加できます。アイテム・サービスの関連付けの「サービス・スキル」テーブルで、そのサービスの関連付けのサービス・スキルを管理します。

サービス・スキルをサービスの関連付けに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「サービスの関連付けの詳細 (Service Association Details)」ウィンドウで、 を「このサービス関連付けのサービス・スキル」テーブルから選択します。「サービス・スキル・リスト (Service Skills List)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 該当するサービス・スキルを選択して、 を選択します。サービス・スキルがサービス・スキル・テーブルに追加されます。

サービスの関連付けからのサービス・スキルの削除: このタスクについて

サービスの関連付けからサービス・スキルを削除するには、「サービスの関連付けの詳細 (Service Association Details)」ウィンドウで該当するサービス・スキルを「こ

のサービス関連付けのサービス・スキル」テーブルから選択して、 を選択します。

アイテムの特別指示の定義

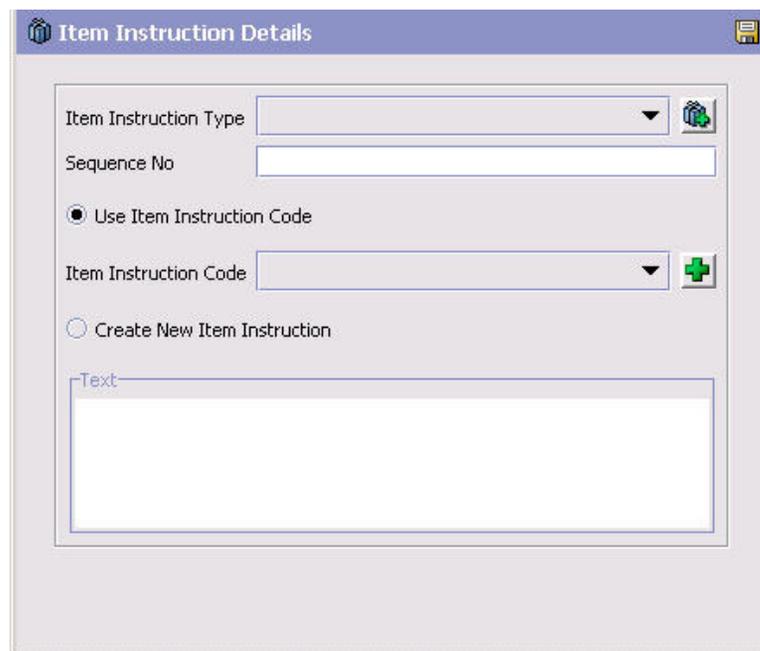
アイテムに関するあらゆる特別指示を定義できます。例えば、壊れやすいアイテムに「取扱注意」の特別指示を関連付けることができます。

アイテムの特別指示の追加: このタスクについて

アイテム指示を追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。
2. 「アイテムの指示」テーブルで、 を選択します。「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 17 を参照してください。
4.  を選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Item Instruction Details". It has a blue header bar with a gear icon on the left and a close icon on the right. The main area contains several fields and controls:

- "Item Instruction Type": A dropdown menu with a green plus icon to its right.
- "Sequence No": A text input field.
- Radio buttons: "Use Item Instruction Code" (selected) and "Create New Item Instruction".
- "Item Instruction Code": A dropdown menu with a green plus icon to its right.
- "Text": A large text area for entering instructions.

表 17. 「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム指示タイプ	アイテム指示タイプを選択します。例えば、「取り扱い」アイテム・タイプは、指示がアイテムの取り扱いに関連していることを示します。
シーケンス番号	アイテム指示が複数あり、順序が決まっている場合は、追加する指示の順序を入力します。

表 17. 「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
アイテム指示コードを使用	既存のアイテム指示コードを使用する場合は、「アイテム指示コードを使用」を選択します。例えば、壊れやすいアイテムに関連付けることができる「取扱注意」といった既存のアイテム指示コードがあるとします。
アイテム指示コード	「アイテム指示コードを使用」を選択する場合は、該当のアイテム指示コードを選択します。
新規アイテム指示の作成	既存のアイテム指示コードが存在しない場合に、フリー・フォームのテキスト指示を作成するには、「新規アイテム指示の作成」を選択します。
テキスト	「新規アイテム指示の作成」を選択した場合は、指示を入力します。

アイテムの特別指示の変更:

このタスクについて

アイテム指示を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。
2. 「アイテムの指示」テーブルで、該当するアイテム指示を選択して、 を選択します。「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、73 ページの表 17を参照してください。
4.  を選択します。

アイテムの特別指示の削除:

このタスクについて

アイテム指示を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。
2. 「アイテムの指示」テーブルで、該当するアイテム指示を選択して、 を選択します。

アイテムの子アイテムの定義

アイテムに「バリエーションのあるアイテム」のマークが付いている場合、その子アイテム (child item) を定義できます。子アイテムとは、バリエーションのあるアイテムと共通の属性を共有するアイテムです。例えば、バリエーションのあるアイテムが半袖のポロシャツである場合、可能な子アイテムは、S サイズの赤い半袖のポロシャツや M サイズの赤い半袖のポロシャツなどです。

子アイテムの追加:

このタスクについて

子アイテムを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「主要情報」タブを選択します。
2. 「バリエーションがあるアイテム」ボックスにまだチェック・マークを付けていない場合は、チェック・マークを付けます。
3. 「子アイテム」タブを選択します。
4. 子アイテム・テーブルで、 を選択します。「アイテムの検索」が表示されません。
5. 目的のアイテムを検索して、 を選択します。
6. 「保存」をクリックして、「バリエーションのあるアイテム」を保存します。

子アイテムの削除:

このタスクについて

子アイテムを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「子アイテム」タブを選択します。
2. 「子アイテム」テーブルで、削除するアイテムを選択します。
3.  を選択します。

アイテムのコンポーネントの定義

「主要情報」タブでアイテムにキット・コードを関連付けることにより、アイテムをキット・アイテムとして指定した場合は、「アイテムの詳細」ウィンドウで「コンポーネント」タブを使用できるようになります。「コンポーネント」タブで、キット (kit) を構成するアイテムのリストを作成できます。

重要: Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、バンドル以外のすべてのキット・タイプに対してオーダーは 1 層レベルのみをサポートします。ただし、Applications Manager では、他のキットを複数層レベルで構成することはできます。

アイテムへのコンポーネントの追加:

このタスクについて

キット・コンポーネントをアイテムに追加するには、以下の手順を実行します。

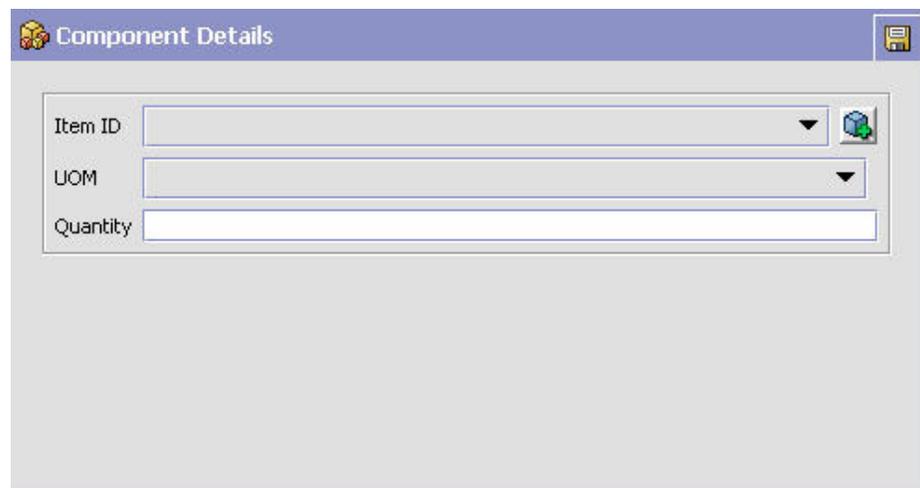
手順

1. 「アイテムの詳細」画面で、「コンポーネント」タブを選択します。
2. Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫コスト計算機能を使用しており、キットが物理キットとして識別されている場合は、進行中のコスト計算に適用するコスト要因グループを、「物理キット・コスト計算に使用するコスト要因グループ」ドロップダウン・リストから選択します。このリストには、カタログ組織の主要エンタープライズによって定義されたコスト要因グループが表示されます。

3. キットがバンドルとして識別されている場合は、バンドルに対してフルフィルメント・モードを選択します。以下のいずれかを選択します。
 - 「一括出荷」 - このバンドルのコンポーネントは、異なるノードから調達可能であり、出荷ノードでマージされて単一出荷として出荷されます。
 - 「個別出荷」 - このバンドルのコンポーネントは独立した明細として扱われ、在庫がある場合に出荷されます。そのため、これらは異なる日に配達される場合があります。
 - 「一括配達」 - このバンドルは複数のノードから出荷できます。配達スケジュールは、予定配達日に基づいて決定されます。バンドル・コンポーネントは、すべてのコンポーネントを一緒に配達できるように、コンポーネントの最も遅い予定配達日に従って出荷されます。



4. 「コンポーネント」テーブルで、 をクリックします。
5. 「コンポーネントの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
6. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下のリストを参照してください。
7.  を選択します。



タスクの結果

「コンポーネントの詳細」ポップアップ・ウィンドウ - 物理および論理キット

フィールド

説明

アイテム ID

キットに追加するアイテムを選択します。

単位 キットに追加するアイテムの単位を選択します。

数量 (Quantity)

キットに追加するアイテムの数量を入力します。

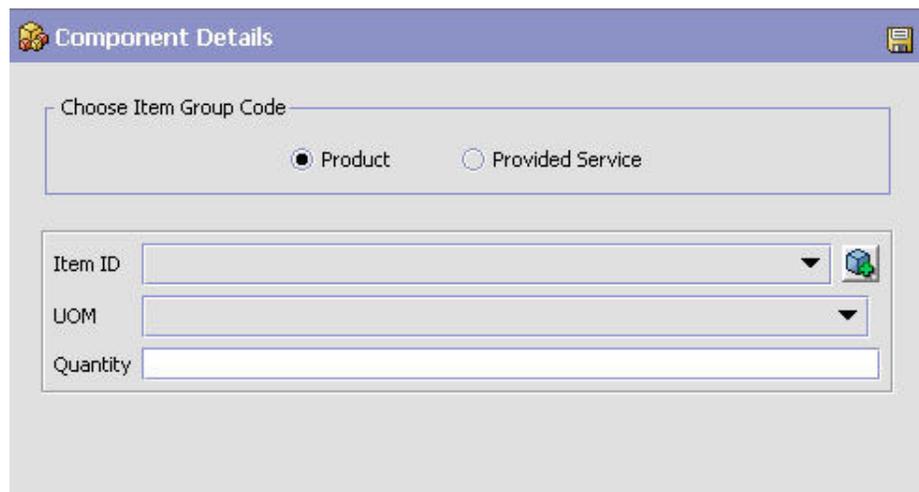
アイテムのコンポーネントの変更:

このタスクについて

アイテムのキット・コンポーネントを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「コンポーネント」タブを選択します。
2. 「コンポーネント」テーブルで、該当するキット・コンポーネントを選択して、 を選択します。「コンポーネントの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、78ページの表 18を参照してください。
4.  を選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Component Details". At the top, there is a section "Choose Item Group Code" with two radio buttons: "Product" (which is selected) and "Provided Service". Below this, there are three input fields: "Item ID" (a dropdown menu with a gear icon), "UOM" (a dropdown menu), and "Quantity" (a text input field).

表 18. 「コンポーネントの詳細」ポップアップ・ウィンドウ - バンドル

フィールド	説明
商品 (Product)	このオプションを選択して、製品について以下の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • アイテム ID: キットに追加するアイテムを選択します。 • 単位: キットに追加するアイテムの単位を選択します。 • 数量: キットに追加するアイテムの数量を入力します。
提供サービス	このオプションを選択して、提供サービスについて以下の詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • アイテム ID: キットに追加するアイテムを選択します。 • 単位: キットに追加するアイテムの単位を選択します。 • 数量: キットに追加するアイテムの数量を入力します。

アイテムのコンポーネントの削除:

このタスクについて

アイテムのキット・コンポーネントを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「コンポーネント」タブを選択します。
2. 「コンポーネント」テーブルで、該当するキット・コンポーネントを選択して、



を選択します。

アイテムの容器属性の定義

このタスクについて

他のアイテムの出荷に使用される容器アイテムを作成することもできます。容器アイテムの作成について詳しくは、45 ページの『アイテムの作成』を参照してください。アイテムの容器属性を指定できます。

アイテムの容器属性を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「容器属性」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、79 ページの表 19を参照してください。

表 19. 「容器属性」タブ

フィールド	説明
容器制約	
次のバイヤー用に予約	<p>特定の方法でカテゴリー化されているアイテムに対してこの容器が使用されるよう予約する場合は、「容器詰めカテゴリー」を選択します。例えば、この容器が容器詰めカテゴリーの「保存食」としてカテゴリー化されたアイテムのみで使用されるように制限することができます。</p> <p>容器詰めカテゴリーは、アイテム属性に基づいて定義できます。容器詰めカテゴリーについて詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i>」を参照してください。</p> <p>デフォルトでは、容器詰めを実行するために 5 つの容器カテゴリー分類目的が用意されています。これらの容器カテゴリー分類目的は、実際の要件に応じて、StorageType、ItemType、ProductLine などのアイテム属性に関連付けられるように構成できます。</p> <p>定義するアイテム用に予約する容器カテゴリー分類目的の  を選択します。「値のリスト」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。空白行を選択し、ドロップダウン・メニューから容器詰めカテゴリーを選択します。容器詰めカテゴリーを追加し終わったら、「OK」を選択します。</p> <p>注: 予約済み容器を使用できるのは、その容器の使用を予約しているバイヤーのみです。それらのバイヤーは、共通プールにある他の容器を利用できません。</p>

表 19. 「容器属性」タブ (続き)

フィールド	説明
次の容器詰めカテゴリーのアイテム用に予約	<p>特定の方法でカテゴリー化されているアイテムに対してこの容器が使用されるよう予約する場合は、「容器詰めカテゴリー」を選択します。例えば、この容器が容器詰めカテゴリーの「保存食」としてカテゴリー化されたアイテムのみで使用されるように制限することができます。</p> <p>101 ページの『分類の定義』を参照してください。</p>
容器容積	
キャパシティー (量)	この容器に格納可能な体積を入力し、その体積の単位 (立方フィート、リットルなど) を選択します。
許容容積	<p>容器に詰めるアイテムがいくつか残っている場合に、追加可能なアイテムの体積を入力します。例えば、容器のキャパシティー (量) が 100 立方フィートだとします。2 つの容器がいっぱいになりましたが、詰めるアイテムがいくつか残っているとします。残りのアイテムの容積は 2 立方フィートです。「許容容積」が 2 立方フィート超を許容するよう設定されている場合、最後の容器に残りのアイテムが詰められます。</p> <p>許容容積を指定しない場合は、このフィールドを空白にします。</p>
容器に格納できる最大重量	この容器の最大許容重量を入力し、その重量の単位を選択します。
容器 SKU キャパシティー定義	
SKU ユニット・サイズ・コード	アイテムの識別に使用する SKU ユニット・サイズ・コードを指定します。
数量 (Quantity)	この容器に詰めることができる、指定された SKU ユニット・サイズ・コードのアイテムの数量。アイテムのサイズと容器の容積に基づいてアイテムの数を計算するよりも、容器に詰めることのできるアイテム数を指定する方が簡単な場合があります。例えば、ボールなどの不規則な形をしたアイテムやシャツなどの大幅に圧縮可能なアイテムは、容器のキャパシティーを指定した方がよい場合があります。

SKU キャパシティー定義の追加:

このタスクについて

SKU キャパシティー定義を使用して、この容器に収容可能な特定の分類のアイテムの数を構成できます。分類は、「SKU ユニット・サイズ・コード」を分類定義にバインドすることによって設定されます。102 ページの『分類定義の定義』を参照してください。

SKU キャパシティー定義を追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「容器属性」タブを選択します。

- 「容器 SKU キャパシティー定義」テーブルで、 を選択します。「SKU キャパシティー定義 (SKU Capacity Definition)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 20 を参照してください。
-  を選択します。

表 20. 「SKU キャパシティー・コードの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
分類タイプ (Classification Type)	分類に使用されるフィールドは、アイテム構成の一部として SKU ユニット・サイズ・コードにマップされます。ここに表示されているフィールド名「統一コード」は、その一例です。101 ページの『分類の定義』を参照してください。 分類に使用される値を入力して、その分類を使用するアイテムを選択します。
数量 (Quantity)	容器に収容できるこのアイテム分類の数を指定します。



SKU キャパシティー定義の変更: このタスクについて

SKU キャパシティー定義を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

- 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「容器属性」タブを選択します。
- 「容器 SKU キャパシティー定義」テーブルで、該当する SKU キャパシティー定義を選択して、 を選択します。「SKU キャパシティー・コードの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 20 を参照してください。
-  を選択します。

SKU キャパシティー定義の削除:

このタスクについて

SKU キャパシティー定義を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、「容器属性」タブを選択します。
2. 「容器 SKU キャパシティー定義」テーブルで、該当する SKU キャパシティー定義を選択して、 を選択します。

アイテムの拡張属性の定義

このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation を使用して、独自の拡張アイテム属性を作成できます。拡張アイテム属性の作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* カスタマイズ 基本」を参照してください。

これらの属性は、分類レベルでも指定できます。継承可能な属性の表示について詳しくは、59 ページの『継承可能な属性の表示』を参照してください。

共通アイテム属性の定義について詳しくは、108 ページの『分類値の共通アイテム属性の定義』を参照してください。

アイテムの拡張属性を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「アイテムの詳細」ウィンドウで、 を選択します。「拡張属性」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 該当するフィールドに情報を入力します。
3. 「OK (OK)」をクリックします。すると、「拡張属性」ポップアップ・ウィンドウが閉じ、「アイテムの詳細」ウィンドウに戻ります。
4.  を選択します。

アイテムの削除

このタスクについて

重要: アイテムを削除する前に、アイテムが、在庫、オーダー、出荷通知、返品、分配ルール、および/または価格セットに関する既存のトランザクション・データで使用される可能性があることを考慮する必要があります。また、設定によっては、外部システムもこのアイテムを参照する可能性があります。

アイテムを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム」を選択します。作業領域に、「アイテムの検索」ウィンドウが表示されません。

2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「アイテム・リスト」が表示されます。
3. 該当するアイテムを選択して、 を選択します。

アイテムの計算したユニット・コストの再計算 このタスクについて

アイテムのユニット・コストを再計算するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」>「アイテム」を選択します。

「アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「アイテム・リスト」が表示されます。
3. すべてのアイテムのユニット・コストを再計算するには、 を選択します。
4. 特定のアイテムのユニット・コストを再計算するには、該当するアイテムを選択し、右クリックして  を選択します。

条件ビルダーを使用したアイテム検索のフィルタリング

アイテム・クエリーを作成して、アイテムの検索およびアイテム関連付けの確立に使用できます。アイテム関連付けについて詳しくは、65 ページの『アイテム関連付けの定義』を参照してください。

条件ビルダーを使用すると、アイテム、アイテムのエイリアス、追加アイテム属性、カテゴリ、除外コード (exclusion code) など、さまざまなクエリー・エンティティによってアイテムの検索をフィルタリングできます。これらの各エンティティを通じて、属性によるフィルターを使用できます。例えば、高さでアイテムを検索できます。アクション・ボタンを使用して優先順位および論理演算子を作成することもできます。例えば、高さおよびアイテム ID でアイテムを検索し、アイテム・タイプは使用しない場合、「高さ」および「アイテム ID」フィールドを括弧で囲んでグループ化できます。

条件ビルダーの使用

このタスクについて

条件ビルダーを使用するには、次の手順を実行します。

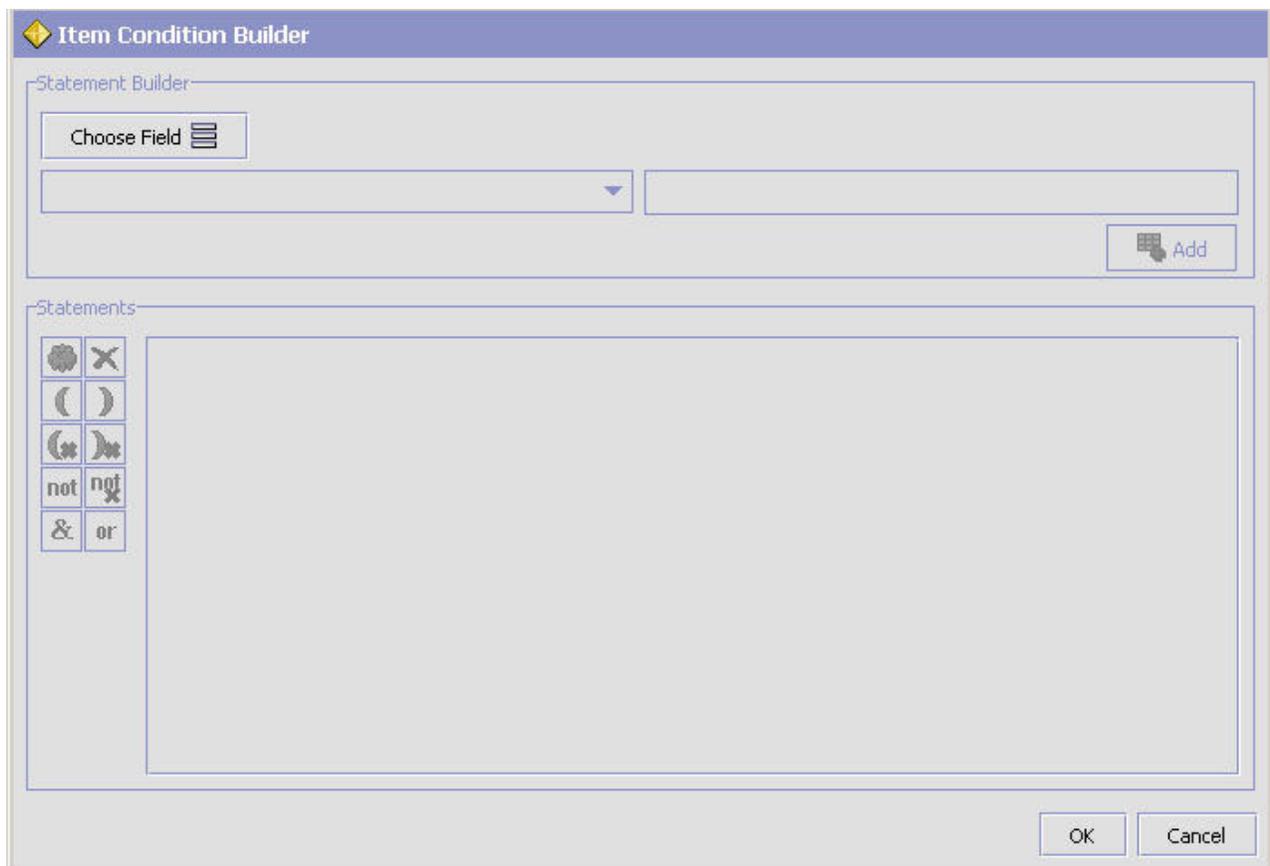
手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。アプリケーションのサイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」>「アイテム」を選択します。作業領域に、「アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。

3.  をクリックします。「アイテムの拡張検索」ウィンドウが表示されます。

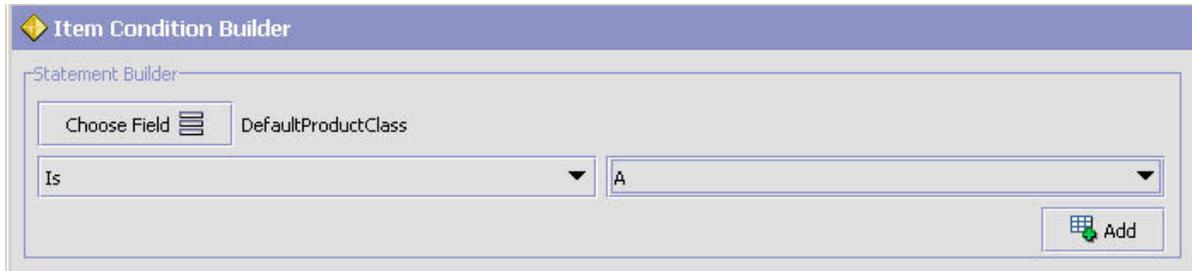


4. アイテム・クエリーを作成するには、クエリー・エンティティーを選択します。クエリーを作成するクエリー・エンティティー・ボタンをクリックします。「条件ビルダー」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



5. ステートメントを選択します。「条件ビルダー」ポップアップ・ウィンドウで、「フィールドの選択」をクリックし、クエリーの一部分としての確な属性を選択します。例えば、アイテム ID などです。

- クエリー・タイプおよび属性値を選択します。左側のドロップダウン・メニューで、目的のクエリー・タイプを選択します。右側のフィールドで、ドロップダウン・メニューから目的の属性値を選択するか、テキスト・フィールドの場合は値を入力します。「追加」ボタンをクリックします。

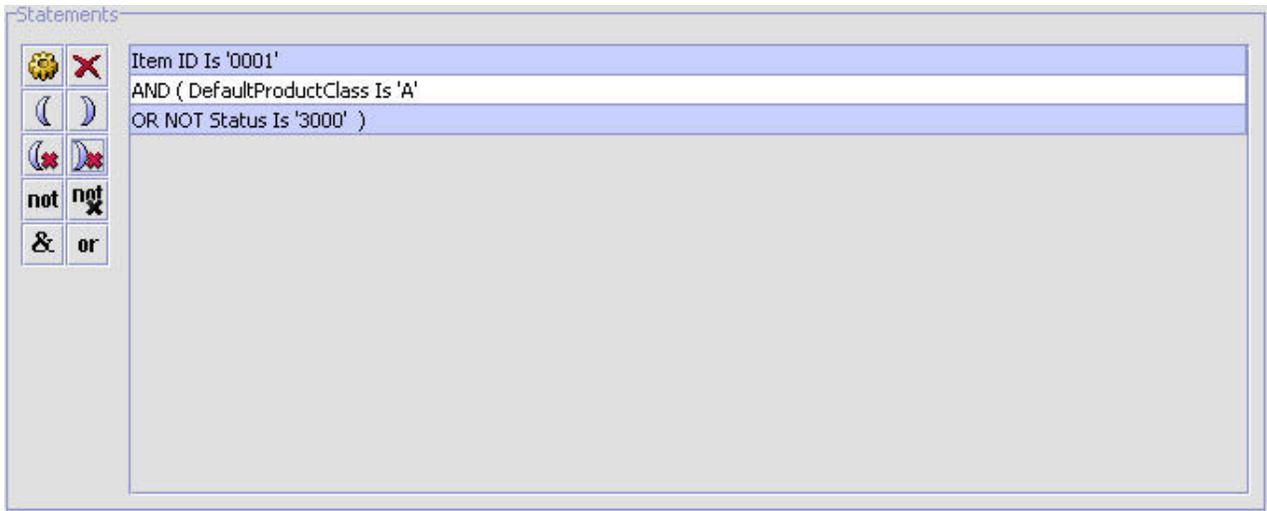


- 条件に必要なすべてのステートメントが含まれるまで、ステップ 5 と 6 を繰り返します。デフォルトでは、ステートメントは AND 演算子によって結合されます。
- オプションで、アクションを適用してステートメントを編集します。必要に応じ、編集するステートメントを強調表示して、目的のアクションを選択します。選択可能なアクションについて、以下の表で説明します。

表 21. ステートメントのアクション

アクション	説明
	強調表示したステートメントを置換します。「追加」ボタンは「置換」ボタンに置き換えられており、ステップ 5 まで完了することによってステートメントを再度選択できるようになります。
	強調表示したステートメントを削除します。
	優先順位演算子を作成します。例えば、(A AND B) OR C 対 A AND (B OR C): とすると、括弧内のステートメントが先に評価されます。
	優先順位演算子を削除します。
not	否定演算子を作成します。例えば、A AND NOT B などです。
not 	否定演算子を削除します。例えば、A AND NOT B は A AND B になります。
&	OR 演算子を AND 演算子で置換します。
or	AND 演算子を OR 演算子で置換します。

条件を希望どおりに作成したら、「OK」をクリックします。

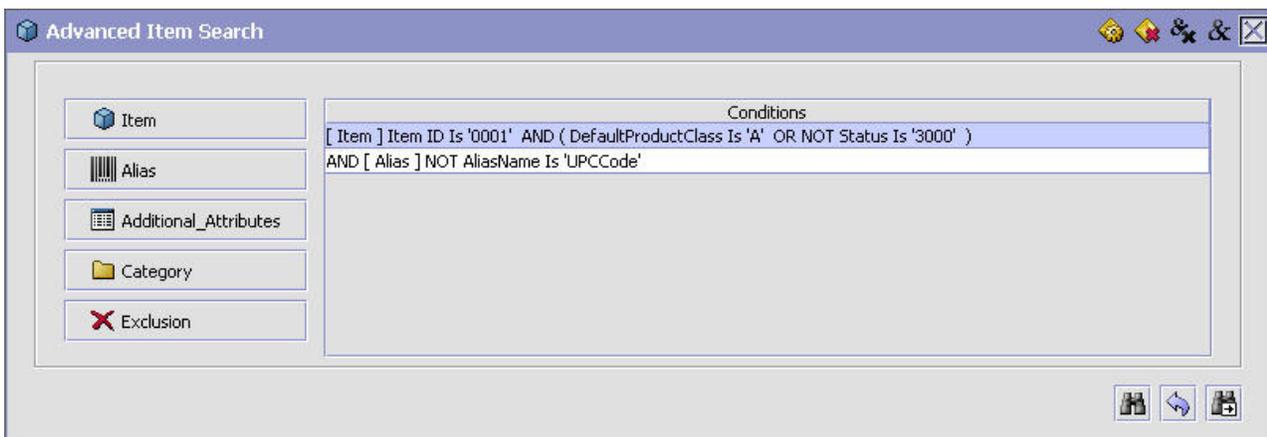


9. アクションを適用して条件を編集することもできます。
10. クエリーに必要なすべての条件が整うまで、ステップ 4 から 8 を繰り返します。デフォルトでは、条件は AND 演算子によって結合されます。必要に応じ、編集する条件を強調表示して、ウィンドウの右上で目的のアクションを選択します。選択可能なアクションについて、以下の表で説明します。

表 22. 条件アクション

アクション	説明
	その条件の「条件ビルダー」ポップアップ・ウィンドウに戻ります。
	強調表示した条件を削除します。
	AND 演算子を AND NOT 演算子で置換します。
	AND NOT 演算子を AND 演算子で置換します。

条件を作成したら、 をクリックします。



重要: エイリアス、追加属性、および除外エンティティを使用してクエリーを作成する場合、その特定のエンティティのすべての属性が同じ条件に含まれ、複数の条件に含まれることのないように条件を作成することが重要です。

条件ビルダーの属性

各クエリー・エンティティを使用し、Applications Manager の全域で定義した属性に基づいてステートメントを作成できます。

- アイテムの条件ビルダー属性の説明については、表 23を参照してください。
- エイリアスの条件ビルダー属性の説明については、89 ページの表 24を参照してください。
- 追加属性の条件ビルダー属性の説明については、89 ページの表 25を参照してください。
- カテゴリーの条件ビルダー属性の説明については、89 ページの表 26を参照してください。
- 除外の条件ビルダー属性の説明については、89 ページの表 27を参照してください。

表 23. アイテムの条件ビルダー属性

属性	説明
主要情報	
キット・コード	アイテムのキット・コード (該当する場合)。指定可能な値は、「物理キット」、「論理キット」、「バンドル」、および「動的物理キット」です。
アイテム ID	アイテムの ID。
デフォルトの製品クラス (Default Product Class)	アイテムの製品クラス。
アイテム単位マスター	製品の単位。
ステータス	製品のステータス。指定可能な値は、「保留」および「公開済み」です。
梱包 (packing) の容器として使用	アイテムが梱包に使用される容器であるかどうかを示すフラグ。
グローバル・アイテム ID	アイテムのグローバル識別番号。
アイテム・タイプ (Item Type)	アイテムのタイプ。
サービス・ツールとして作業オーダーへの追加が可能	アイテムをサービス・ツールとして作業オーダーに追加可能かどうかを示すフラグ。
説明	アイテムの詳細説明。
簡略説明	アイテムの簡単な説明。
アイテム明細 (Product Line)	アイテムの製品明細。
製造業者名	アイテムを製造した製造業者の名前。
製造業者製品	アイテムを識別するために製造業者が使用する ID。
製造業者製品の説明	アイテムに対して製造業者が使用している説明。
原産国	アイテムが製造された原産国または地域 (region)。
課税対象フラグ	アイテムが課税対象かどうかを示すフラグ。

表 23. アイテムの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
課税製品コード	このアイテムの課税製品コード。
マスター・カタログ ID	アイテムがリストされているマスター・カタログの識別番号。
最小オーダー数量	アイテムのオーダー可能な最小数量。
最大オーダー数量	アイテムのオーダー可能な最大数量。
寸法	
ユニットの長さ	アイテムの長さ。
ユニットの長さの単位	アイテムの長さの単位。
ユニットの重量	アイテムの重量。
ユニットの重量の単位	アイテムの重量の単位。
ユニットの高さ	アイテムの高さ。
ユニットの高さの単位	アイテムの高さの単位。
ユニットの幅	アイテムの幅。
ユニットの幅の単位	アイテムの幅の単位。
在庫パラメーター	
リード・タイム	製品を調達し、出荷できるようになるまでに要する時間 (日数)。
タグ管理フラグ	アイテムがタグで管理される程度を示すフラグ。指定可能な値は、「はい」(常に)、「いいえ」(管理されない)、および「可能性あり」です。
時間依存 (Time Sensitive)	アイテムが痛みやすく、特定の出荷期限があるかどうかを示すフラグ。
スケジュール時およびリリース時に在庫チェックを実行しない	このアイテムのスケジュール時およびリリース時に在庫チェックを実行するかどうかを示すフラグ。このフラグが「Y」に設定されている場合は、このアイテムのスケジュール時およびリリース時に在庫チェックが実行されません。このフラグが「N」に設定されている場合は、スケジュール時およびリリース時に在庫チェックが実行されます。
ATP ルール	このアイテムに対して使用される ATP ルール。ATP ルールについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド</i> 」を参照してください。
在庫モニター・ルール	このアイテムの在庫レベルをモニターするために使用される在庫モニター・ルール。
デフォルトの有効期限	アイテムの受け入れ後にそのアイテムが使用可能である日数。
ソーシング情報および輸送情報	
小包出荷利用可能	アイテムの転送において小包による出荷が許可されるかどうかを示すフラグ。
要冷凍庫	アイテムを輸送中に冷凍庫で保管する必要があるかどうかを示すフラグ。
航空便利用可能	アイテムを航空便で出荷できるかどうかを示すフラグ。
分類コード	
統一コード (Harmonized Code)	アイテムの統一コード。
スケジュール B コード	アイテムのスケジュール B コード。

表 23. アイテムの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
ECCN 番号	アイテムの輸出規制品目分類番号 (ECCN)。
NMFC コード (NMFC Code)	アイテムの National Motor Freight Code (NMFC)。
NMFC クラス (NMFC Class)	アイテムの National Motor Freight Code (NMFC) クラス。
UNSPSC (UNSPSC)	アイテムの United Nations Standard Product and Services Code (UNSPSC)。
危険物クラス	アイテムの危険物クラス。
商品コード (Commodity Code)	アイテムの商品コード。

表 24. エイリアスの条件ビルダー属性

属性	説明
エイリアス	
エイリアス名	アイテムのエイリアスの名前。
エイリアス値	アイテムのエイリアスの値。

表 25. 追加属性の条件ビルダー属性

属性	説明
追加属性	
名前	アイテムの追加属性の名前。
値	アイテムの追加属性の値。

表 26. カテゴリーの条件ビルダー属性

属性	説明
カテゴリー	
カテゴリー ID	アイテムのカテゴリーの識別番号。
組織コード	アイテムを所有する組織。
カテゴリー・パス	アイテムのカテゴリー・ツリーのフラット化されたパス。

表 27. 除外の条件ビルダー属性

属性	説明
除外	
除外コード	アイテムの除外コード。

ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの定義

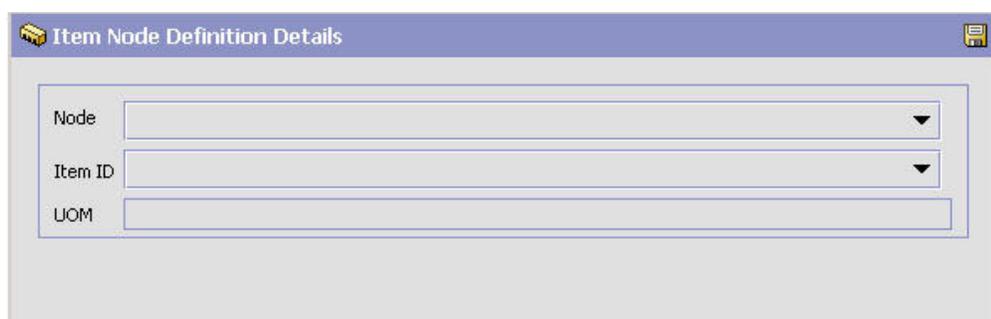
組織 (organization) 内の所定のノード (node) でのアイテム属性のオーバーライドを定義できます。アイテムを含むオーダーがノードにリリースされるときに、そのアイテムに対して定義されたすべての関連属性が、ノード・レベルで割り当てた属性によってオーバーライドされます。

ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの作成 このタスクについて

ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「ノード・アイテム属性」を選択します。作業領域に、「ノード・アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「アイテム・ノード定義の作成 (Create Item Node Definition)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Item Node Definition Details". It contains three input fields: "Node" with a dropdown arrow, "Item ID" with a dropdown arrow, and "UOM" with a text input field.

3. 「ノード」で、アイテム属性のオーバーライドを定義するノードを選択します。
4. 「アイテム ID」で、ノード・レベルでの属性のオーバーライドを定義するアイテムを選択します。
5. 選択したアイテム ID の単位を「単位」から選択して、オーバーライドを定義する特定のアイテム ID と単位の組み合わせを指定します。
6.  を選択します。作業領域に、「ノード・アイテムの詳細」ウィンドウが表示されます。
7. 「ノード・オーバーライド値」列に、該当する属性のオーバーライド値を入力します。属性定義については、59 ページの『アイテムの分類の定義』を参照してください。
8.  を選択します。

ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの変更 このタスクについて

ノード・レベルでアイテム属性のオーバーライドを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「ノード・アイテム属性」を選択します。作業領域に、「ノード・アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。検索したノードに関連付けられているアイテムのリストが表示されます。
3. 該当するアイテムを選択して、 を選択します。作業領域に、「ノード・アイテムの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「ノード・オーバーライド値」列に、該当する属性のオーバーライド値を入力します。属性定義については、59 ページの『アイテムの分類の定義』を参照してください。
5.  を選択します。

ノード・レベルでのアイテム属性のオーバーライドの削除 このタスクについて

ノード・レベルでアイテム属性のオーバーライドを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「ノード・アイテム属性」を選択します。作業領域に、「ノード・アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。検索したノードに関連付けられているアイテムのリストが表示されます。

3. 該当するアイテムを選択して、 を選択します。

マスター単位の定義

アイテムの作成時に使用される数量と価格設定の両方の単位のマスター・リストを定義できます。

数量単位の定義

固有のアイテム ID と単位の組み合わせおよび代替のオーダー単位を定義するときに使用可能な数量単位のマスター・リストを定義できます。アイテムの固有単位と代替単位の定義について詳しくは、45 ページの『アイテムの定義』を参照してください。

数量単位の作成

このタスクについて

数量単位を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของ サイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム単位マスター」を選択します。作業領域に、「アイテム単位マスター」ウィンドウが表示されます。
2. 「数量単位」タブを選択します。
3.  を選択します。作業領域に、「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 28 を参照してください。
5.  を選択します。

表 28. 「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
単位コード	単位を選択します。

表 28. 「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
単位の説明	単位の簡単な説明を入力します。
LPN タイプ	単体が物理ケースの場合は、「ケース」を選択します。 単体が物理パレットの場合は、「パレット」を選択します。
UCC パッケージ・インジケータ	この単位に関連付けられたすべてのアイテムに対して標準で使用される UCC ケース・コードを入力します。
在庫はこの単位で保管されている	固有のアイテム ID と単位の組み合わせを定義するときこの単位を使用できる場合は、「在庫はこの単位で保管されている」を選択します。
この単位を使用してオーダー可能	特定のアイテム ID と単位の組み合わせに代替オーダー単位を関連付けるときこの単位を使用できる場合は、「この単位を使用してオーダー可能」を選択します。
変換で分数値の使用を許可	在庫単位から代替オーダー単位に数量を変換するとき分数値の数量を使用できるようにするには、「変換で分数値の使用を許可」を選択します。 選択しない場合、オーダー単位は常に在庫単位の正整数倍となります。 例えば、アイテムの在庫単位が「個」で、オーダー単位が「ケース」だとします。1 ケースは 12 個で構成されています。「ケース」単位で分数値の使用が許可されていない場合、10 個のアイテムを出荷することはできず、「ケース」と見なすことはできません。
単位変換の精度	「変換で分数値の使用を許可」を選択した場合は、小数部がここで指定した桁数に丸められます。例えば、「2」と入力すると、数値 1.456 は 1.46 に丸められます。 時間単位を構成している場合、時間はこのフィールドに指定した分単位で丸められます。例えば、時間単位として変換精度 20 を設定すると、14 分かかるものは 20 分に丸められ、67 分かかるものは 80 分に丸められます。 注: 数値は常に、指定した精度まで丸められます。

数量単位の変更

このタスクについて

数量単位を変更するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム単位マスター」を選択します。作業領域に、「アイテム単位マスター」ウィンドウが表示されます。
2. 「数量単位」タブを選択します。
3. 該当する単位を選択して、 を選択します。作業領域に、「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、92ページの表 28を参照してください。
5.  を選択します。

数量単位の削除

このタスクについて

数量単位の削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム単位マスター」を選択します。作業領域に、「アイテム単位マスター」ウィンドウが表示されます。
2. 「数量単位」タブを選択します。
3. 該当する単位を選択して、 を選択します。

価格設定単位の定義

アイテムが在庫単位とは異なる単位に基づいて価格設定される場合に使用可能な、価格設定単位のマスター・リストを定義できます。

例えば、「リンゴ」というアイテムがあるとします。「リンゴ」の在庫および販売の単位は「ケース」だとします。ただし、価格は各ケースの重量によって決定します。この場合は、アイテム「リンゴ」の在庫および価格設定の単位として、それぞれ「ケース」と「重量」を割り当てます。

価格設定単位の作成

このタスクについて

価格設定単位を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム単位マスター」を選択します。作業領域に、「アイテム単位マスター」ウィンドウが表示されます。
2. 「価格設定単位」タブを選択します。
3.  を選択します。作業領域に、「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "UOM Details". It has three input fields: "UOM Type" is a dropdown menu currently set to "Weight"; "UOM Code" is a dropdown menu with a small icon to its right; "UOM Description" is a text input field.

4. 「単位タイプ」で、該当する単位タイプを選択します。重量は、価格設定単位で唯一使用可能な単位タイプです。
5. 「単位コード」で、価格設定で使用できるようにする単位を選択します。
6. 「単位の説明」に、価格設定単位の簡単な説明を入力します。
7.  を選択します。

価格設定単位の変更

このタスクについて

価格設定単位を変更するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム単位マスター」を選択します。作業領域に、「アイテム単位マスター」ウィンドウが表示されます。
2. 「価格設定単位」タブを選択します。
3. 該当する単位を選択して、 を選択します。作業領域に、「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「単位の説明」に、価格設定単位の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

価格設定単位の削除

このタスクについて

価格設定単位を削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム単位マスター」を選択します。作業領域に、「アイテム単位マスター」ウィンドウが表示されます。
2. 「価格設定単位」タブを選択します。
3. 該当する単位を選択して、 を選択します。

マスター・カタログの定義

マスター・カタログとは、組織のアイテムを総括したリストです。商慣習上、アイテムのマスター・リストで異なる複数のグループが必要な場合は、複数のマスター・カタログを用意できます。

注: 「マスター・カタログの詳細」ポップアップ・ウィンドウの使用は本リリースでは推奨されておらず、今後のリリースで削除されます。マスター・カタログおよび販売カタログ (selling catalog) については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* カタログ管理概念ガイド」を参照してください。販売カタログは、『マスター・カタログの定義』で述べられているマスター・カタログの機能に代わるものです。

例えば、靴とシャツという 2 つの別個の製品を持つ小売組織を構成しているとして、商慣習上、靴とシャツの明細に対して 2 つの別個のカタログを作成する必要があります。その場合、靴の明細に含まれるすべてのアイテムのマスター・カタログと、シャツの明細に含まれるすべてのアイテムのマスター・カタログを設定できます。

マスター・カタログの作成

このタスクについて

マスター・カタログを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「マスター・カタログ」を選択します。作業領域に、「マスター・カタログの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「マスター・カタログの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 29 を参照してください。
4.  を選択します。

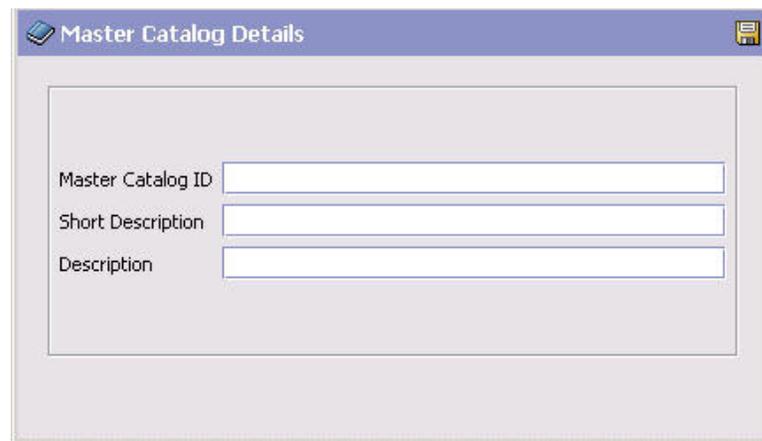


表 29. 「マスター・カタログの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
マスター・カタログ ID	マスター・カタログの ID を入力します。
簡略説明	マスター・カタログの簡単な説明を入力します。
説明	マスター・カタログの詳細な説明を入力します。

マスター・カタログの変更

このタスクについて

在庫は変化するため、定期的なカタログの更新または変更が必要となる場合があります。

マスター・カタログを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「マスター・カタログ」を選択します。作業領域に、「マスター・カタログの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「マスター・カタログ」リストが表示されます。
3. 該当するマスター・カタログを選択して、 を選択します。「マスター・カタログの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、96 ページの表 29を参照してください。
5.  を選択します。

マスター・カタログの削除

このタスクについて

マスター・カタログを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「マスター・カタログ」を選択します。作業領域に、「マスター・カタログの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「マスター・カタログ」リストが表示されます。
3. 該当するマスター・カタログを選択して、 を選択します。

カテゴリーの定義

カテゴリーは、カタログで複数の異なる検索可能な階層グループ内のアイテム・セット全体を記述する手段を提供します。各カテゴリーには複数のカタログからのアイテムを含めることができ、ユーザーは単一の外観ですべてのカタログを表示できます。

カテゴリー階層の最も高いレベルは「カタログ」と呼ばれます。カタログの下に存在しているすべてのグループは、「カテゴリー」と呼ばれます。

追加のカテゴリー属性の定義

カテゴリーは、複数の異なる検索可能な階層グループ内のアイテム・セット全体を記述する手段を提供します。

カテゴリー・ステータスの定義

「カタログ管理」でカテゴリーの設定時に使用されるカテゴリー・ステータスの共通コードを定義できます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトのカテゴリ・ステータスは、以下のとおりです。

- 2000 - 保留
- 3000 - 公開済み

カテゴリ・ステータスの作成:

このタスクについて

カテゴリ・ステータスを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「カテゴリ」>「追加のカテゴリ属性」を選択します。作業領域に、「カタログ・カテゴリ」ウィンドウが表示されます。
2. 「カテゴリ・ステータス」タブを選択します。
3.  を選択します。「カテゴリ・ステータスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Category Status Details". It contains three text input fields: "Category Status", "Short Description", and "Long Description".

4. 「カテゴリ・ステータス」に、使用するカテゴリ・ステータス値を入力します。
5. 「簡略説明」に、カテゴリ・ステータスの簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、カテゴリ・ステータスの詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

カテゴリ・ステータスの変更:

このタスクについて

カテゴリ・ステータスを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「カテゴリ」>「追加のカテゴリ属性」を選択します。作業領域に、「カタログ・カテゴリ」ウィンドウが表示されます。
2. 「カテゴリ・ステータス」タブを選択します。
3. 該当するカテゴリ・ステータスを選択して、 を選択します。「カテゴリ・ステータスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 「簡略説明」に、カテゴリ・ステータスの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、カテゴリ・ステータスの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

カテゴリ・ステータスの削除: このタスクについて

カテゴリ・ステータスを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「カテゴリ」>「追加のカテゴリ属性」を選択します。作業領域に、「カタログ・カテゴリ」ウィンドウが表示されます。
2. 「アイテム・ステータス」タブを選択します。
3. 該当するカテゴリ・ステータスを選択して、 を選択します。

注: デフォルトのカテゴリ・ステータスを削除することはできません。

追加属性の定義

アイテムの設定時に使用される追加属性の共通コードを定義できます。これにより、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルト設定によって取り込まれない、カテゴリに関するすべての追加情報を保管できます。これらの属性は、「カテゴリの詳細」画面にフィールドとして表示されます。追加属性は作成、変更、および削除できます。

以下に示すのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの追加属性です。

- DEFAULT

追加属性の作成: このタスクについて

追加属性を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「カテゴリ」>「追加のカテゴリ属性」を選択します。作業領域に、「カタログ・カテゴリ」ウィンドウが表示されます。
2. 「追加属性」タブを選択します。
3.  を選択します。「追加属性の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

- 「追加属性」に、使用する追加属性の値を入力します。

重要: 追加属性にはスペースも特殊文字も入れないでください。

- 「簡略説明」に、追加属性の簡単な説明を入力します。
- 「詳細説明」に、追加属性の詳細な説明を入力します。
-  を選択します。

追加属性の変更:

このタスクについて

追加属性を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

- アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「カテゴリ」>「追加のカテゴリ属性」を選択します。作業領域に、「カタログ・カテゴリ」ウィンドウが表示されます。
- 「追加属性」タブを選択します。
- 該当する追加属性を選択して、 を選択します。「追加属性の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
- 「簡略説明」に、追加属性の簡単な説明を入力します。
- 「詳細説明」に、追加属性の詳細な説明を入力します。
-  を選択します。

追加属性の削除:

このタスクについて

追加属性を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

- アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「カテゴリ」>「追加のカテゴリ属性」を選択します。作業領域に、「カタログ・カテゴリ」ウィンドウが表示されます。
- 「追加属性」タブを選択します。
- 該当する追加属性を選択して、 を選択します。

注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation で用意されているデフォルトの追加属性を削除することはできません。

分類の定義

アイテムの分類および分類の階層を定義することができます。これらは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で、ソーシング、サービスの関連付け、出荷プリアファレンスの決定などのアクションに対して使用できます。分類を定義することにより、アイテム属性は Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内で特定の用途で使用されているものとして識別されます。

例えば、カタログ内に危険物を含むアイテムと危険物を含まないアイテムがあるとします。危険物をノード 1 から、非危険物をノード 2 から調達するとします。このシナリオでは、ソーシングで使用される「危険物」アイテム属性のアイテム分類を定義できます。その後、分散オーダー管理アプリケーションでの必要性に応じて、ソーシング・ルールを構成できます。

分類に対して階層アイテム・グループを定義することもできます。これらのグループを使用して、分類目的 (classification purpose) の影響を受けるアイテムをさらに絞り込むことができます。

例えば、「アパレル」という分類を作成し、それを「製品明細」アイテム属性および「ソーシング」分類目的に関連付けたとします。この分類には、男性用と女性用の 2 種類の衣料品明細があり、それぞれ、シャツまたは靴のいずれかに分類されるアイテムを含んでいます。男性用衣料品をノード 1 から、女性用衣料品をノード 2 から調達するとします。

このシナリオでは、以下の図に詳しく示されているように、衣料品分類の分類階層を作成できます。

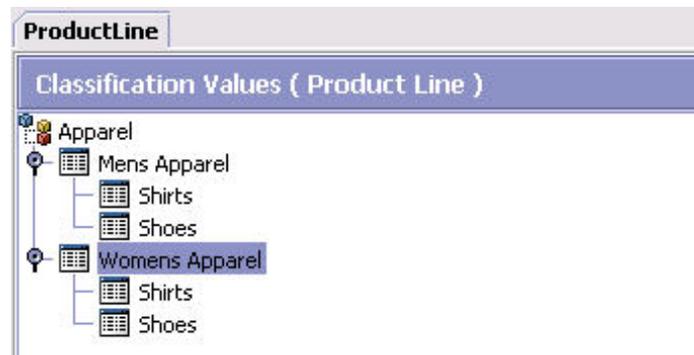


図 18. 「分類階層」の例

いったん階層が作成されると、アイテムを適切なレベルに割り当てて、男性用衣料品に関連付けられたすべてのアイテムをノード 1 から調達し、女性用衣料品に関連付けられたすべてのアイテムをノード 2 から調達するようにソーシング・ルールを構成できます。

分類レベルは、階層内のそれより上のすべての分類レベルをオーバーライドします。例えば、上記の例で、男性用衣料品はこのままノード 1 から調達するようにし

ておくものとして。ただし、ノード 1 から女性用の靴も調達することにします。このシナリオで、女性用衣料品の直下の靴レベルをノード 1 から調達するように構成するときに、すべての女性用衣料品をノード 2 から調達する元の構成が保持されたままであると、靴のソーシング・ルールによって女性用衣料品のソーシング・ルールがオーバーライドされます。

ソーシング・ルールの構成について詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイドを参照してください。

分類定義の定義

分類を作成して、アイテム属性を関連付けることができます。分類を定義した後、「アイテムの詳細」画面の対応するフィールドにルックアップ・ボタンが表示され、構成する分類値をそこから選択できるようになります。

分類定義の作成

このタスクについて

分類定義を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類定義」を選択します。作業領域に、「分類定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「分類定義」タブを選択します。
3.  を選択します。「分類の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

4. 「分類名」に、分類の名前を入力します。
5. 「アイテム属性」から、分類に関連付けるアイテム属性を選択します。

ドロップダウンのアイテム属性は、アンダースコア付きや、スペースなしで表示される場合があります。そうした表示の違いは無視してください。

6. 「説明」に、分類の簡単な説明を入力します。
7.  を選択します。

分類定義の変更

このタスクについて

分類定義を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類定義」を選択します。作業領域に、「分類定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「分類定義」タブを選択します。
3. 該当する分類定義を選択して、 を選択します。「分類の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「説明」に、分類の簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

分類定義の削除

このタスクについて

分類定義を削除するには、以下の手順を実行します。

注：アイテム属性モデルに結合している分類定義は、バリエーションのあるアイテムの分類には使用しないでください。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類定義」を選択します。作業領域に、「分類定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「分類定義」タブを選択します。
3. 該当する分類定義を選択して、 を選択します。

分類目的の定義

分類の定義を作成した後、システム内でのその分類の使用方法を決定できます。システム分類のデフォルトの目的については、表 30を参照してください。

表 30. 分類目的の定義

分類目的	説明
容量	「キャパシティー」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムに対して同じキャパシティー制約を定義できます。キャパシティーについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。

表 30. 分類目的の定義 (続き)

分類目的	説明
調達	「調達」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムで特定の調達ルールのロジックが使用されるようにすることができます。調達について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド</i> 」を参照してください。
ソーシング 1/ソーシング 2/ ソーシング 3	「ソーシング」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムで特定のソーシング・ルールのロジックが使用されるようにすることができます。ソーシングについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド</i> 」を参照してください。
容器カテゴリー/容器カテゴリー 1/容器のカテゴリー 2/ 容器カテゴリー 3/容器カテゴリー 4	「容器カテゴリー」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムを同じ方法で容器に詰めることができます。 デフォルトでは、容器詰めを実行するために 5 つの容器カテゴリー分類目的が用意されています。これらの容器カテゴリー分類目的は、実際の要件に応じて、StorageType、ItemType、ProductLine などのアイテム属性に関連付けられるように構成できます。 容器カテゴリーについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
棚卸方法 1/棚卸方法 2/棚卸方法 3	「棚卸方法」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムに対して同じ棚卸方法を使用できます。棚卸方法について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
個別の属性	「個別の属性」を分類目的として選択すると、所定のアイテムに対して一連の固有の属性を定義できます。
継承されたアイテム属性	「継承されたアイテム属性」を分類目的として選択すると、分類に基づいてアイテム属性のデフォルト値を定義できます。
ロケーション在庫モニター 1/ロケーション在庫モニター 2/ロケーション在庫モニター 3	「ロケーション在庫モニター」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムに対し、在庫が特定の在庫モニター・レベルに達したロケーションがある場合に警告を発することができます。ロケーション在庫モニターについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
NMFC	NMFC を分類目的として選択すると、National Motor Freight Classification (NMFC) に従ってアイテムをグループ化して、出荷の正確な分類および価格設定を行うことができます。NMFC について詳しくは、59 ページの『アイテムの分類の定義』を参照してください。
梱包制約 1/梱包制約 2/梱包制約 3	「梱包制約」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムの混合制約を定義できます。梱包制約について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。

表 30. 分類目的の定義 (続き)

分類目的	説明
生産性	「生産性」を分類目的として選択すると、アイテムの分類によって生産性の測定基準をカテゴリー化できます。生産性について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
受入プリファレンス	「受入プリファレンス」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムの受入ルールを定義できます。受入プリファレンスについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
取り出し 1/取り出し 2/取り出し 3	「取り出し」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムの取り出しルールを定義できます。取り出しについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
ルーティング・ガイド	「ルーティング・ガイド」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムのルーティング・ルールを定義できます。ルーティング・ガイドについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Logistics Management Configuration Guide</i> 」を参照してください。
サービスの関連付け	「サービスの関連付け」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムを一連の提供サービスまたは配送サービスに関連付けることができます。サービスの関連付けについて詳しくは、112 ページの『分類値への提供サービスおよび配送サービスの関連付け』を参照してください。
出荷プリファレンス	「出荷プリファレンス」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムの出荷ルールを定義できます。出荷プリファレンスについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide</i> 」を参照してください。
SKU ユニット・サイズ・コード	「SKU ユニット・サイズ・コード」を分類目的として選択すると、アイテムのサイズ・コードを定義できます。つまり、特定のサイズ・コードのアイテムのカートン・キャパシティーを定義できます。SKU ユニット・サイズ・コードについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
保管 1/保管 2/保管 3	「保管」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムの格納 (putaway) を促進できます。保管について詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。
VAS	「VAS」を分類目的として選択すると、分類されるアイテムの付加価値サービスを促進できます。付加価値サービスについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System Configuration Guide</i> 」を参照してください。

分類目的の作成

このタスクについて

分類目的を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類定義」を選択します。作業領域に、「分類定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「分類目的」タブを選択します。
3.  を選択します。「分類目的の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



4. 「目的の説明」から、該当する分類目的を選択します。

重要: 複数の分類定義を分類目的に割り当てることはできません。

5. 「連結する分類定義」で、分類目的を関連付ける分類を選択します。
6.  を選択します。

分類目的の変更

このタスクについて

分類目的を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類定義」を選択します。作業領域に、「分類定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「分類目的」タブを選択します。
3. 該当する分類目的を選択して、 を選択します。「分類目的の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「連結する分類定義」で、分類目的を関連付ける分類を選択します。
5.  を選択します。

分類目的の削除

このタスクについて

分類目的を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類定義」を選択します。作業領域に、「分類定義」ウィンドウが表示されます。
2. 「分類目的」タブを選択します。
3. 該当する分類目的を選択して、 を選択します。

分類階層の定義

分類階層には、階層形式の特定の分類に対して指定することのできるすべての有効な値が含まれています。分類は常にアイテム・マスター内の属性に関連付けられています。この階層には、関連付けられたアイテム属性に指定することのできるすべての値が保管されます。

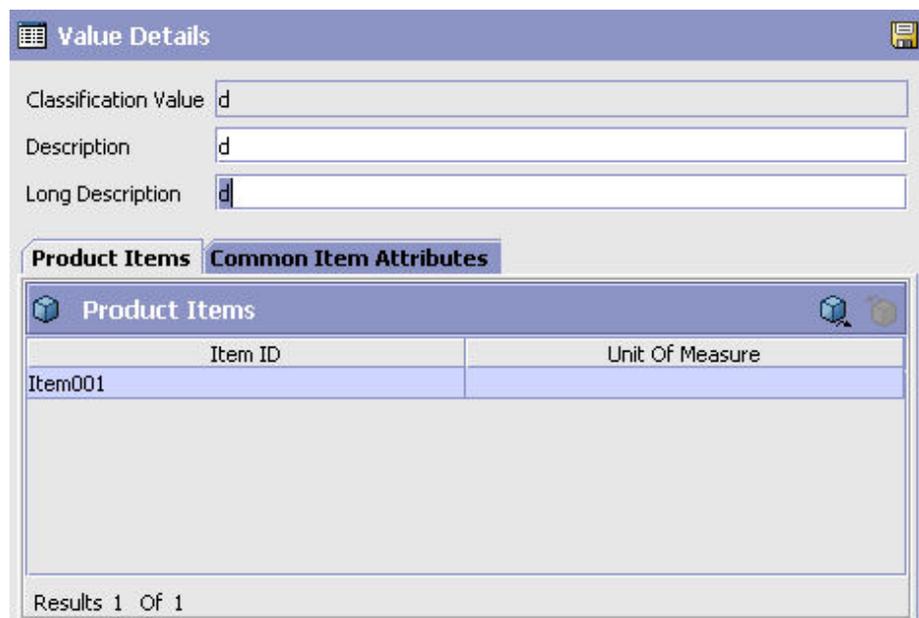
分類値の作成

このタスクについて

分類値を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「値の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



Item ID	Unit Of Measure
Item001	

3. 「分類値」に、分類値を入力します。

注: 分類の定義がアイテム属性製品回転コードに関連付けられている場合は、「値の詳細」画面で有効な値 (既存の製品回転コード) のみを入力する必要があります。

4. 「説明」に、分類値の簡単な説明を入力します。

注: 分類値に対して入力した説明は、ユーザー・インターフェース上の分類階層にリテラルで表示されます。異なる分類値に対して同じ説明を使用できます。したがって、1 つの値の説明をユーザー・インターフェース上で何度でも使用することができます。この場合、マウスオーバーすることにより、説明が適用される分類値がわかります。

5. 「詳細説明」に、分類値の詳細な説明を入力します。

6.  を選択します。

アイテムの変更および分類値へのアイテムの追加 このタスクについて

分類値を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されず。
2. 該当する分類値を選択して、 を選択します。「値の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「説明」に、分類値の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、分類値の詳細な説明を入力します。
5. 「分類アイテム・リスト」で、 を選択します。「アイテムの検索」ウィンドウが表示されます。
6. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。アイテムのリストが表示されます。
7. この分類に関連付けるアイテムを選択します。
8.  を選択します。

分類値の共通アイテム属性の定義 このタスクについて

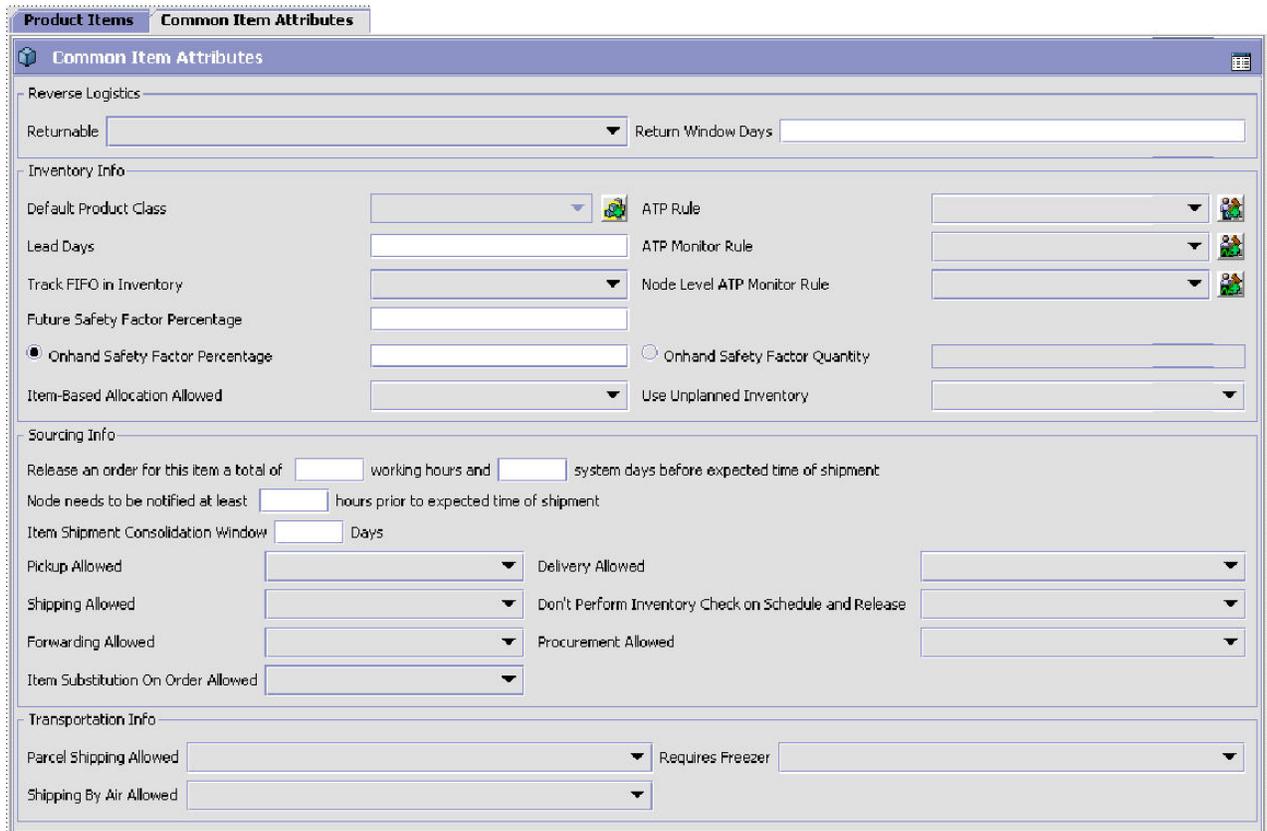
共通アイテム属性を分類レベルで定義できます。この分類レベルを使用するアイテムは、これらの属性の値がアイテム・レベルで指定済みでない限り、これらの属性の値を継承します。アイテムの詳細について詳しくは、45 ページの『アイテムの定義』を参照してください。

注: 共通アイテム属性を構成するには、分類目的を分類値に割り当てる必要があります。分類目的について詳しくは、103 ページの『分類目的の定義』を参照してください。

分類値の共通アイテム属性を定義するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されません。
2. 該当する分類値を選択して、 を選択します。「値の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「共通アイテム属性」タブを選択します。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 31を参照してください。
4.  を選択します。



The screenshot shows the 'Common Item Attributes' window with the following sections and fields:

- Reverse Logistics:** Returnable (dropdown), Return Window Days (text field).
- Inventory Info:** Default Product Class (dropdown), ATP Rule (dropdown with icon), ATP Monitor Rule (dropdown with icon), Track FIFO in Inventory (dropdown), Node Level ATP Monitor Rule (dropdown with icon), Future Safety Factor Percentage (text field), Onhand Safety Factor Percentage (radio button), Onhand Safety Factor Quantity (radio button), Item-Based Allocation Allowed (dropdown), Use Unplanned Inventory (dropdown).
- Sourcing Info:** Release an order for this item a total of (text) working hours and (text) system days before expected time of shipment; Node needs to be notified at least (text) hours prior to expected time of shipment; Item Shipment Consolidation Window (text) Days; Pickup Allowed (dropdown), Delivery Allowed (dropdown); Shipping Allowed (dropdown), Don't Perform Inventory Check on Schedule and Release (dropdown); Forwarding Allowed (dropdown), Procurement Allowed (dropdown); Item Substitution On Order Allowed (dropdown).
- Transportation Info:** Parcel Shipping Allowed (dropdown), Requires Freezer (dropdown); Shipping By Air Allowed (dropdown).

表 31. 「値の詳細」、 「共通アイテム属性」 タブ

フィールド	説明
表示アイコン	

表 31. 「値の詳細」、 「共通アイテム属性」 タブ (続き)

フィールド	説明
	このアイコンをクリックして、「拡張属性」ポップアップ・ウィンドウを開きます。追加の共通アイテム属性を指定済みの場合は、それらの属性が分類で使用されるよう、ここで定義できます。
返品物流	
返品可能	このアイテムを返品できるかどうかを指定します。
返品期間日数	アイテムの受入から何日以内であればバイヤーがアイテムを返品可能であるかを入力します。
在庫情報	
デフォルトの製品クラス (Default Product Class)	商慣習に基づいて構成した製品クラスがあれば、選択します。製品クラスについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。
ATP ルール	使用する ATP ルールを選択します。ATP ルールで定義されているパラメーターは、使用可能な在庫を決定するために使用されます。ATP ルールについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 統合在庫管理 構成ガイド」を参照してください。 注: ATP ルールを選択しない場合は、システムのデフォルトの ATP ルールが使用されます。
リード日数	在庫を調達し、この分類のアイテムを出荷できるようになるまでに要する時間 (日数) を入力します。
ATP モニター・ルール	使用する在庫モニター・ルールを選択します。最小在庫レベルは、選択された ATP モニター・ルールに設定されているパラメーターに基づいて決定されます。ATP モニター・ルールについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 統合在庫管理 構成ガイド」を参照してください。
在庫の FIFO 追跡	先入れ先出し (FIFO) の数値によって在庫が追跡されるよう指定します。 FIFO の数値は、システムによって自動的に生成されます。
ノード・レベルの ATP モニター・ルール	使用するノード・レベルの在庫モニター・ルールを選択します。このアイテムの最小在庫レベルは、選択した ATP モニター・ルールに設定されているパラメーターに基づきます。ATP モニター・ルールについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 統合在庫管理 構成ガイド」を参照してください。
将来の安全係数率	将来の在庫状況から除外する在庫の割合を入力します。
アイテム・ベースの割り当て許可	アイテムに対してアイテム・ベースの割り当てを許可するには、ドロップダウン・リストからこのオプションを選択します。「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールが有効な場合、アイテム・ベースの割り当ては、「アイテム・ベースの割り当て許可」属性が有効になっているアイテムおよびノードに対してのみ適用できます。アイテム・ベース割り当てについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 製品概念の手引き」を参照してください。

表 31. 「値の詳細」、 「共通アイテム属性」 タブ (続き)

フィールド	説明
未定在庫の使用	このアイテムの未定在庫を使用するには、このオプションを選択します。
手持ちのセーフティー要因率	手持ちの在庫状況から除外する在庫の割合を入力するには、このオプションを選択します。 このオプションを選択した場合は、「手持ちのセーフティー要因の数量」は指定できません。
手持ちのセーフティー要因の数量	手持ちの在庫状況から除外する在庫の数量を入力するには、このオプションを選択します。 このオプションを選択した場合は、「手持ちのセーフティー要因率」は指定できません。
ソーシング情報	
このアイテムのオーダーを、出荷予定日時より合計<時間数> 時間 (作業時間) と <日数> 日 (システム日数) 前にリリースする	このアイテムに対するオーダーを出荷予定日時の前にリリースする必要のある合計の作業時間数とシステム日数を入力します。
出荷予定日時の少なくとも<時間数> 時間前にノードに通知する必要がある	出荷予定日時の前にノードに通知する必要のある最小時間数を入力します。
アイテム出荷集約期間 <日数> 日	アイテムが使用可能になった後、他のアイテムと集約するためにアイテムの出荷を遅らせることが可能な日数を入力します。
ピックアップ許可	ピックアップが許可されるかどうかを指定します。
配達許可	配達が許可されるかどうかを指定します。オプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - はい、配達は許可されます • M - 他にも配達するものがある場合にのみ許可されます • N - いいえ、配達は許可されません
出荷許可	出荷が許可されるかどうかを指定します。オプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - はい、出荷は許可されます • M - 配達不可の場合にのみ許可されます • N - いいえ、出荷は許可されません
スケジュール時およびリリース時に在庫チェックを実行しない	「スケジュールおよびリリース」プロセスで在庫チェックを実行するかどうかを指定します。
フォワーディング許可	フォワーディングが許可されるかどうかを指定します。
調達許可	調達が許可されるかどうかを指定します。
オーダーでのアイテム交換許可 (Item Supersession on Order Allowed)	アイテムの交換が許可されるかどうかを指定します。
輸送情報	
小包出荷利用可能	転送において小包の出荷が許可されるかどうかを指定します。

表 31. 「値の詳細」、 「共通アイテム属性」 タブ (続き)

フィールド	説明
要冷凍庫	輸送中にアイテムを冷凍庫で保管する必要があるかどうかを指定します。
航空便利用可能	アイテムを航空便で出荷できるかどうかを指定します。

分類値の削除

このタスクについて

分類値を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」 > 「分類」 > 「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する分類値を選択して、 を選択します。

分類値への提供サービスおよび配送サービスの関連付け

このタスクについて

サービスを分類値に関連付けることができます。

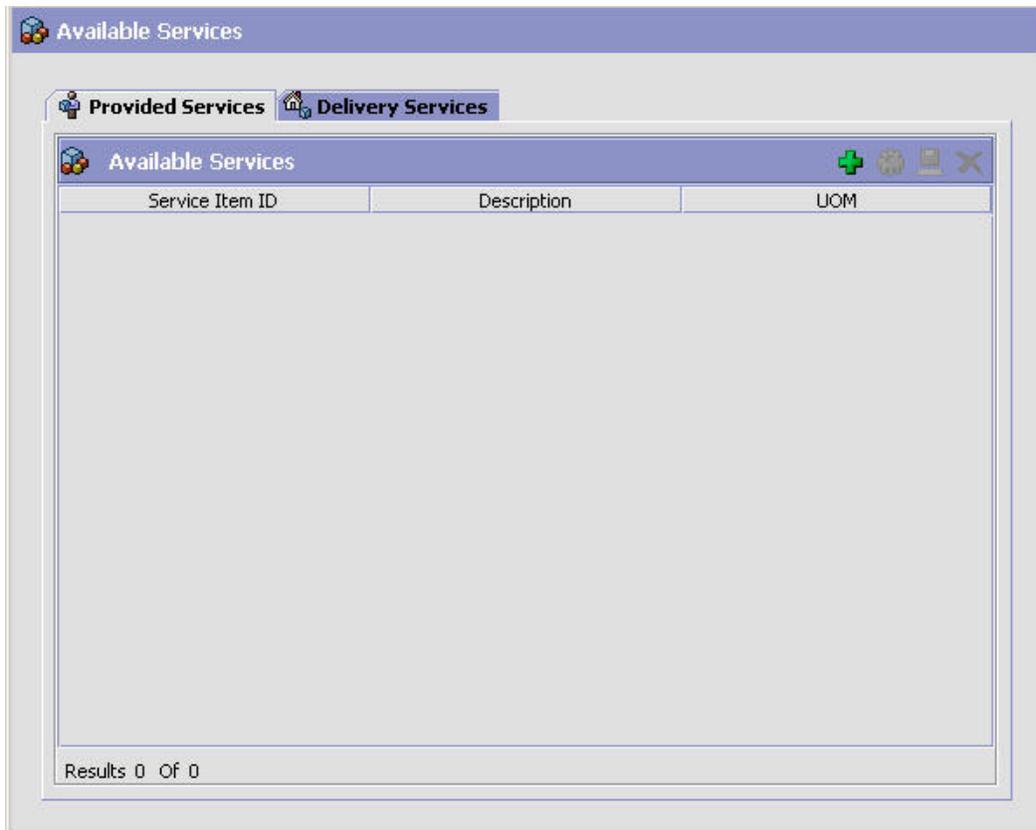
「サービス・スキル」タブを使用して、以下を実行できます。

- 分類値への提供サービスの関連付け
- 分類値への配送サービスの関連付け

サービスを分類値に関連付けるには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」 > 「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」 > 「分類」 > 「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「利用可能なサービス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



提供サービスの関連付けの作成: このタスクについて

提供サービスの関連付けを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「利用可能なサービス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「提供サービス」タブを選択します。
4.  を選択します。「サービスの関連付けの詳細 (Service Association Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、70ページの表 16を参照してください。

6.  を選択します。

提供サービスの関連付けの変更: このタスクについて

提供サービスの関連付けを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「利用可能なサービス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「提供サービス」タブを選択します。
4.  を選択します。「サービスの関連付けの詳細 (Service Association Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、70ページの表 16を参照してください。
6.  を選択します。

提供サービスの関連付けの削除:

このタスクについて

提供サービスの関連付けを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「利用可能なサービス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「提供サービス」タブを選択します。
5. 該当する提供サービスの関連付けを選択して、 を選択します。

配送サービスの関連付けの作成:

このタスクについて

配送サービスの関連付けを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「利用可能なサービス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「配送サービス」タブを選択します。
4.  を選択します。「サービスの関連付けの詳細 (Service Association Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、70ページの表 16を参照してください。
6.  を選択します。

配送サービスの関連付けの変更:

このタスクについて

配送サービスの関連付けを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。

3.  を選択します。「利用可能なサービス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「配送サービス」タブを選択します。
4.  を選択します。「サービスの関連付けの詳細 (Service Association Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、70 ページの表 16を参照してください。
6.  を選択します。

配送サービスの関連付けの削除: このタスクについて

配送サービスの関連付けを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「カタログ管理」を選択します。サイド・パネルに、「カタログ管理」ツリーが表示されます。
2. 「カタログ管理」ツリーから、「製品」>「分類」>「分類階層」を選択します。作業領域に、「分類値」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「利用可能なサービス」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「配送サービス」タブを選択します。
4. 該当する配送サービスの関連付けを選択して、 を選択します。

エイリアス・タイプの定義

アイテムの構成時に使用されるエイリアス・タイプの共通コードを定義できます。エイリアス (alias) は、「アイテムの詳細」画面にフィールドとして表示されます。

以下に示すのは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトのエイリアス・タイプです。

- UPC コード

エイリアス・タイプの作成

このタスクについて

エイリアス・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム属性」>「エイリアス・タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムのエイリアス」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「エイリアス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled "Item Alias Type Details". It has a title bar with a save icon. The main area contains three text input fields, each with a label to its left: "Item Alias Type", "Short Description", and "Long Description".

3. 「エイリアス・タイプ」に、使用するエイリアス・タイプの値を入力します。

注: エイリアス・タイプにはスペースも特殊文字も入れないでください。

4. 「簡略説明」に、エイリアス・タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、エイリアス・タイプの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

エイリアス・タイプの変更

このタスクについて

エイリアス・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム属性」>「エイリアス・タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムのエイリアス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するエイリアス・タイプを選択して、 を選択します。「エイリアス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、エイリアス・タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、エイリアス・タイプの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

エイリアス・タイプの削除

このタスクについて

エイリアス・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム属性」>「エイリアス・タイプ」を選択します。作業領域に、「アイテムのエイリアス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するエイリアス・タイプを選択して、 を選択します。

注: デフォルトのエイリアス・タイプを削除することはできません。

アイテムのコスト計上分類

カタログ管理でアイテムを設定する際にコスト計上分類を作成すると、アイテムを該当する会計元帳グループにグループ分けできます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation が会計アプリケーションと統合されるときに、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のトランザクションから一連の会計計上への変換、およびトランザクション内のアイテムの分類値が、会計アプリケーションのインターフェースに取り込まれます。

アイテムのコスト計上分類の作成

このタスクについて

アイテムのコスト計上分類を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム属性」>「コスト計上分類」を選択します。作業領域に、「コスト計上分類タイプ (Cost Posting Classifications Types)」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「コスト計上分類の詳細 (Cost Posting Classification Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「コスト計上分類」に、アイテムの会計元帳グループ分類に使用する値を入力します。
4. 「簡略説明」に、コスト計上分類の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、コスト計上分類の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

アイテムのコスト計上分類の変更

このタスクについて

アイテムのコスト計上分類を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム属性」>「コスト計上分類」を選択します。作業領域に、「コスト計上分類」ウィンドウが表示されます。

2. 該当するコスト計上分類を選択して、 を選択します。「コスト計上分類の詳細 (Cost Posting Classification Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、コスト計上分類の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、コスト計上分類の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

アイテムのコスト計上分類の削除 このタスクについて

アイテムのコスト計上分類を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「製品」>「アイテム属性」>「コスト計上分類」を選択します。作業領域に、「コスト計上分類」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するコスト計上分類を選択して、 を選択します。

第 5 章 配送サービスの構成

配送サービスは、顧客宅までの近距離配達とアイテムとの関連付けに使用されるサービス・アイテム (service item) です。顧客宅までの近距離配達では、オーダーの出荷とは異なり、キャパシティー制約が定義された配送業者を使用して特定のアイテムを配送します。配送サービスは通常、次のようなアイテムに対して使用します。

- 重量物、特大サイズ、または壊れ物であり、一般の配送業者では輸送できないアイテム
- 特別な機器や人員を使用するなど、特殊な扱いが必要となる製品

配送サービスと関連付けることのできるアイテムの例としては、プロジェクション・テレビや洗濯機があります。

配送アイテムは、アイテム ID と計測単位によって一意的に定義されます。キャパシティーを、配送アイテムおよびソーシング・ルール用に維持されるように構成することができます。配送サービス・アイテムのキャパシティー・ルールの構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。配送サービス・アイテム・ソーシング・ルールの構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

配送サービス・オプションの定義

配送サービスに追加可能な追加オプションを定義できます。これらのオプションでは、追加キャパシティー要件やコストを、その要件やコストと関連付ける配送サービスに追加できます。

注: 配送サービス・オプションは、複数の配送サービス・アイテムに関連付けることができます。

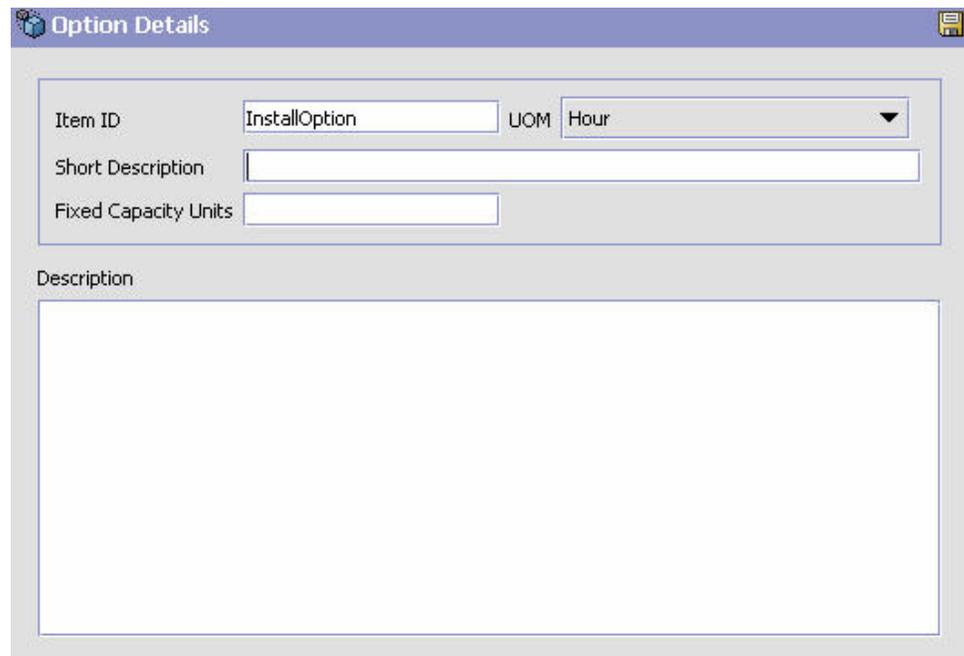
例えば、プロジェクション・テレビの配達時に使用する、「2人で配達」および「接続」といった配送サービス・アイテムが構成されているかもしれません。2つの配達オプションを作成して、「ごみの撤去および運搬」という名の配送サービス・アイテムに関連付けることもできます。これらのオプションを使用して、顧客は、残ったごみをプロジェクション TV の箱から配達担当者が撤去することを希望するか、および古いテレビを配達担当者が運搬するかどうかを決めることができます。

配送サービス・オプションの作成 このタスクについて

配送サービス・オプションを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「配送サービス」 > 「配送サービス・オプション」を選択します。作業領域に、「配送サービス・オプションの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。
4.  を選択します。



The image shows a software dialog box titled "Option Details". It contains several input fields: "Item ID" with the value "InstallOption", "UOM" with a dropdown menu showing "Hour", "Short Description" (empty), and "Fixed Capacity Units" (empty). Below these fields is a large text area labeled "Description".

表 32. 「オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム ID	配送サービス・オプションのアイテムの ID を入力します。
単位	配送サービス・オプションに関連付ける単位を選択します。 重要: 配送サービス・オプションは、同じ単位を使用する配送サービス・アイテムとのみ関連付けることができます。
簡略説明	配送サービス・オプションの簡単な説明を入力します。
固定キャパシティーの単位	単位に基づいた、配送サービスにより消費されるキャパシティーの量を入力します。例えば、この配送サービス・オプションの単位が「時間」で、オプションの完了に 1 時間かかる場合は、「1」と入力します。
説明	配送サービス・オプションの詳細な説明を入力します。

配送サービス・オプションの変更

このタスクについて

配送サービスを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「配送サービス」> 「配送サービス・オプション」を選択します。作業領域に、「配送サービス・オプションの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。配送サービス・オプションのリストが表示されます。
3. 該当する配送サービス・オプションを選択して、 を選択します。「オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、122ページの表 32を参照してください。
5.  を選択します。

配送サービス・オプションの削除

このタスクについて

配送サービスを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「配送サービス」> 「配送サービス・オプション」を選択します。作業領域に、「配送サービス・オプションの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。配送サービス・オプションのリストが表示されます。
3. 該当する配送サービス・オプションを選択して、 を選択します。

配送サービスのマスター単位の定義

配送サービス・アイテムの作成時に使用されるキャパシティと価格設定の両方の単位のマスター・リストを定義できます。

配送サービスのマスター単位の作成

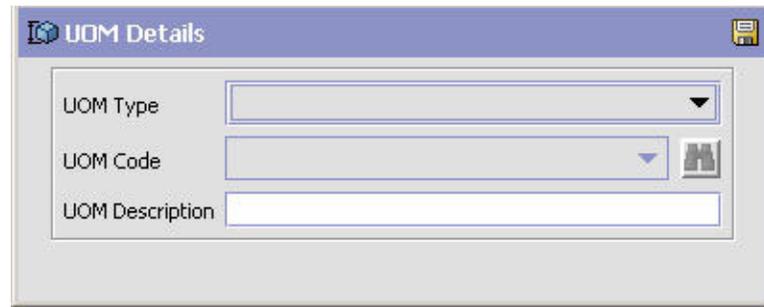
このタスクについて

マスター単位を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「配送サービス」> 「配送サービス単位マスター」を選択します。作業領域に、「配送サービス単位」ウィンドウが表示されます。

2.  を選択します。「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「単位タイプ」で、該当する単位タイプを選択します。
4. 「単位コード」で、配送サービスで使用できるようにする単位を選択します。
5. 「単位の説明」に、配送サービスの単位の簡単な説明を入力します。
6.  を選択します。

配送サービスのマスター単位の変更 このタスクについて

マスター単位を変更するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「配送サービス」> 「配送サービス単位マスター」を選択します。作業領域に、「配送サービス単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、配送サービスの単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

配送サービスのマスター単位の削除 このタスクについて

マスター単位を削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「配送サービス」> 「配送サービス単位マスター」を選択します。作業領域に、「配送サービス単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

配送サービス・タイプの定義

配送サービス・タイプの作成

このタスクについて

配送サービス・アイテムの作成時に使用するサービス・タイプを定義できます。配送サービス・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「配送サービス」 > 「サービス・タイプ」 > 「配送サービス・タイプ」を選択します。作業領域に、「配送サービス・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「サービス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

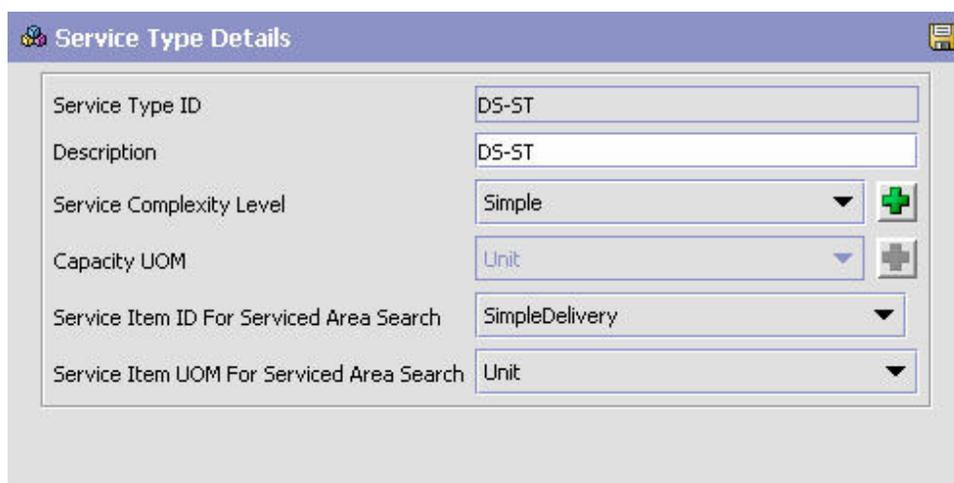


表 33. 「サービス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービス・タイプ ID	サービス・タイプの固有 ID を入力します。 サービス・タイプ ID は、配送サービスおよび提供サービス全体で固有でなければなりません。
説明	サービス・タイプの説明を入力します。
サービスの複雑度	サービスの複雑度を選択します。 注: サービス・タイプを定義する場合、サービスの複雑度は必須です。詳しくは、33 ページの『サービスの複雑度の定義』を参照してください。
キャパシティーの単位	キャパシティーの単位を選択します。
サービス領域検索用のサービス・アイテム ID	サービス対象領域の検索機能をコンソールで使用する予定の場合、典型的な配送サービスが表示されたドロップダウン・リストからサービス・アイテム ID を選択します。
サービス領域検索用のサービス・アイテム単位	サービス対象領域の検索機能を PC 実動コンソールで使用する予定の場合、典型的な配送サービスが表示されたドロップダウン・リストからサービス・アイテム単位を選択します。

3. 必要なフィールドに情報を入力します。詳しくは、125 ページの表 33を参照してください。
4.  を選択します。

配送サービス・タイプの変更

このタスクについて

配送サービス・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「配送サービス」>「サービス・タイプ」>「配送サービス・タイプ」を選択します。作業領域に、「配送サービス・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するサービス・タイプを選択して、 を選択します。「サービス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドの情報を編集します。詳しくは、125 ページの表 33を参照してください。
4.  を選択します。

配送サービス・タイプの削除

このタスクについて

配送サービス・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「配送サービス」>「サービス・タイプ」>「配送サービス・タイプ」を選択します。作業領域に、「配送サービス・タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するサービス・タイプを選択して、 を選択します。

追加キャパシティーの定義

特定のサービス・タイプ (service type) と地域レベルの組み合わせに対して追加キャパシティーを定義できます。例えば、配達には都市よりも郊外のほうが時間がかかる可能性があります。そのため、特定サービス・タイプでの特定地域への 1 回の配達につき、必ず特定の時間数を追加するようにすると便利です。Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、これを「追加キャパシティー」ウィンドウを使用して設定できます。

追加キャパシティーの作成

このタスクについて

追加キャパシティーを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「配送サービス」>「サービス・タイプ」>「追加キャパシティー」を選択します。作業領域に、「追加キャパシティー」ウィンドウが表示されます。

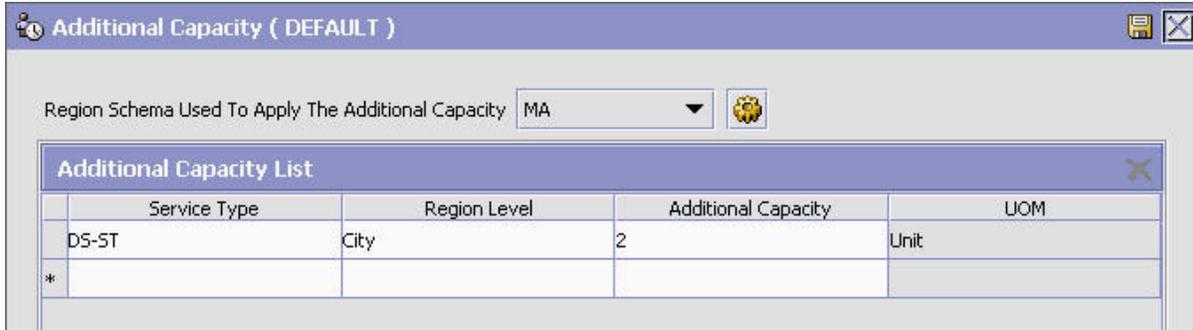


表 34. 「追加キャパシティー」ウィンドウ

フィールド	説明
追加キャパシティーを適用するために使用する地域スキーマ	ドロップダウン・リストから、追加キャパシティーが適用される地域スキーマを選択します。
追加キャパシティー	
サービス・タイプ	ドロップダウン・リストから、追加キャパシティーを追加するサービス・タイプを選択します。
地域レベル	ドロップダウン・リストから、選択したサービス・タイプを追加する地域レベルを選択します。
追加キャパシティー	このフィールドをダブルクリックし、選択したサービス・タイプおよび地域レベルに対して追加するキャパシティーの量を入力します。
単位	選択したサービス・タイプに関連付けられた単位。このフィールドは、データが自動的に入力され、読み取り専用になっています。

2. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 34を参照してください。
3.  をクリックします。

追加キャパシティーの変更 このタスクについて

追加キャパシティーを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「配送サービス」>「サービス・タイプ」>「追加キャパシティー」を選択します。作業領域に、「追加キャパシティー」ウィンドウが表示されます。

2. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、127 ページの表 34を参照してください。
3.  をクリックします。

追加キャパシティーの削除 このタスクについて

追加キャパシティーを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「配送サービス」>「サービス・タイプ」>「追加キャパシティー」を選択します。作業領域に、「追加キャパシティー」ウィンドウが表示されます。
2. 「追加キャパシティー」テーブルから削除する行を右クリックして、「削除」をクリックします。
3.  をクリックします。

第 6 章 提供サービスの構成

提供サービス (provided service) は、オーダーで提供可能な、物理アイテムではない任意の追加アクションです。例えば、カタログ (catalog) に「洗濯機」アイテムがあり、その設置サービスを提供するとします。このシナリオでは、「設置」提供サービスを作成して、顧客が洗濯機を注文する際にそのサービスを提供できるようにします。

注: 提供サービスは、アイテムと関連付ける必要はありません。また、独立したサービス・アイテムとして扱われるように構成することができます。

提供サービス・アイテムは、アイテム ID と単位によって一意的に定義されます。キャパシティーを、提供サービス・アイテムおよびソーシング・ルール用に維持されるように構成することができます。提供サービス・アイテム・キャパシティー・ルールの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。提供サービス・アイテム・ソーシング・ルールの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

提供サービス・オプションの定義

提供サービスに追加可能な追加オプションを定義できます。これらのオプションでは、追加キャパシティー要件やコストを、その要件やコストと関連付ける提供サービスに追加できます。

注: 提供サービス・オプションは、複数の提供サービス・アイテムに関連付けることができます。

例えば、カーペットの設置時に使用する「設置」サービス・アイテムを構成したとします。「ごみの撤去」という名の配送サービス・アイテムに関連付けるための提供サービス・オプションを作成することもできます。顧客はこのオプションを使用して、カーペットの設置後に残ったごみをカーペットの設置担当者に回収してもらうかどうかを決めることができます。

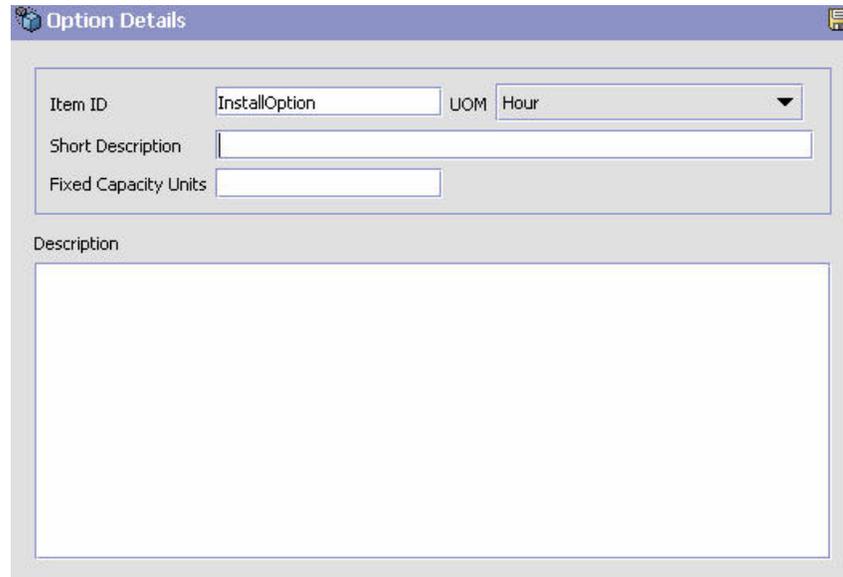
提供サービス・オプションの作成 このタスクについて

提供サービス・オプションを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「提供サービス」> 「提供サービス・オプション」を選択します。作業領域に、「提供サービス・オプションの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 35 を参照してください。
-  を選択します。



The image shows a software dialog box titled "Option Details". It contains several input fields: "Item ID" with the value "InstallOption", "UOM" with a dropdown menu showing "Hour", "Short Description" (empty), and "Fixed Capacity Units" (empty). Below these fields is a large text area labeled "Description".

表 35. 「オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム ID	システム全体で表示する、提供サービス・オプションのアイテム ID を入力します。
単位	提供サービス・オプションに関連付ける単位を選択します。 重要: 提供サービス・オプションは、同じ単位の提供サービス・アイテムとのみ関連付けることができます。
簡略説明	提供サービス・オプションの簡単な説明を入力します。
固定キャパシティの単位	単位に基づいた、提供サービスにより消費されるキャパシティの量を入力します。例えば、この提供サービス・オプションの単位が「時間」で、オプションの完了に 2 時間かかる場合は、「2」と入力します。
説明	提供サービス・オプションの詳細な説明を入力します。

提供サービス・オプションの変更

このタスクについて

提供サービス・オプションを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

- アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「提供サービス」>「提供サービス・オプション」を選択します。作業領域に、「提供サービス・オプションの検索」ウィンドウが表示されます。

2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。提供サービス・オプションのリストが表示されます。
3. 該当する提供サービス・オプションを選択して、 を選択します。「オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、130ページの表 35を参照してください。
5.  を選択します。

提供サービス・オプションの削除

このタスクについて

提供サービス・オプションを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「提供サービス」>「提供サービス・オプション」を選択します。作業領域に、「提供サービス・オプションの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。提供サービス・オプションのリストが表示されます。
3. 該当する提供サービス・オプションを選択して、 を選択します。

提供サービスのマスター単位の定義

提供サービス・アイテムの作成時に使用されるキャパシティーと価格設定の両方の単位のマスター・リストを定義できます。

提供サービスのマスター単位の作成

このタスクについて

マスター単位を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「提供サービス」>「提供サービス単位マスター」を選択します。作業領域に、「提供サービスの単位」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 「単位タイプ」で、該当する単位タイプを選択します。
4. 「単位コード」で、提供サービスで使用できるようにする単位を選択します。
5. 「単位の説明」に、提供サービスの単位の簡単な説明を入力します。
6.  を選択します。

提供サービスのマスター単位の変更

このタスクについて

マスター単位を変更するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「提供サービス」> 「提供サービス単位マスター」を選択します。作業領域に、「提供サービスの単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。「単位の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「単位の説明」に、提供サービスの単位の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

提供サービスのマスター単位の削除

このタスクについて

マスター単位を削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「提供サービス」> 「提供サービス単位マスター」を選択します。作業領域に、「提供サービスの単位」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する単位を選択して、 を選択します。

提供サービス・タイプの定義

提供サービス・タイプの作成

このタスクについて

提供サービス・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「提供サービス」>「提供サービスのタイプ」を選択します。作業領域に、「提供サービスのタイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「サービス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



表 36. 「サービス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
サービス・タイプ ID	サービス・タイプの固有 ID を入力します。 サービス・タイプ ID は、配送サービスおよび提供サービス全体で固有でなければなりません。
説明	サービス・タイプの説明を入力します。
サービスの複雑度	サービスの複雑度を選択します。 注: サービス・タイプを定義する場合、サービスの複雑度は必須です。詳しくは、33 ページの『サービスの複雑度の定義』を参照してください。
キャパシティーの単位	キャパシティーの単位を選択します。
サービス領域検索用のサービス・アイテム ID	サービス対象領域の検索機能を PC 実動コンソールで使用する予定の場合、典型的な提供サービスが表示されたドロップダウン・リストからサービス・アイテム ID を選択します。
サービス領域検索用のサービス・アイテム単位	サービス対象領域の検索機能を PC 実動コンソールで使用する予定の場合、典型的な提供サービスが表示されたドロップダウン・リストからサービス・アイテム単位を選択します。

3. 必要なフィールドに情報を入力します。詳しくは、表 36を参照してください。

4.  を選択します。

提供サービス・タイプの変更

このタスクについて

提供サービス・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「提供サービス」>「提供サービスのタイプ」を選択します。作業領域に、「提供サービスのタイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するサービス・タイプを選択して、 を選択します。「サービス・タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドの情報を編集します。詳しくは、133 ページの表 36を参照してください。
4.  を選択します。

提供サービス・タイプの削除

このタスクについて

提供サービス・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの「カタログ管理」ツリーから、「提供サービス」>「提供サービスのタイプ」を選択します。作業領域に、「提供サービスのタイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するサービス・タイプを選択して、 を選択します。

第 7 章 付加価値サービスの構成

付加価値サービス (VAS) は、顧客の需要を満たすために実行されます。それらの需要は、バイヤーの需要 (カスタム・オーダーを特別に作成したり、バイヤー向けにウェアハウスで特別なプロセスを実行したりするなど) であったり、顧客への提供サービス (照明器具を設置するなど) であったりします。

作業オーダー (work order) は、手動で作成される場合、1 つ以上のサービス (services) で構成されます。これらのサービスには以下のタイプがあります。

- キット化サービス - アイテムのコンポーネントを組み立てます。
- キット解除サービス - アイテムを分解します。このサービスは、アイテム・コンポーネントを取得して、別のオーダーを完了するために提供される場合があります。
- コンプライアンス・サービス - アイテムを特定のバイヤーに供給するために実施する必要のある付加価値サービスです。特注生産オーダーで使用されます。
- 在庫変更サービス - ある単位から別の単位に在庫を変換するための手段です。

作業オーダーには 1 つ以上のサービスを含めることができます。サービスには、サービスが実行される順序を示すシーケンス番号が割り当てられます。アクティビティは、製造施設、フロースルー、および配送センター (distribution center) などのあらゆるタイプの施設で実行されます。

それぞれのサービスには 1 つ以上のサービス・アクティビティを含めることができます。サービス・アクティビティは、コンポーネントの組み立て、ロゴの貼り付け、またはコンポーネントの梱包など、アクティビティのカテゴリーを指定するものです。

また、提供サービスにより作業オーダーを生成できます。提供サービスは、アイテムの設置などの、オーダー可能なサービスです。

付加価値サービスおよびそれらの使用方法については詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。

注: Sterling Warehouse Management System をデプロイメントして実行している場合は、「カタログ管理」を使用して、付加価値サービスなどのマスター・データ (master data) を構成します。構成方法については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Catalog Management Configuration Guide*」を参照してください。ただし、Sterling Distributed Order Management をデプロイメントして実行している場合は、IBM Sterling Business Center を使用してマスター・データを管理します。IBM Sterling Business Center アプリケーションの使用法については、「*Business Center アイテム管理ガイド*」を参照してください。

付加価値サービスの定義

付加価値サービスには、以下の 5 つがあります。

- キット化サービス
- キット化解除サービス
- コンプライアンス・サービス
- 在庫変更サービス
- 提供サービス

提供サービス以外のすべての付加価値サービスは、ほぼ同じ方法で構成されます。

付加価値サービスの作成

このタスクについて

キット化サービス、キット化解除サービス、コンプライアンス・サービス、または在庫変更サービスの付加価値サービスを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「キット化サービス」など、追加する付加価値サービスを選択します。
2. そのタイプのサービスのリストを含むウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。選択したサービスの「付加価値サービス」ウィンドウが表示されます。
4. アイテム ID を入力します。
5.  を選択します。

付加価値サービスの主要情報の定義

このタスクについて

付加価値サービスの主要情報を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービスの詳細 (Value Added Service's Detail)」ウィンドウで、「主要情報」タブを選択します。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

The screenshot shows a software interface with three tabs: 'Primary Info', 'Item Instructions', and 'Service Activities'. The 'Primary Info' tab is active. It contains the following elements:

- Short Description:** A text input field.
- Description:** A text input field.
- Status:** A dropdown menu with a small icon to its right.
- Extended Description:** A large text area for detailed information, with a 'Localize...' button in the top right corner.

表 37. 「主要情報」タブ

フィールド	説明
簡略説明	この付加価値サービスの概要を入力します。
説明	付加価値サービスの詳細な説明を入力します。
ステータス	この付加価値サービス・レコードのステータス。この付加価値サービスをまだ使用可能にしないでおくには、「保留 (未公開)」を選択します。それ以外の場合は、「公開済み」を選択して、この付加価値サービスをシステムで使用できるようにします。

表 37. 「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
<p>このサービスを必要とするオーダーのスケジューリング時に作業オーダーを作成</p>	<p>コンプライアンス・サービス 専用です。</p> <p>このフィールドを選択すると、オーダーのスケジューリング時に、必要に応じて作業オーダーが自動的に生成されます。これは通常、スケジューリング (scheduling) において、オーダーを供給するためにアイテムの確保を別途を考慮する必要がある場合や、コンプライアンス・サービス実行のために時間を配分しておく必要がある場合に使用します。</p> <p>スケジューリング処理が実行されるときに、その処理で、オーダーの要求を満たすためにさらにアイテムを作成することが必要になる場合があります。</p> <p>このフィールドを使用して、作業オーダーを生成するべきかどうかを、手順に基づいて制御できます。</p> <p>例えば、出荷する個々の電話機に保証書を添付するというコンプライアンス・サービスがあるとします。電話機の梱包方法を考えると、このサービスは梱包プロセスの一部として実施可能であり、個別の作業オーダーは必要ありません。また、この特定のオーダーのために電話機を別途確保しておく必要もありません。この場合の電話機を特別な方法で取り扱う必要はなく、これらの電話機は他のオーダー需要に対して供給する場合にも使用できるためです。このような状況下では、このフィールドは選択しません。</p> <p>別のシナリオとして、電話機にバイヤーの企業ラベルを貼り付ける場合を考えてみます。このオーダーをスケジュールする際、プロセスを追跡するために作業オーダーが生成され、カスタマイズされた電話機を作成するために在庫が割り当てられるとします。これらのカスタマイズされた電話機は、別のバイヤーのオーダーの供給では使用されません。この場合は、コンプライアンス・サービス・タスクを遂行するために、このフィールドを選択して作業オーダーを自動生成し、在庫を割り当てます。</p>

表 37. 「主要情報」タブ (続き)

フィールド	説明
実行数量	<p>キット化サービス 専用です。</p> <p>コンプライアンス・サービスの実行時に作成されるアイテムの数です。コンプライアンス・サービスが適用されたアイテムの作成をグループ化することで、バイヤーのニーズを予想して在庫を作成できます。</p> <p>実行数量は、一括処理するアイテムの数を示す数字です。実際のアイテム要求と使用可能な在庫によって、コンプライアンス・サービスを適用する必要があるアイテムの数が決定されます。</p> <p>例えば、実行数量が 10 であり、バイヤーが 8 個のアイテムを要求しているのに対し、手持ちの在庫が 1 個しかない場合は、10 個のアイテムにコンプライアンス・サービスが適用されます。この結果としてバイヤーは 8 個のアイテムを受け取り、その内訳は現在の在庫から提供された 1 個と新規作成された 7 個であり、新規作成された 3 個のアイテムがこの時点で在庫に残ります。</p> <p>バイヤーが実行数量の作成数より多くの数を要求した場合は、実行数量に基づいて実行が複数回繰り返されます。例えば、バイヤーが 22 個のアイテムを要求しているのに対して在庫が 1 個しかない場合は、10 個分を 1 回実行するだけではこの要求を満たすことができません。10 個分の実行を 2 回繰り返しても、この要求を満たすことはできませんが、3 回繰り返すことでこの要求を満たすことができます。したがって、30 個分の実行が 1 回行われます。</p> <p>実行数量は、予想されるバイヤーの要求に基づいて設定する必要があります。例えば、冷蔵庫や洗濯機などの大型アイテムの場合、それほど大きな数になることはないと考えられます。スポーツ・チームのロゴ入り T シャツなど、バイヤーが大量に購入するようなアイテムの場合は、数量は大きくなります。</p>
追加説明	<p>詳細な説明を入力します。この説明は、「ローカライズ」ボタンを選択することによってローカライズできます。</p>

付加価値サービスのアイテム指示を定義

アイテムに対して適切なものであれば、どのような特別指示でも定義できます。例えば、壊れやすいアイテムに「取扱注意」の特別指示を関連付けることができます。

アイテム指示の作成: このタスクについて

アイテム指示を追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービス」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。

2. 「アイテムの指示」テーブルで、 を選択します。「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 38 を参照してください。
4.  を選択します。

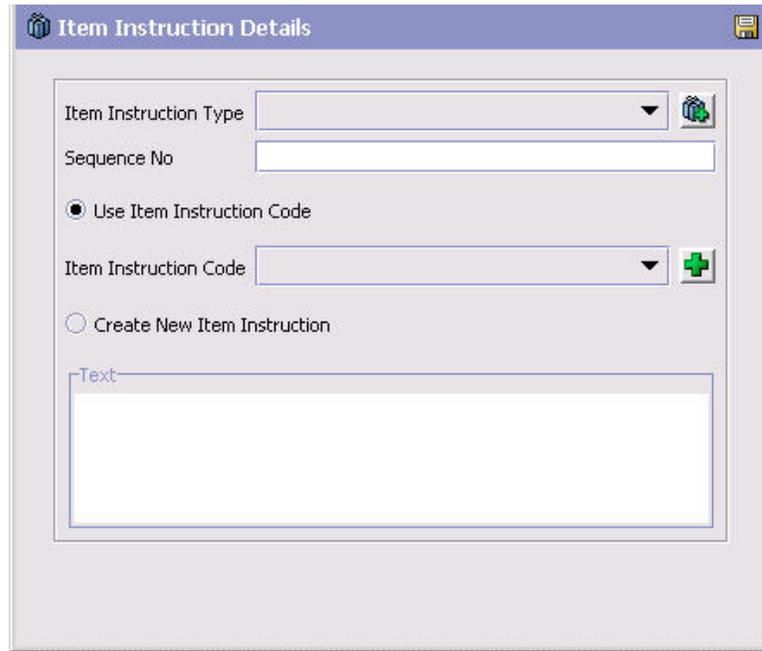


表 38. 「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム指示タイプ	アイテム指示タイプを選択します。例えば、「取り扱い」アイテム・タイプは、指示がアイテムの取り扱いに関連していることを示します。
シーケンス番号	アイテム指示が複数あり、順序が決まっている場合は、追加する指示の順序を入力します。
アイテム指示コードを使用	既存のアイテム指示コードを使用する場合は、「アイテム指示コードを使用」を選択します。例えば、壊れやすいアイテムに関連付けることができる「取扱注意」といった既存のアイテム指示コードがあるとします。
アイテム指示コード	「アイテム指示コードを使用」を選択する場合は、該当のアイテム指示コードを選択します。
新規アイテム指示の作成	既存のアイテム指示コードが存在しない場合に、フリー・フォームのテキスト指示を作成するには、「新規アイテム指示の作成」を選択します。
テキスト	「新規アイテム指示の作成」を選択した場合は、指示を入力します。

アイテム指示の変更:

このタスクについて

アイテム指示を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービス」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。
2. 「アイテムの指示」テーブルで、該当するアイテム指示を選択して、 を選択します。「アイテム指示の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、140ページの表 38を参照してください。
4.  を選択します。

アイテム指示の削除:

このタスクについて

アイテム指示を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービス」ウィンドウで、「アイテムの指示」タブを選択します。
2. 「アイテムの指示」テーブルで、該当するアイテム指示を選択して、 を選択します。

付加価値サービスのサービス・アクティビティーの定義

サービス・アクティビティーは、サービスの提供における高位のステップです。例えば、付加価値サービスが電話の組み立てで構成されていたとすると、以下のようなサービス・アクティビティーが考えられます。

- コンポーネントの入手
- アクセサリーの追加
- カスタム・ラベルの適用

サービス・アクティビティーの作成:

このタスクについて

サービス・アクティビティーを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービス」ウィンドウで、「サービス・アクティビティー」タブを選択します。
2.  を選択します。「サービス・アクティビティー」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. アクティビティー・コードと、サービスのアクションを順序付けるのに使用するシーケンス番号を選択します。
4.  を選択します。

注: 在庫が confirmWorkOrder() または confirmWorkOrderActivity() API を使用し更新されるようにするため、少なくとも 1 つのサービス・アクティビティを付加価値サービス・アイテムに関連付ける必要があります。

サービス・アクティビティ指示の追加:

このタスクについて

サービス・アクティビティ指示により、サービス・アクティビティの実行方法の詳細を指定できます。例えば、「製品の組み立て」というサービス・アクティビティがあるとします。その場合は、サービス・アクティビティ指示により、製品パッケージ内のクーポン (coupon) の置き場所、特別ラベルの適用方法、またはその他の詳細指示など、実行方法の詳細を指定できます。

サービス・アクティビティ指示を追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「サービス・アクティビティの詳細」ポップアップ・ウィンドウで、 を選択します。
2. 「サービス・アクティビティ指示の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 39 を参照してください。

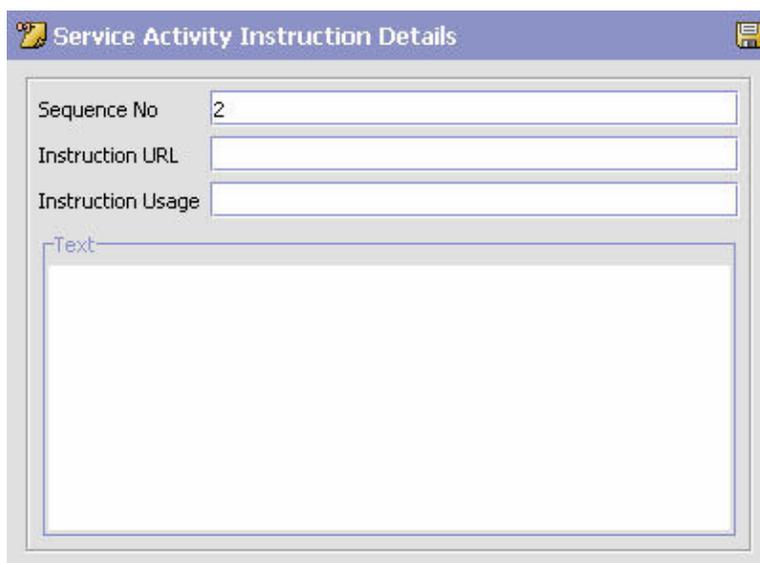


表 39. 「サービス・アクティビティ指示の詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
シーケンス番号	シーケンス番号は、アクティビティ指示の順序を指定するために使用されます。例えば、シーケンス番号 1 のサービス・アクティビティ指示は、2 のサービス・アクティビティ指示より前に実行する必要があります。
指示の URL	このサービスの既存の指示を指す URL を指定します。例えば、販売促進資料を特定のパッケージに入れる既存の手順がある場合があります。その手順の URL をここに入力します。

表 39. 「サービス・アクティビティ指示の詳細」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
指示の使用法 (Instruction Usage)	この指示の使用法についてのコメント
テキスト	指示の詳細を入力します。

サービス・アクティビティ指示の変更: このタスクについて

サービス・アクティビティを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「サービス・アクティビティ」テーブルで、該当するサービス・アクティビティを選択し、 を選択します。「サービス・アクティビティの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 「サービス・アクティビティ指示」リストで、 を選択します。「サービス・アクティビティ指示の詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、140ページの表 38を参照してください。
4.  を選択します。

サービス・アクティビティ指示の削除: このタスクについて

サービス・アクティビティ指示を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービス」ウィンドウで、「サービス・アクティビティ」タブを選択します。
2. 「サービス・アクティビティ」テーブルで、該当するサービス・アクティビティを選択し、 を選択します。
3. 「アイテムの指示」テーブルで、該当するサービス・アクティビティを選択し、 を選択します。

サービス・アクティビティの変更: このタスクについて

サービス・アクティビティを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービス」ウィンドウで、「サービス・アクティビティ」タブを選択します。
2. サービス・アクティビティを選択して、 を選択します。「サービス・アクティビティ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、140ページの表 38を参照してください。
4.  を選択します。

サービス・アクティビティの削除: このタスクについて

サービス・アクティビティを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「付加価値サービス」ウィンドウで、「サービス・アクティビティ」タブを選択します。
2. サービス・アクティビティを選択して、 を選択します。

付加価値サービスの変更 このタスクについて

付加価値サービスを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「キット化サービス」など、変更する付加価値サービスを選択します。
2. そのタイプのサービスのリストを含む「値」ウィンドウが表示されます。
3. 変更する付加価値サービスを選択して、 を選択します。「付加価値サービスの詳細 (Value Added Services detail)」ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。
5.  を選択します。

付加価値サービスの削除 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「キット化サービス」など、削除する付加価値サービスを選択します。
2. そのタイプのサービスのリストを含む「値」ウィンドウが表示されます。
3. 削除する付加価値サービスを選択して、 を選択します。

アクティビティの定義

アクティビティは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation でのサービス・アクティビティのカテゴリーを定義します。

アクティビティの作成

このタスクについて

アクティビティを使用して、このサービスで実行する必要があるアクションを定義します。サービス・アクションを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「付加価値サービス」>「アクティビティ」を選択します。サービス・アクティビティのリストを含むウィンドウが表示されます。
2. 星印 (*) でマークされた明細を選択し、各フィールドをクリックして、アクティビティを定義する「アクティビティ・コード」の値と「説明」を入力します。

アクティビティの変更

このタスクについて

サービス・アクティビティを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「アクティビティ」を選択します。アクティビティのリストを含むウィンドウが表示されます。
2. 変更するアクティビティを選択し、「説明」フィールドをクリックして説明を変更します。

アクティビティの削除

このタスクについて

アクティビティを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「アクティビティ」を選択します。サービス・アクティビティのリストを含むウィンドウが表示されます。
2. 削除するアクティビティを選択して、 を選択します。

第 8 章 時間トリガー・トランザクション参照

時間トリガー・トランザクション参照

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一群の時間トリガー・トランザクションを提供します。これは、さまざまな個別機能をそれぞれ自動的にまたは一定の時間間隔で実行するユーティリティです。

時間トリガー・トランザクションは、スケジュール・ベースで反復アクションを実行します。標準的な実行内容としては、データベースの更新、イベントの発行、または API の呼び出しなどがあります。1 タイプのトランザクションであるモニターは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すように設計されています。モニターは、常時ではないものの頻繁に、タスク・キューからタスクを取り出したり、パイプラインから作業を取り出したりします。

一部のトランザクションでは、アプリケーションの正常性に関する統計データを収集できます。このデータは、`yfs.properties` ファイルの `yantra.statistics.persist.interval` 属性に指定された値を使用して、定期的 to 収集されます。デフォルトでは、統計収集は `on` に設定されています。このプロパティをオーバーライドするには、項目を `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。`customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

統計の持続性について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。使用される特定の統計パラメーターについて詳しくは、該当する時間トリガー・トランザクションを参照してください。

この章で説明されている時間トリガー・トランザクションは、固有のトランザクションであり、これは伝票種別に固有である場合もあれば、そうでない場合もあります。ドキュメント固有トランザクションの場合、命名法はそのベースとなる固有トランザクションを定義するのに役立ちます。トランザクション ID は `Unique_Transaction_ID.Document_Type_Code` という形式です。例えば、返品のパージのトランザクション ID が `PURGE.0003` であれば、それが固有トランザクション `PURGE` をベースとしており、伝票種別は返品オーダーの `0003` であることを示します。したがって、返品のパージを構成できるようにするには、この章で、オーダー・パージである `PURGE` トランザクション ID を探す必要があります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下のタイプの時間トリガー・トランザクションを提供します。

- ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション - 処理を扱います。
- 時間トリガー・パージ・トランザクション - 処理の完了後に破棄できるデータをクリアします。

- タスク・キュー同期プログラムの時間トリガー・トランザクション - 最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新します。
- モニター - 処理の遅延および例外について監視し、警告を送信します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各時間トリガー・トランザクションの以下の統計を追跡します。

- ExecuteMessageCreated - 一定の時間間隔内に JMS キューに追加されたジョブ数。
- ExecuteMessageSuccess - 一定の時間間隔内に正常に実行されたジョブ数。
- ExecuteMessageError - 一定の時間間隔内で実行が失敗したジョブ数。
- GetJobsProcessed - 一定の時間間隔内で処理された GetJob メッセージの数。

注: 時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

時間トリガー・トランザクションの実行

すべての時間トリガー・トランザクションは、スレッド対応です。これはつまり、単一のプロセス内でトランザクションの複数のインスタンスを実行できるということです。時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド」を参照してください。システムを同時に実行しながらのシステム・パフォーマンスの微調整については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。

時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ

このタスクについて

時間トリガー・トランザクションの実行およびスケジューリングの前に、以下の手順を完了していることを確認してください。

手順

1. 時間トリガー・トランザクション用に構成された QCF 名に関連付ける JMS 接続ファクトリーを構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、JMS 接続ファクトリーとして AGENT_QCF が含まれます。JMS の構成について詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。
2. 時間トリガー・トランザクションのグループまたは個別の名前に関連付ける JMS サーバーの宛先を構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、サーバーの宛先として DefaultAgentQueue が含まれます。destination。
JMS サーバーの宛先の名前にドット (.) を入れないでください (例えば、

「A.0001」)。ドットが入っている場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそのサーバーと通信できなくなります。

3. Applications Manager を使用して、ビジネス・プロセスで必要な時間トリガー・トランザクションごとに構成します。構成方法については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」の『トランザクションの定義』のセクションで説明されています。時間トリガー・トランザクションの条件パラメーターのセットごとに、JMS エージェント・サーバーとの適切な関連付けがされている必要があります。

エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成

このタスクについて

エージェント (時間トリガー・トランザクション) とリモート JMS サーバーの間の通信をセットアップするには、JMS システムで前提条件のセットアップをいくつか行う必要があります。それから、アプリケーション内で構成をいくつか行います。構成は、以下の手順で構成されます。

- ご使用の JMS システムの初期コンテキスト・ファクトリー・コードがアプリケーションに提供されない場合、このコードを作成する必要があります。提供されるコードのリストについては、150 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
- トランザクションの詳細の定義 - 時間トリガー・トランザクション、またはエージェントは、編集して、JMS システムの接続情報および作成する初期コンテキスト・ファクトリーを含める必要があります。151 ページの『トランザクション情報の定義』を参照してください。

時間トリガー・トランザクションおよびそれがアプリケーション・ビジネス・プロセス・モデリングの全体像にどのように適合するかについて詳しくは、『プロセス・モデルの構成』の章を参照してください。また、キューおよびエージェントの追加情報については、『警告キューの構成』の章を参照してください。

前提条件

このタスクについて

開始する前に、JMS サーバーに対して以下の手順を実行します。これらタスクの実行に関する詳細は、JMS サーバーのドキュメンテーションを参照してください。

手順

1. JMS サーバー上の JMS キュー接続ファクトリー (QCF) とキューの構成を行います。
2. JMS サーバー上のキューの JNDI 表現を構成します。

タスクに関して以下の情報が使用可能であることを確認してください。

- 各キューの JNDI 名
- JNDI QCF ルックアップ
- JMS ロケーション - JMS サーバープロバイダー URL

タスクの結果

前述のタスクを完了した後に、以下の 2 つの手順を表示されている順番どおりに実行してください。これらはいずれもアプリケーション内で実行します。

初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成

このタスクについて

初期コンテキスト・ファクトリー (ICF) クラスを使用すると、リモート Java クライアントがアプリケーションに接続できます。このクラスはアプリケーション・ベンダーによって提供されます。アプリケーションは、エージェントを設定する際に、ICF コードを使用してこれらを識別します。以下の JMS ベンダー用の初期コンテキストのファクトリー・コードは、アプリケーションの中で事前定義されています。

- IBM WebSphere® MQ (IBM WebSphere Internet Inter-ORB Protocol URL を介してアクセスされる MQSeries® 用)
- ファイル (Oracle WebLogic などのように、ファイル URL を介してアクセスされる MQSeries 用)
- Oracle WebLogic (WebLogic JMS 用)
- JBoss (JBoss JMS 用)

上記のリストにない JMS サーバー (例えば ActiveMQ) を使用している場合、それに対する初期コンテキストのファクトリー・コードを、以下の手順にしたがってアプリケーションの中で作成する必要があります。

手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2. 「+」アイコンを選択して、新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを作成します。「初期コンテキスト・ファクトリー」ウィンドウが表示されます。
3. 「初期コンテキスト・ファクトリー」フィールドに、JMS ベンダーによって提供されたクラス名を入力します。例えば、ActiveMQ の場合、クラス名は `org.apache.activemq.jndi.ActiveMQInitialContextFactory` です。
4. 「簡略説明」フィールドに、40 文字以内の記述名を入力します。この名前を次の手順で使うので、書き留めておいてください (151 ページの『トランザクション情報の定義』を参照)。ActiveMQ の場合、**ActiveMQ** と入力します。
5. 「詳細説明」フィールドに、初期コンテキスト・ファクトリーの詳細な説明を 100 文字以内で入力します。
6. 新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを保存し、ウィンドウを閉じます。

タスクの結果

ICF について詳しくは、「初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成」を参照してください。

トランザクション情報の定義

このタスクについて

JMS サーバーが当アプリケーションと通信するためには、JMS サーバーと ICF 情報を使用して構成された時間トリガー・トランザクションが存在する必要があります。

手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」をダブルクリックします。作業領域に、「プロセス・モデリング」ウィンドウが表示されます。
2. 希望のタブを選択して、「基本伝票種別」を選択してから、「プロセス・タイプ」をダブルクリックします。
3. 実行するエージェントに対応するトランザクションをダブルクリックします。
4. 「時間トリガー」タブを選択します。
5. 新しいエージェント条件の定義を作成するか、編集する既存のエージェント条件の定義を選択します。
6. 「エージェント条件の詳細」画面が表示されます。「実行時プロパティ」タブを選択します。
7. リストから既存のエージェント・サーバーを選択するか、独自のエージェント・サーバーを作成します (後者を推奨)。
8. リストから既存の警告キューを選択するか、独自の警告キューを作成します。
9. 「JMS キュー名」フィールドに、作成したキューの JNDI 名を入力します。149 ページの『前提条件』を参照してください。
10. このエージェントで実行するスレッドの希望数を入力します (5 スレッド以下を推奨。6 スレッド以上が必要な場合は、別のエージェントをそれぞれ独自の JVM 内で開始してください)。
11. 作成した初期コンテキスト・ファクトリー・コードを選択します。150 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
12. 「QCF ルックアップ」フィールドに、作成したキューの JNDI QCF ルックアップを入力します (これは該当する JMS サーバー用に作成したキュー接続ファクトリーです)。149 ページの『前提条件』を参照してください。
13. 「プロバイダー URL」に入力します。この URL は JMS システムが配置されている場所であり、JMS ベンダー固有のものです。
14. このエージェントに自己トリガーさせるのか (推奨)、外部トリガー (<install_dir>/install/bin ディレクトリー内の triggeragent.sh) を使用するのを選択します。前者の場合はトリガーの間隔 (分単位) を指定します。
15. JMS セキュリティー・オプションの設定については、『JMS セキュリティー・プロパティの設定』を参照してください。
16. 「条件パラメーター」タブの値はデフォルト値のままにします。
17. 「エージェント条件の詳細」の内容を保存して、このウィンドウを閉じます。
18. <install_dir>/install/bin ディレクトリー内の startagentserver.sh/cmd スクリプトを実行して、このエージェントをそれぞれ独自の JVM 内で起動します。

タスクの結果

トランザクションの定義およびこの手順について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で『トランザクションの定義』および『トランザクションを時間トリガーに指定』のセクションを参照してください。

ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation*の次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクションには、`CollectPendingJobs` 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、このモニターに関する保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、*System Management Console* 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、`CollectPendingJobs` は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の `getPendingJobs` 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

非同期要求プロセッサ

このトランザクションは、任意の API 要求またはサービス要請をオフライン・モードで作成します。`YFS_ASYNC_REQ` テーブルから API メッセージまたはサービス・メッセージが選択され、それに対応する API またはサービスが呼び出されます。`createAsyncRequest` API を使用して、メッセージを `YFS_ASYNC_REQ` テーブルに挿入することができます。*Sterling Warehouse Management System* の一部のビジネス・トランザクションも、`YFS_ASYNC_REQ` テーブルにメッセージを挿入します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 40. 「非同期要求プロセッサ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ASYNC_REQ_PROCESSOR
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 41. 「非同期要求プロセッサー」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リード日数	エージェントがレコードを消去するまでの日数です。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、30 がデフォルト設定されます。
最大エラー件数 (Maximum Error Count)	例外がスローされた場合にレコードが処理される最大回数です。失敗した回数がこの値と等しくなると、エージェントはそれ以上レコードを処理しません。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、20 がデフォルト設定されます。
再処理間隔 (分単位) (Reprocess Interval In Minutes)	トランザクションが処理されて例外がスローされてから、次にトランザクションが処理されるまでの、分単位の時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_ASYNC_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 42. 非同期要求プロセッサーによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
HAS_EXCEPTIONS	なし	YCP_ASYNC_REQ_PROCESSOR.HAS_EXCEPTIONS.html	あり

* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。

<INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML

大/小文字を区別しないデータ・ローダー

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、「大/小文字を区別しない検索 (CaseInsensitiveSearch)」のマークが付けられた列からシャドー列にデータをマイグレーションします。このエージェントは、トランザクション条件を使用して更新が必要なレコードを特定し、次に元の列の値をシャドー列内で小文字に変換します。大/小文字を区別しない検索の使用可能化について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースの拡張*』を参照してください。

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、既存データを更新する場合に必要なです。シャドー列が作成されると、テーブルまたはテーブル・タイプごとに、「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントを一度だけ実行する必要があります。その後、アプリケーションによって、シャドー列がリアルタイムで入力されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 43. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DATA_LOADER
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 44. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">これを空欄のままにするか、10000 未満の数を指定した場合、5000 がデフォルト設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。

表 44. 「大小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
テーブル・タイプ (TableType)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある場合、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。 有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。 これを CONFIGURATION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。 これを TRANSACTION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。
テーブル名	必須。シャドー列にマイグレーションするレコードのテーブル名です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

集合・混載ステータスの変更

このトランザクションは、changeLoadStatus() API と等価です。このトランザクションについては詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』を参照してください。

集合・混載処理パイプラインの一部として構成するために、集合・混載ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。この自動変更では、集合・混載情報の集合・混載計画ソフトウェアへのエクスポートや集合・混載の運送会社への送信を表現できます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 45. 「集合・混載ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_LOAD_STATUS
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeLoadStatus()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 46. 「集合・混載ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 47. 「集合・混載ステータスの変更」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	ステータスが変更された集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が現在日付の値以下 (\leq) の、トランザクションによって処理可能な YFS_Task_Q テーブル内のレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `changeLoadStatus()` API の項に記載されたイベントが発生します。

出荷ステータスの変更

このトランザクションは、`changeShipmentStatus()` API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』を参照してください。

出荷処理パイプラインの一部として構成するために、出荷ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。例えば、この自動変更では、倉庫管理システムへの出荷情報のエクスポートやバイヤーへの事前出荷通知の送信を表すことができます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 48. 「出荷ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_SHIPMENT_STATUS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 49. 「出荷ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 50. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
ステータスに変更された出荷数 (NumShipmentsChanged)	ステータスに変更された出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の changeShipmentStatus() API の項に記載されたイベントが発生します。

配送計画の終了

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「配送計画のページ (Delivery Plan Purge)」が配送計画関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します (241 ページの『配送計画のページ (Delivery Plan Purge)』を参照してください)。

このトランザクションは、未完了の集合・混載や出荷が存在しない配送計画をすべて選択して、deliveryplan_closed_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの計画にないことを示します。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「配送計画の終了」(CLOSE_DELIVERY_PLAN) 基本トランザクションに対応しています。

コンソールを使用するエンタープライズは、ページ・ジョブをスケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 51. 「配送計画の終了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_DELIVERY_PLAN
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし

表 51. 「配送計画の終了」の属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 52. 「配送計画の終了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 53. 「配送計画の終了」の統計

統計の名前	説明
クローズされた配送計画数 (NumDeliveryPlansClosed)	クローズされた配送計画の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 54. 「配送計画の終了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	delivery_plan_dbd.txt	YDM_CLOSE_DELIVERY_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

集合・混載を閉じる

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「集合・混載ページ」が集合・混載関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します（257 ページの『集合・混載ページ』を参照してください）。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「集合・混載を閉じる」基本トランザクション (CLOSE_LOAD) に対応しています。

集合・混載処理パイプラインを使用する場合、このトランザクションをスケジュールする必要があります。閉じられた集合・混載のみが、ページ・トランザクションによって選択されます。したがって、このトランザクションをパイプラインの一部に含め、その日の最後に実行されるようにスケジュールする必要があります。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 55. 「集合・混載を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_LOAD
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 56. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 56. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 57. 「集合・混載を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた集合・混載数 (NumLoadsClosed)	閉じられた集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、どの未完了の集合・混載、未完了の出荷にも関連付けられていない、未完了の配送計画の数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 58. 「集合・混載を閉じる」トランザクションによって発生するイベント。

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_CLOSE_LOAD_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

積荷目録を閉じる (Close Manifest)

この時間トリガー・トランザクションは、積荷目録の MANIFEST_CLOSED_FLAG フラグを「Y」に設定し、積荷目録ステータスを CLOSED に更新します。この時間トリガー・トランザクションは、確認を保留しているすべての出荷を確認し、積荷目録を閉じます。

注: 条件を指定しないで「積荷目録を閉じる」エージェントを起動した場合、出荷ノード全体において対象となるすべての積荷目録が閉じられます。

yfs.properties_ysc_ext.in ファイル内の yfs.closemanifest.online プロパティは、この時間トリガー・トランザクションをオンライン・モードまたはオフライン・モードで動作するように設定するために使用されます。

- **オンライン・モード:** オンライン・モードでは、通常どおり「積荷目録を閉じる」トランザクションが実行され、積荷目録内のすべての出荷が確認されてから、積荷目録が閉じられます。
- **オフライン・モード:** オフライン・モードでは、「積荷目録を閉じる」トランザクションがエージェントを起動し、積荷目録ステータスを「終了要求済み」に変更します。エージェントが実行されると、1 回の呼び出しで、積荷目録の各出荷が確認されるか、積荷目録が閉じられます。

操作モード (オンラインまたはオフライン) は、`yfs.properties_ycs_ext.in` ファイルの `yfs.closemanifest.online` プロパティに指定された値に基づいて決定されます。このプロパティをオーバーライドするには、これに関するエントリを `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。 `customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

デフォルトのすぐに使用可能な出荷済みプロパティを使用すると、「積荷目録を閉じる」トランザクションはオンライン・モードで実行されます。

「積荷目録を閉じる」トランザクションをオフライン・モードで実行する場合は、トランザクションに対して定義されたすべてのエージェント条件が正しく構成されていることを確認してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 59. 「積荷目録を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_MANIFEST
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	積荷目録作成
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	confirmShipment()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 60. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 60. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
出荷ノード	オプション。「積荷目録を閉じる」の実行が必要な出荷ノードです。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 61. 「積荷目録を閉じる」の統計

統計の名前	説明
確認された出荷数 (NumShipmentsConfirmed)	確認された出荷の数。
閉じられた積荷目録数 (NumManifestsClosed)	閉じられた積荷目録の数。
エラーが発生した積荷目録数 (NumManifestsErrored)	エラーが発生した積荷目録の数。
エラーが発生した出荷数 (NumShipmentsErrored)	エラーが発生した出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、未完了の積荷目録数と積荷目録 (MANIFEST_STATUS が「1200」) に含まれる出荷数の合計です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 62. 「積荷目録を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	manifest_dbd.txt	YDM_CLOSE_MANIFEST .ON_SUCCESS.xml	あり

オーダーを閉じる

この時間トリガー・トランザクションは、オーダーの ORDER_CLOSED フラグを「Y」に設定し、ON_SUCCESS イベントを生成します。これらのアクションは、すべてのオーダー明細の ORDER_QTY が構成済みピックアップ・ステータスに達した場合のみ実行されます。オーダーの ORDER_CLOSED フラグが「Y」に設定された場合、そのオーダーはモニター対象として選択されません。

パイプライン内で、ページ・トランザクションと共に、「オーダーを閉じる」エージェントを構成する必要があります。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

キャンセル済みオーダーに対して警告が発生するのを避けるために、「オーダーを閉じる」エージェントを実行してからモニター・エージェントを実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 63. 「オーダーを閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 64. 「オーダーを閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 65. 「オーダーを閉じる」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
閉じられたオーダー数 (NumOrdersClosed)	閉じられたオーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Task_Q テーブル内の AVAILABLE_DATE の値が現在の日付の値以下 (\leq) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 66. 「オーダーを閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YFS_CLOSE_ORDER.ON_SUCCESS.xml	あり

受入の完了

この時間トリガー・トランザクションは、指定された受入ルールを使用して受入を完了させます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 67. 「受入の完了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPT_COMPLETE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	受入 (購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入、受入)
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 68. 「受入の完了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「受入の完了」の実行に必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	必須です。「受入の完了」の実行に必要なノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 69. 「受入の完了」の統計

統計の名前	説明
完了した受入数 (NumReceiptsClosed)	完了した受入の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、完了できる受入 (OPEN_RECEIPT_FLAG が「Y」) の数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 70. 「受入の完了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	receipt_dbd.txt	YFS_RECEIPT_COMPLETE .ON_SUCCESS.xml	あり

複数の入荷が同じロケーションに受け入れられ、受け入れた在庫にライセンス・プレートが付与されていない場合、エラー・メッセージ「格納する在庫がソース・ロケーションにありません (There is no inventory for put away at the SourceLocation)」が表示されます。この問題の解決方法は、以下の手順のいずれかです。

- 既に受け入れている入荷に対する移動要請を手動で作成します。移動要請の作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System User Guide*』を参照してください。
- 受け入れる予定である入荷については、在庫にライセンス・プレートが付与されていることを確実にし、入荷と格納用の在庫を同じロケーションに受け入れることがないようにします。

出荷を閉じる (Close Shipment)

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「出荷ページ」が出荷関連のデータをすべて削除するまで、一時的なページとして機能します (301 ページの『出荷ページ』を参照してください)。

このトランザクションは、CLOSE_SHIPMENT トランザクションの抽出についてのパイプライン構成に基づいて、完了の条件を満たすすべての出荷を抽出し、それらの shipment_closed_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの出荷にないことを示します。関連するステータスの変更はありません。

せん。出荷済みステータスまたは配達済みステータスを抽出するように、パイプライン内でこのトランザクションを構成できます。

このトランザクションは、出荷パイプライン内の「出荷を閉じる」基本トランザクション (CLOSE_SHIPMENT) に対応しています。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 71. 「出荷を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 72. 「出荷を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 73. 「出荷を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた出荷数 (NumShipmentsClosed)	閉じられた出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 74. 「出荷を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CLOSE_SHIPMENT. ON_SUCCESS.xml	あり

出荷統計の収集

「出荷統計の収集」は、時間トリガー・トランザクションです。これを起動して出荷を処理し、日次出荷レポートに必要な情報を生成できます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 75. 「出荷統計の収集」の属性

属性	値
トランザクション名	出荷統計の収集
トランザクション ID	COLLECT_STATISTICS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 76. 「出荷統計の収集」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 77. 「出荷統計の収集」の統計

統計の名前	説明
統計収集日数 (NumDaysStatisticsCollected)	出荷統計が収集された日数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、出荷統計を収集する必要のある日数です。この日数は、現在の日付と出荷統計を最後に収集した日付との差 (日単位) によって計算します。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 78. 「出荷統計の収集」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_COLLECT_STATISTICS.ON_SUCCESS.xml	なし

追加在庫の統合

「追加在庫の統合」時間トリガー・トランザクションは、YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルの供給と需要を統合します。統合は、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND テーブル内の追加の供給と需要の数量を合計することによって行います。

適合する供給または需要がない場合、YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内の変更の合計数量を使用して新しい供給または需要が作成されます。変更が適用された後、統合処理で使用された YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内のレコードは削除されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 79. 「追加在庫の統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_ADDNL_INV
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションのパラメーターは、以下のとおりです。

表 80. 「追加在庫の統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に検索および処理される、追加の供給と需要が統合された在庫アイテム・レコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 81. 「追加在庫の統合」の統計

統計の名前	説明
統合で処理される追加の在庫供給レコード数 (NumInventorySupplyAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫供給レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要レコード数 (NumInventoryDemandAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要詳細レコード数 (NumInventoryDemandDtlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要詳細レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、
YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および
YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内の個別の在庫アイテムの数を 2
倍した値です。

発生するイベント

なし。

出荷に統合

これは、オーダー・パイプライン内のタスク・キューに基づくトランザクションであり、CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT 基本トランザクションに対応します。このトランザクションは、指定されたオーダー・リリースを含めることができる出荷を検索します。既存の出荷が見つかり、changeShipment() API が呼び出されます。見つからない場合は、createShipment() API が呼び出されます。

トランザクションは、既存の出荷を検索するために、オーダー・リリースの出荷ノード、出荷先住所、セラー組織コード、運送会社、伝票種別などを既存の出荷と突き合わせます。トランザクションが突き合わせる属性のリストは、実際は、オーダーの伝票種別の伝票テンプレートに基づきます。

このトランザクションは、以下のいずれかのステータスの出荷にのみ適用可能です。

- 荷作成済み
- ESP チェックが必要
- ESP 保留時
- ESP 保留解除
- ルーティングのためにリリース済み
- ルーティング待機中
- 出荷ルーティング中 (Shipment Routing)
- ノードに送信

オーダー・リリースを既存の出荷と正常に統合するには、現在のステータスの出荷に対して「明細の追加」および関連する変更タイプが許可されている必要があります。

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・パイプラインの一部です。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

GIFT_FLAG が Y に設定されたオーダー・リリースは、他のどのリリースとも統合できません。

詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API、changeShipment() API、および releaseOrder() API についての記述を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 82. 「出荷に統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createShipment() および changeShipment()
ユーザー出口	<ul style="list-style-type: none"> トランザクションは、com.yantra.ydm.japi.ue の beforeConsolidateToShipment を呼び出します。 トランザクションは、処理を開始する前にリリースごとに YDMBeforeConsolidateToShipment を呼び出します。 トランザクションは、出荷を検索した後、com.yantra.ydm.japi.ue の determineShipmentToConsolidateWith を呼び出します。 <p style="text-align: center;">YDMDetermineShipmentToConsolidateWith。</p> <p>詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>』を参照してください。</p>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 83. 「出荷に統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 84. 「出荷に統合」の統計

統計の名前	説明
統合されたオーダー・リリース数 (NumOrderReleasesConsolidated)	統合されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 85. 「出荷に統合」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API および changeShipment() API の項に記載されたイベントも発生します。

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションは、カタログ検索で使用される Apache Lucene インデックス・ファイルを作成します。このインデックス・ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースから抽出された非正規化アイテム・データを格納することによって、検索パフォーマンスを向上させます。

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションを構成して、以下のタスクを実行できます。

- スケジュール済みインデックス作成またはユーザーが開始するインデックス作成の実行
- フル・インデックス・ファイルまたはインクリメンタル・インデックス・ファイルの作成
- インデックス・ファイルのアクティブ化

インデックス作成処理

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションでは、インデックス作成用のエージェントが提供されます。インデックス作成はマルチスレッド処理になっており、各処理では、インデックス作成エージェントが Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベース内のアクティブな販売カタログから、アイテム情報およびアイテム関連情報を抽出します。対応する XML 構成ファイルが拡張されている場合、エージェントはこの情報を外部ソースから抽出することができます。

エージェントはこの情報を、最終的なインデックスに含める必要のあるアイテム・データを識別するための複数のファイルに書き込みます。エージェントは、ファイルへの書き込みを完了した後、各ファイルを最終的なインデックス・ファイルにマージします。

マルチスレッド処理には、並列に処理できるメリットがあります。大量のデータベース・データは、セグメント化されて同時に処理されます。これにより、1 つの大きなファイルを逐次処理する場合に比べて高速化され、拡張が容易になります。

インデックス作成エージェントは、情報を複数のファイルに書きこむときに、アイテムごとに以下のタスクを実行してから次のアイテムにループします。

- アイテムに関するデータについて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースに照会します。
- XML 構成ファイルおよび拡張ファイルの情報を使用して、照会によって取得するデータを決定します。
- Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースから、関連データを取得します。
- アイテムの Lucene ドキュメントを作成します。

トランザクションは、アイテムごとに Lucene ドキュメントを作成した後、組織および組織のロケールに基づいて、それらのドキュメントをインデックス・ファイルに書き込みます。

カタログ・インデックス・ファイルにアクセスするための構成オプション

ビジネス要件に応じて、以下の 2 つの方法のいずれかで「カタログ・インデックスの作成」を構成できます。

- 共有された集中型ディスク上にインデックスを作成し、すべてのサーバーからアクセスできるようにします。
 - メリット
 - 共有されたインデックスの集中制御
 - インデックスが複数のサーバー間でコピーされないため、ファイル転送問題が発生しません。
 - 制限
 - 共有ディスクが単一障害点になる可能性があります (予備ディスクが起動されない場合)。
 - 設定によっては、共有ディスクからの大量の読み取り/書き込みによって、パフォーマンスが低下する可能性があります。
- インデックスのコピーを作成し、ファイル転送を介してそれを複数のサーバーにプッシュします。インデックス作成の完了時にファイル転送処理は自動的に行われますが、インデックスは自動的にアクティブ化されません。すべてのサーバーからファイル転送完了の応答が返されたときに、`manageSearchIndexTrigger` API を呼び出してインデックスをアクティブ化します。
 - メリット
 - 障害の中心点がない
 - 制限
 - インデックス・ファイルを作成してサーバー間でプッシュするため、オーバーヘッドが生じる可能性があります。

1 つの場所にインデックスを作成して、別の場所からそれを読み取る方法を選択した場合、個々のプロセスで異なるプロパティを使用可能にする方法について、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

カタログ・インデックスの作成と検索について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* カタログ管理概念ガイド』を参照してください。

属性

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの属性を示します。

表 86. 「カタログ・インデックスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	Create_Catalog_Index
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCMParseAssetUE YCMGetAdditionalCatalogIndexInformationUE

条件パラメーター

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの条件パラメーターを示します。

表 87. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
組織コード	必須。検索インデックスを維持するカタログ組織またはサブカタログ組織の組織コード。
メッセージ数 (Number of Messages)	必須。インデックス・ファイルの作成時に使用するメッセージの数。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、スレッドあたり 1 つのメッセージのみを処理します。例えば、メッセージ数が 10、スレッド数が 3 に設定された場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は一度に 3 つのメッセージのみを処理します。システム・パフォーマンスの微調整については、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド』を参照してください。

表 87. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
インクリメンタル・ビルド	<p>Y または N です。</p> <p>既存のインデックス・ファイルを再作成するには、Y を指定します。Y を指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、最後に作成に成功したインデックスに基づいて、インデックスを再作成します。アイテムの属性が変更されたかどうかは、YFS_ITEM テーブルの MaxModifyTS 列によって判別されます。アイテムの外部属性が変更された場合、アイテムに対して manageItem API を呼び出すことによって MaxModifyTS 列を更新します。</p> <p>フル・インデックス・ファイルを作成するには、N を指定します。</p> <p>ユーザーがインデックス作成を開始した場合は、このパラメーターは無視されます。しかし、スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、インデックスのフル・ビルドまたはインクリメンタル・ビルドを指定していることを確認してください。</p>
カテゴリ・ドメイン	<p>オプション。インデックスを作成する元になるカタログです。カタログ組織またはサブカタログ組織のアクティブな販売カタログがデフォルトになります。スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、カタログを指定していることを確認してください。</p>
自動的にアクティブ化する (Auto Activate)	<p>Y または N です (オプション)。</p> <p>インデックス・ファイルの作成後にインデックスをアクティブ化するには、Y を指定します。</p> <p>デフォルトは、N です。</p>

表 87. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
検索インデックス・トリガーの自動挿入 (Auto Insert Search Index Trigger)	<p>Y または N です (オプション)。 スケジュールされたカタログ・インデックス・ファイルの作成を有効にするには、Y を指定します。エージェントは、YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルに格納された情報を参照して、スケジュールされたインデックス作成をいつ実行するかを決定します。インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) をエージェント条件に指定します。</p> <p>カタログ・インデックス・ファイルの作成をユーザーが開始できるようにするには、N を指定します。エージェントは、継続的に YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルを照会し、インデックス作成が指示されているかどうかを判定します。ユーザーが、IBM Sterling Business Center からインデックス作成を開始した場合、このテーブルのステータス設定が「スケジュール済み」に変わります。これによって、エージェントはインデックス作成を起動します。ユーザーは、Sterling Business Center から、インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) を指定します。</p> <p>スケジュールまたはユーザーによってインデックス作成が実行された後、インデックスを Sterling Business Center からアクティブ化することができます。あるいは、インデックスが自動的にアクティブ化されるようにエージェントを構成することもできます。</p> <p>スケジュールとユーザーの両方がインデックス作成を開始できるようにするには、トランザクションが 2 つのエージェントのインスタンスを含むように構成します。1 つのインスタンスによってユーザーが開始するインデックス作成を起動し、もう 1 つのインスタンスによってスケジュール済みインデックス作成を起動するように構成します。</p>
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの統計を示します。

表 88. 「カタログ・インデックスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された検索インデックス数 (SearchIndicesBuilt)	作成された検索インデックスの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 89. 「カタログ・インデックスの作成」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	非公開	CATALOG_INDEX_BUILD.ON_SUCCESS.xml	あり

連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の連鎖オーダーを作成します。連鎖可能なオーダー明細を含む新しい連鎖オーダーを作成する代わりに、それらの明細を既存の連鎖オーダーに追加することもできます。既存の連鎖オーダーは、`determineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、外部プログラムが空白文書を返す場合、1 つ以上の連鎖オーダーが新規作成されます。

連鎖オーダーの作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createChainedOrder()` API および `YFSdetermineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

このトランザクションは、オーダーをスケジュールした後に起動する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 90. 「連鎖オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHAINED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createChainedOrder()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 91. 「連鎖オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 92. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「連鎖オーダーの作成」で処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された連鎖オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが連鎖オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された連鎖オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createChainedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

派生オーダーの作成 (Create Derived Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の派生オーダーを作成します。派生

オーダーが存在する場合、派生可能な明細を追加するか、それらの明細を含む派生オーダーを新規作成することができます。既存の派生オーダーは、`determineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、ヌル文書を返す場合、派生オーダーが新規作成されます。派生オーダーの作成については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createDerivedOrder()` API および `YFSDetermineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 93. 「派生オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DERIVED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createDerivedOrder()</code>

タスク・キュー・オブジェクトにポストされるトランザクション・キーは、オーダーに関連付けられたプロセス・タイプの `DERIVED_ORDER_CREATE` 抽象化トランザクションのインスタンスである必要があります。それ以外の場合、例外がスローされます。

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 94. 「派生オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 95. 「派生オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された派生オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが派生オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された派生オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createDerivedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

オーダー・インボイスの作成

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上のインボイスを作成します。オーダー・ヘッダー・キーのために、createOrderInvoice() API が呼び出されます。

数量または価格に影響する可能性のある処理がすべて完了している場合にのみ、このトランザクションをパイプライン内で構成します。インボイスの作成後に、明細の数量を請求済み数量よりも減らすことはできません。

「オーダー・インボイスの作成」トランザクションと「出荷インボイスの作成」トランザクションのどちらも、オーダーのインボイスを作成することができます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。詳しくは、185 ページの『出荷インボイスの作成』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 96. 「オーダー・インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_ORDER_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	createOrderInvoice()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 97. 「オーダー・インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 98. 「オーダー・インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成されたオーダー・インボイス数 (NumOrderInvoicesCreated)	作成されたオーダー・インボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createOrderInvoice()` API の項に記載されたイベントが発生します。

出荷インボイスの作成

オーダーが決済処理を必要とする場合、インボイス作成は必須です。以下の条件が満たされる場合、インボイスが作成されます。

- ドキュメント・パラメーター・レベルでインボイス作成が可能。
- セラーが決済処理を必要とする。

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納された出荷キーを持つ出荷に対して、1 つ以上のインボイスを作成します。出荷ヘッダー・キーに対して、`createShipmentInvoice()` API が呼び出されます。

このトランザクションは、出荷が出荷済みステータスに達した場合にのみ、出荷パイプライン内で構成する必要があります。

「オーダー・インボイスの作成」と「出荷インボイスの作成」のどちらも、オーダーのインボイスを作成できます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。183 ページの『オーダー・インボイスの作成』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 99. 「出荷インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_SHIPMENT_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createShipmentInvoice()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 100. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 100. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 101. 「出荷インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された出荷インボイス数 (NumShipmentInvoicesCreated)	作成された出荷インボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipmentInvoice() API の項に記載されたイベントが発生します。

ESP 評価者

「ESP 評価者」時間トリガー・トランザクションは、出荷が特定のエコノミック出荷パラメーターに適合するかどうかを検証します。出荷に対してどの運賃を適用するかを決定する運賃条件を使用して、バイヤーまたはエンタープライズについて ESP を構成することができます。

ESP のために出荷を保留するように構成を定義している場合、出荷は作成時に ESP のために保留されます (ステータスは「ESP 保留時」)。このタスク・キューに基づく時間トリガー・トランザクションは、ESP に対して出荷を評価し、その条件 (重量と容積の制限、および保留の最大日数) に適合する場合、出荷パイプライン内の次のステップに出荷を渡します。これで出荷ステータスは「ESP 保留解除」に設定され、ルーティング処理が開始されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 102. 「ESP 評価者」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ESP_EVALUATOR.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	出荷
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	getNodeMinimumNotificationTime

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 103. 「ESP 評価者」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「ESP 評価者」の実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 104. 「ESP 評価者」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	ESP_EVALUATOR.ON_SUCCESS.xml	あり

アイテム・ベースの割り当て

「アイテム・ベースの割り当て」トランザクションは、YFS_IBA_TRIGGER テーブルで「アイテム・ベースの割り当て」プロセス用にトリガーされている在庫アイテムおよび在庫ノードに基づいて、既存オーダーの約束していない需要と約束した需要をより適切な供給に割り当てます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、YFS_IBA_TRIGGER テーブルから、以下の条件に合致するすべての「アイテム・ベースの割り当て」トリガーを取得し、処理します。

- IBA_RUN_REQUIRED = "Y"
- LAST_IBA_PROCESSED_TS が現在時刻よりも「x」時間前である。ここで「x」は、インストール・ルール内の「アイテム・ベースの割り当てエージェントの実行間隔 (時間数)」のルールに定義されている時間です。インストール・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。このルールは、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントが、前に処理した YFS_IBA_TRIGGER テーブル内のトリガーを、再処理してはならない間隔を示すために使用されます。これによって、IBA エージェントは指定された時間間隔内にアイテムとノードの組み合わせを処理しすぎることがなくなるため、システムに対する高負荷を避けることができます。
- PROCESSING_BY_AGENT="N" または PROCESS_OVER_BY_TS が現在のタイム・スタンプより前である。PROCESSING_BY_AGENT フィールドを使用して、他のエージェントのインスタンスによって処理中の IBA トリガーがピックアップされないようにします。

「在庫組織コード」がエージェント条件に指定されている場合は、その在庫組織の在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが取り出されます。

トリガーされたアイテムとノードの組み合わせごとに、エージェントは、そのアイテムおよびノードを含むすべての該当するオーダー明細またはオーダー明細予約を見つけて、ユーザー構成の IBA 選択ルールまたは FIFO (先入れ先出し) IBA 選択ルールに基づいて、それらの約束していない需要と約束した需要を、より適切な入手可能な供給に移動しようとします。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一致した供給の最初の出荷日で新規の正のオーダー明細予約を作成し、既存の需要の出荷日には負のオーダー明細予約を作成します。すべてのオーダーは、処理が完了すると保留状態になり、オーダー明細予約で変更が検出された場合に、再スケジュールされます。

「アイテム・ベースの割り当て」プロセスには、以下の構成が必要です。

- 「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールを有効にする必要があります。
- アイテムおよびノードで「アイテム・ベースの割り当て許可」が有効でなければなりません。
- 再スケジュールのためオーダーを保留状態にできるように、保留タイプをオーダー明細予約変更の変更タイプ用にセットアップする必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

バックオーダーされた需要を再割り当てするために、「1 つの明細がバックオーダーされた場合は、優先度が最も高い出荷ノードに対してバックオーダーする」のルールにチェック・マークを付ける必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」の『フルフィルメント・ルール (Fulfillment Rules)』セクションを参照してください。

「アイテム・ベースの割り当て」ロジックを処理する前に、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガー上の以下のフィールドを更新します。

- PROCESSING_BY_AGENT = “Y”。これは、エージェントのインスタンスが、現在このトリガーを処理中であることを示します。
- PROCESS_OVER_BY_TS = 現在時刻 + 1 時間。これは、エージェントがこの IBA トリガーの処理を終了する予定時間を示します。1 時間は固定ウィンドウで、変更できません。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、現在のタイム・スタンプがこのタイム・スタンプより後の場合は、実際の値に関係なく、PROCESSING_BY_AGENT フラグを「N」として扱います。
- IBA_RUN_REQUIRED = “N”。これは、IBA_RUN_REQUIRED フラグを「N」にリセットします。

該当するオーダー・リリース・ステータスおよび割り当て済みのオーダー明細予約に基づいて需要のリストを取得する

需要のリストは、該当するオーダー・リリース・ステータスおよびオーダー明細予約から派生し、これらには IBA トリガーにおけるアイテムおよびノードが含まれません。以下のタイプの需要が取り出されます。

- 連鎖オーダーの需要
- 作成済みの連鎖オーダーのあるオーダーの需要
- 調達ノードはあるが、連鎖オーダーがまだ作成されていないオーダーの需要

- 調達ノードがないオーダーの需要
- オーダー明細予約からの需要

需要数量は、需要タイプを保有する「ステータス在庫のタイプ」構成のステータスを持つオーダー・リリース・ステータスの量に基づいて派生します。ここでは、「アイテム・ベースの割り当てに、考慮された需要タイプを使用する」が有効である場合に供給タイプが考慮されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てる使用可能な供給のリストを取得する

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、約束していない需要および約束した需要を無視して、ノード上のアイテムの在庫状況に基づいて、使用可能な供給を取得します。在庫組織が在庫を外部で管理している場合、外部の在庫状況は、YFSGetExternalInventoryUE 外部プログラムによって読み取ることができます。「アイテム・ベース割り当て時に在庫を検索する需要タイプ」を考慮する供給の在庫状況のみが、割り当てロジックで使用されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てられた需要は、「リリース時に検索する需要」と同じ供給と一致しなければなりません。

需要を FIFO (先入れ先出し) 順序と突き合わせる

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、使用可能な供給のリストを最初の出荷日 (ETA) 順にソートして、トップダウン・ロジックを使用して、取得した需要のリストと突き合わせます (最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われる、在庫状況取得における通常の突き合わせロジックとは異なります)。需要は、以下の順序で割り当てられます。

- 連鎖オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、連鎖オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 作成済みの連鎖オーダーがあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次に製品利用可能日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 調達ノードおよび連鎖オーダーの作成が迫っている (事前通知時刻ウィンドウ内にある) オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 調達ノードがなくリリース・ウィンドウ (事前通知時刻ウィンドウ) 内にあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- オーダー明細でのオーダー明細予約からの需要は、要求された予約日の順序になり、調達ノードあり、または調達ノードなしのオーダーの余剰需要 (事前通知時刻ウィンドウ外) は、最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 在庫予約からの需要は、出荷日の順序になります。

需要のタイプが異なると、その重要度に基づいて、優先順位が異なる点に注意してください。連鎖オーダーまたは連鎖オーダーに関連したオーダーの需要は、通常のオーダーの需要よりも高い優先順位で処理されます。また、出荷日が事前通知時刻ウィンドウ内にある需要も、事前通知時刻ウィンドウ外にある需要よりも優先順位が高くなります。

一致した需要のオーダー予約を更新する

ユーザー構成の順序付け、次に FIFO 順序で入手可能な供給と需要を突き合わせた後、システムはオーダー明細予約変更および在庫需要変更 (オーダー明細予約変更に対応) のリストを構築し、それらを要約して、オーダー予約更新と在庫更新の数を最適化します。一致した需要について、負のオーダー明細予約が追加されます。一致した需要について、正のオーダー明細予約が追加され、製品利用可能日が一致した供給の最初の出荷日に設定されます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガーに関するタスクの完了後、トリガーのフィールドを以下の値で更新します。

- IBA_REQUIRED = "N"
- LAST_IBA_PROCESSED_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESS_OVER_BY_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESSING_BY_AGENT = "N"

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、再スケジュール・プロセスと合わせて使用する必要があります。再スケジュール・プロセスは、「アイテム・ベースの割り当て」プロセスで作成されたオーダー明細予約の使用によって影響を受けたオーダーを再スケジュールするためです。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 105. 「アイテム・ベースの割り当て」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ITEM_BASED_ALLOCATION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder - 「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの一部として作成されたオーダー明細予約を更新します。
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 106. 「アイテム・ベースの割り当て」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理される在庫アイテムの在庫組織コード。指定された場合、この在庫組織に属する在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_IBA_TRIGGER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 107. 「アイテム・ベースの割り当て」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理されたオーダーの数。
再スケジュールを必要とするオーダー数	「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの結果、再スケジュールを必要とするオーダーの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `changeOrder` API で指定されたイベントを引き起こします。

集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク

これは、「集合・混載パイプライン」上で動作する時間トリガー・トランザクションです。

この時間トリガー・トランザクションは、タスク・キューからレコードを取得します。このトランザクションは、集合・混載のすべての容器がトレーラー上にある場合に、その集合・混載を集合・混載済みトレーラーとしてマークするために使用されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 108. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	MARK_AS_TRAILER_LOADED
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 109. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
再処理間隔	オプション。「再処理間隔」は、集合・混載の再処理に使用する時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 110. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	変更されたトレーラー集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

在庫の照合

「在庫の照合」は、YFS_INVENTORY_SHIPMENT テーブルにあるすべての保留レコードを処理します。保留レコードは、POSTED_QUANTITY の数字が QUANTITY の数字よりも小さくなります。

各保留レコードは、在庫コスト決定ロジックを適用することによって、YFS_INVENTORY_RECEIPT テーブル内の受入レコードと照合されます。販売と受入のデータが照合されたユニット・コストは、YFS_INVENTORY_MATCH テーブルにも計上されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 111. 「在庫の照合」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 112. 「在庫の照合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 112. 「在庫の照合」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
供給停止日 (CutOffDate)	オプション。渡された場合、レコードは最大でこの日付まで照合されます。デフォルトでは、データベース内のすべての照合未済のレコードが対象になります。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SHIPMENT、YFS_INVENTORY_RECEIPT、および YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 113. 「在庫の照合」の統計

統計の名前	説明
処理された在庫出荷数 (NumInventoryShipmentsProcessed)	処理された在庫出荷の数。
挿入された在庫一致数	挿入された在庫一致の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、QUANTITY の値が POSTED_QUANTITY の値と等しくない、YFS_INVENTORY_SHIPMENT テーブルに存在する個別の在庫アイテムの数になります。

発生するイベント

なし。

支払集金

このトランザクションは、承認または請求を保留中のオーダーについて、クレジットの検証を要求します。

承認要請および請求要請作成にこのトランザクションを使用します。

このトランザクションは、「支払実行」トランザクションと組み合わせて動作します。このトランザクションは「支払実行」トランザクションとは独立して実行可能ですが、承認と集金は支払実行の依存関係が満たされた後にのみ、発生します。詳しくは、198 ページの『支払実行』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 114. 「販売オーダーの支払集金」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

表 115. 返品オーダーの支払集金属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 116. 「支払集金」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。このトランザクションを実行する必要があるエンタープライズ。空欄のままにした場合、すべてのエンタープライズのオーダーが処理されます。指定した場合、そのエンタープライズのオーダーのみ処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

表 116. 「支払集金」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)	<p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力され、requestCollection エージェントが例外をスローする場合 (getFundsAvailable 外部プログラムからなど)、「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」が使用されて、オーダーは保留状態に置かれます。古いオーダー保留機能を使用している場合、保留の理由として使用されます。保留タイプが存在しない場合、例外がスローされます。</p> <p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力されていない場合、例外がスローされてもオーダーは保留されません。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 117. 「支払集金」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された請求要請数 (NumChargeReqsCreated)	作成された請求要請の数。
作成された承認要請数 (NumAuthorizationReqsCreated)	作成された承認要請の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AUTHORIZATION_EXPIRATION_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) の、該当する支払ステータスにあるオーダーの数になります。オーダーの該当する支払ステータスは以下のとおりです。

- AWAIT_PAY_INFO
- AWAIT_AUTH
- REQUESTED_AUTH
- REQUEST_CHARGE
- AUTHORIZED、INVOICED
- PAID
- RELEASE_HOLD
- FAILED_AUTH
- FAILED_CHARGE
- VERIFY
- FAILED

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 118. 「支払集金」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
INCOMPLETE_PAYMENT_INFORMATION	modifyOrder_dbd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTON.INCOMPLETE_PAYMENT_INFORMATION.xml	あり
PAYMENT_STATUS	YFS_PAYMENT_COLLECTION.PAYMENT_STATUS_dtd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.PAYMENT_STATUS.xml	あり
REQUEST_PAYMENT_STATUS		YFS_PAYMENT_COLLECTION.REQUEST_PAYMENT_STATUS.xml	あり
ON_LIABILITY_TRANSFER	modifyOrder_dbd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.ON_LIABILITY_TRANSFER.xml	あり
ON_INVOICE_COLLECTION	order_dbd/txt	YFS_CREATE_ORDER_INVOICE.ON_INVOICE_COLLECTION.xml	あり

支払実行

このトランザクションは、承認および請求を保留するすべての要請を処理します。

すべての承認要請および請求要請処理にこの時間トリガー・トランザクションを使用します。

このトランザクションには、会計サービスを提供する製品とのインターフェースが必要です。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 119. 「販売オーダーの支払実行」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION
基本伝票種別	オーダー

表 119. 「販売オーダーの支払実行」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

表 120. 返品オーダーの支払実行属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 121. 「支払実行」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
料金タイプ	クレジット・カード・プロセスのタイプ。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • AUTHORIZATION - クレジット・カード・アカウントを検証 • CHARGE - クレジット・カードに請求を適用
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 122. 「支払実行」の統計

統計の名前	説明
処理された承認トランザクション数 (NumAuthTransProcessed)	処理された承認トランザクションの数。
処理が完了した承認トランザクション数 (NumAuthTransSuccessfullyProcessed)	処理された承認トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
処理された請求トランザクション数 (NumChargeTransProcessed)	処理された請求トランザクションの数。
処理が完了した請求トランザクション数 (NumChargeTransSuccessfullyProcessed)	処理された請求トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
集金検証数 (NumCollectionValidations)	起動された集金検証外部プログラムからの正常な戻りの数。
クレジット・カード集金数 (NumCreditCardCollections)	クレジット・カード集金の数。
顧客アカウント集金数 (NumCustomerAccountCollections)	顧客アカウント集金外部プログラムからの正常な戻りの数。
その他の集金数 (NumOtherCollections)	その他の集金外部プログラムからの正常な戻りの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンな請求および承認トランザクションの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 123. 「支払実行」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
CHARGE_FAILED	modifyOrder dbd.txt	PAYMENT_EXECUTION_ CHARGE_FAILED_dbd.txt	なし

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `executeCollection()` API で指定されたイベントを引き起こします。

在庫一致の公示

このトランザクションは、`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のすべてのオープンなレコードを処理し、そのレコードを会計システムに公示します。

`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のオープンなレコードのステータスは、01 です。公示後、ステータスは 02 に変更されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 124. 「在庫一致の公示」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POST_INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 125. 「在庫一致の公示」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 126. 「在庫一致の公示」の統計

統計の名前	説明
公示された在庫一致数 (NumInventoryMatchPosted)	公示された在庫一致レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンなステータスを持つ在庫一致の数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 127. 「在庫一致の公示」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
POST_INVENTORY_MATCH	POST_ INVENTORY_ MATCH_dbd.txt	YFS_postInventory Match_output.xml	なし

オーダー保留タイプの処理

PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE 抽象化トランザクションから派生した、時間トリガー・トランザクションを作成できます。これは、1 つ以上の保留タイプの処理トランザクションとして構成できます。オーダーが、処理トランザクションとして構成されたトランザクションを持つ保留タイプに関連付けられている場合、そのトランザクションを処理するために、レコードが YFS_TASK_Q テーブルに作成されます。

処理トランザクションがトリガーされると、保留タイプ構成に基づいて、処理できる保留タイプをチェックします。処理できる保留タイプがない場合、YFS_TASK_Q レコードは削除されます。処理できる保留タイプがある場合、処理対象の保留タイプのリストと共に、processOrderHoldType 外部プログラムが起動されます。processOrderHoldType 外部プログラムは、オーダーから削除可能な保留タイプのリストを戻します。

次に、このトランザクションは、processOrderHoldType 外部プログラムによって戻される出力に基づいて、オーダーを変更し、オーダー保留タイプ・リストを更新します。これで処理できる保留タイプがなくなった場合、YFS_TASK_Q レコードは削除されます。処理可能な保留タイプがまだ存在する場合、YFS_TASK_Q は次の利用可能日で更新されます。

また、processOrderHoldType 外部プログラムを呼び出して、新規の保留タイプを追加するか、またはオーダーに既に適用されている保留タイプのステータスを変更することもできます。processOrderHoldType 外部プログラムについて詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs* を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 128. 「オーダー保留タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	オーダー

表 128. 「オーダー保留タイプの処理」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 129. 「オーダー保留タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_TASK_Q テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 130. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ORDER_ CHANGE.ON_ SUCCESS.xml	あり *
ON_HOLD_TYPE _STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスを変更され ます。	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ON_ HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE.xml	あり

表 130. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント (続き)

トランザクション/イベント	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE	保留タイプのステータスが変更されます。	modifyOrder_dbd.txt	YFS_ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

保留作業オーダー・タイプの処理

この時間トリガー・トランザクションは、「オーダー保留タイプの処理」トランザクションと同じですが、このトランザクションは作業オーダーに使用されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 131. 「保留作業オーダー・タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_WO_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	modifyWorkOrder

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 132. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 132. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 133. 「保留作業オーダー・タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	workOrder_ dbd.txt	VAS_MODIFY_ WORK_ORDER .ON_SUCCESS. xml	あり *
ON_HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスが変更され ます。	workOrder_ ldbd.txt	VAS_ON_HOLD _TYPE_STATUS _CHANGE.xml	あり

* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

交渉の発行結果

このトランザクションは、交渉条件をオーダーに発行します。

オーダーで交渉フェーズを使用する必要がある環境で、このトランザクションを使用します。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 134. 「交渉の発行結果」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PUBLISH_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー

表 134. 「交渉の発行結果」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 135. 「交渉の発行結果」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 136. 「交渉の発行結果」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。
発行された交渉数 (NumNegotiationsPublished)	発行された交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 137. 「交渉の発行結果」トランザクションによって発生するイベント

基本トランザクション	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
PUBLISH_ORD _NEGOTIATION/ ON_SUCCESS	成功時	Negotiation_dbd.txt	YCP_get 交渉 Details_output.xml	あり *
RECEIVE_ORD _NEGOTIATION/ ON_SUCCESS	成功時 (伝票種別が 0001 で、エンティティ・タイプが ORDER の場合)。	同時に実行されている時間トリガー・トランザクションの数。	receiveOrder Negotiation_dbd.txt	なし
* 注: このイベントで使用されるテンプレートは、出力 XML を形成するために getNegotiationDetails() API が使用するテンプレートと同じです。				

リリース

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してリリースし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

このトランザクションは、プロセスのスケジューリング後に起動する必要があります。

詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `releaseOrder()` API で提供される情報を参照してください。

組み合わせられた「スケジュールおよびリリース」エージェントを実行する場合、個別のスケジュール・エージェントおよび個別のリリース・エージェントを実行しないでください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 138. リリース属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RELEASE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	releaseOrder()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 139. リリースの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスで明細のリリース日付条件が無視されるようにするかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。 • N - デフォルト値。リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。
在庫の確認 (CheckInventory)	オプション。在庫のチェックが必要かどうかを判断します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。在庫のチェックが必要です。 • N - 在庫のチェックは不要です。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 140. リリース条件の統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	将来の日付エラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	リリースを試行されたオーダーの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理をできないエラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
リリースされたオーダー数 (NumOrdersReleased)	リリースされたオーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。

表 140. リリース条件の統計 (続き)

統計の名前	説明
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理エラーが原因でリリースされなかったオーダーの数。

リリース・プロセスの結果、オーダー明細が分割される場合、NumOrderLinesReleased、NumOrderLinesBackordered、および NumOfReleasesCreated の結果は、1 より大きくなることがあります。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Task_Q テーブル内の AVAILABLE_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の releaseOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

出荷のルーティング

この時間トリガー・トランザクションは、出荷のルーティングに使用され、出荷パイプラインに属しています。構成されたルーティング・ガイドに基づき、出荷用の運送会社コードおよび運送会社サービス・コードを割り当てます。

出荷のルーティング・トランザクションは、既存の集合・混載に出荷を含めるか、新規の集合・混載を作成し、そこに出荷を含めます。

出荷は、以下の条件を満たす場合のみ、1 つの集合・混載にまとめることができます。

- 予定出荷日 - 出荷の予定出荷日が集合・混載の出荷期限日以前であること。
- 集合・混載出発予定日 - 集合・混載出発予定日が集合・混載内の出荷品の出荷期限日以前であること。

出荷期限日は、集合・混載に含まれるすべての出荷に基づき、集合・混載用に計算される日付です。例えば、1 つの集合・混載に 3 つの出荷があり、それぞれの出荷期限日が 2005/12/22、2005/12/12、および 2005/12/19 の場合、2005/12/12 が 3 つの日付の中で最も早いいため、集合・混載の出荷期限日は 2005/12/12 と計算されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 141. 出荷のルーティング

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ROUTE_SHIPMENT.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	ORDER_DELIVERY
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	com.yantra.ydm.japi.ue.YDMOverrideDetermineRoutingUE com.yantra.ydm.japi.ue.YDMBeforeDetermineRoutingUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 142. 出荷のルーティングの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 143. 出荷のルーティングの統計

統計の名前	説明
ルーティング数 (NumRouted)	ルーティングされる出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 144. 出荷のルーティング・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり
ON_FAILURE	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_FAILURE.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

スケジュール

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してスケジュールし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

オーダー作成後にこのトランザクションを実行します。

個別のスケジュール・エージェントまたはリリース・エージェントは、組み合わされた「スケジュールおよびリリース」エージェントの実行中は実行しないでください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 145. スケジュールの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SCHEDULE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	scheduleOrder()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 146. スケジュールの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
最大レコード数 (MaximumRecords)	スケジュール・エージェントが検出可能で、考えられるソリューションの最大数を判別します。このパラメーターにより、検出される最適なソリューションが改善される可能性があります。このエージェントのパフォーマンスにも影響を及ぼします。 これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5 に設定されます。
最適化タイプ (OptimizationType)	オプション。スケジューリング処理に適用する最適化ルールを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 01 - 日付で最適化 (デフォルト) • 02 - 出荷ノードの優先順位で最適化 • 03 - 出荷数で最適化
フィルターするオーダー (OrderFilter)	オプション。フィルターするオーダー・タイプを決定します。指定できる値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • A - 全オーダー (デフォルト) • B - バックオーダーのみ • N - 新規オーダーのみ
スケジュールおよびリリース (ScheduleAndRelease)	オプション。スケジュール・プロセスに対してリリース可能なすべての明細数量をリリースするように通知します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - スケジュール済み明細数量を正常にリリースします。 • N - デフォルト値。明細数量のスケジュールのみ行います。 <p>このパラメーターを使用可能にすると、リリース・トランザクションに構成される保留タイプは妥当性検査されません。</p>
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスで明細のリリース日付条件が無視されるようにするかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。 • N - リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。これがデフォルトです。
次のタスク・キュー間隔	未使用。このエージェントは、失敗したタスクを更新し、適切にスケジュールされたルール内のバック・オーダー再試行間隔セットアップに対して保留になるようにします。

表 146. スケジュールの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 147. スケジュールの統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	<p>将来の日付エラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> OrderFilter が「B」(バックオーダーのみ) でバックオーダー済み明細およびスケジュール解除明細がない場合。 OrderFilter が「N」(新規オーダーのみ) でバックオーダー済み明細またはスケジュール解除明細がいくつかある場合。 オーダーに、バックオーダー済みステータスまたはスケジュール解除ステータスのみのオーダー明細があり、ステータス変更タイム・スタンプが現在時刻からスケジューリング・ルールに指定されるバック・オーダー待機期間を減算した日時よりも後の場合。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	スケジュールを試行したオーダーの数。この統計には、NumFutureDateFailures 統計および NumOrdersCannotBeProcessedFailures 統計の値は含まれません。
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。

表 147. スケジュールの統計 (続き)

統計の名前	説明
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	<p>処理をできないエラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YFSCheckOrderBeforeProcessingUE 外部プログラムの結果が false として戻される。 • オーダーの HoldFlag 属性に「Y」が設定される。 • オーダーの SaleVoided 属性に「Y」が設定される。 • オーダーの PaymentStatus が、「承認済み」、「請求済み」、「支払済み」、および「該当せず」のいずれでもない。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成されたオーダーの数。これには、作成された調達オーダーの数も含まれます。
作成されたオーダー明細数 (NumOrderLinesCreated)	作成されたオーダー明細の数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
スケジュールされた明細数 (NumOrdersScheduled)	<p>スケジュールされた明細が少なくとも 1 つはあるオーダーの数。</p> <p>これには、「バック・オーダー」を除くあらゆるステータスのスケジュール済み明細が含まれます。</p>
作成された調達オーダー数 (NumOrdersProcOrdersCreated)	作成された調達オーダーの数。
作成された作業オーダー数 (NumWorkOrdersCreated)	作成された作業オーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。
スケジュールされたオーダー明細数 (NumOrderLinesScheduled)	スケジュールされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `scheduleOrder()` API で指定されるイベントを発生させます。

Oracle ヒントの指定

Oracle ヒントを指定して、`scheduleOrder` エージェントのパフォーマンスを向上させることができます。`scheduleOrder` エージェントのそれぞれの条件 ID に指定できるヒントは、外部ヒントおよび内部ヒントの 2 つです。外部ヒントは、`YFS_TASK_Q` テーブルで必ず使用されます。内部ヒントは、初期の保留機能が使用される場合のみ、`YFS_ORDER_HEADER` テーブルで使用されます。それ以外の場合、内部ヒントは、`YFS_ORDER_RELEASE_STATUS` テーブルで使用されます。

Oracle ヒントを使用可能にするには、以下のエントリを `yfs.properties` ファイルに挿入します。

1. `<INSTALL_DIR>/properties/yfs.properties` ファイルを編集します。
2. `yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.outer=/** parallel(YFS_TASK_Q 8) full(yfs_task_q) */` を挿入します。

`yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.inner=/** NL_SJ */` を挿入します。

インボイスの送付

このトランザクションは、外部の売掛システムに送信できるインボイス・データを公開します。

売掛システムとのインターフェースを必要とする環境では、このトランザクションをスケジュールに入れる必要があります。このトランザクションは、インボイス向けのイベントの発生を、以下の構成に基づきオーダー・ライフサイクルの次のタイミングで行います。

- 出荷作成時にインボイス発行 - これは、ご使用の買掛システムが支払集金を行うことを示します。インボイスは、作成されると即時に発行できます。
- 支払集金後にインボイス発行 - これは、コンソールで支払集金を行うことを示します。支払いが `AT_COLLECT` ステータスにあり、支払いが外部システムからは行われない場合、すべての支払い金額が集金済みのときのみインボイスが発行されます。支払いが `AT_CREATE` ステータス、または支払いが外部システムから行われる場合、インボイスは無条件に発行されます。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 148. インボイスの送付の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_INVOICE

表 148. インボイスの送付の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	getOrderInvoiceDetails()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 149. インボイスの送付の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 150. インボイスの送付の統計

統計の名前	説明
送信されたインボイス数 (NumInvoicesSent)	送信されたインボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、作成済み (「00」) ステータスのオーダー・インボイスの数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 151. インボイスの送付トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
PUBLISH_INVOICE_DETAIL	modifyOrder_dbd.txt および sendInvoice_dbd.txt	YFS_getOrderInvoice Details_output.xml	あり

追加のイベントが `getOrderInvoiceDetails()` API により発生することがあります。イベントについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」のこの API で提供される詳細情報を参照してください。

アイテム変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信されるアイテム・データの変更を公開します。

アイテム変更が *Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で発生すると、アイテム変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、すべてのアイテムの同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、`sendItemChanges` エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを抽出します。また、`SyncTS` が `NULL` か `MaxModifyTS` が `SyncTS` より大きいすべてのアイテムを抽出します。

アイテムの `MaxModifyTS` は、アイテムが変更されるたびに現在のタイム・スタンプを使用して更新されます。次に、トランザクションはそれらのアイテムに関する詳細情報を取得し、`ON_SUCCESS` イベントを発生させます。このイベントは、「アイテム変更を送信」アクションの起動のために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 152. アイテム変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ITEM_CHANGES
基本伝票種別	なし

表 152. アイテム変更の送信の属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 153. アイテム変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。アイテムの同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とするアイテムの数です。これは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを算出します。また、SyncTS が NULL か MaxModifyTS が SyncTS より大きいアイテムを算出します。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 154. アイテム変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	なし	YCM_SEND_ITEM_CHANGES_ON_SUCCESS.XML	あり

顧客変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信される顧客変更データを公開します。

顧客変更が Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生すると、顧客変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、顧客の同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、sendItemChanges エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、ユーザー ID を現在有するコンシューマーであり、同期化を必要とするすべての顧客を抽出します。また、このトランザクションは、2 つのシステム間でユーザーの初期の同期を実行するのにも使用できます。例えば、外部システムが既に存在しており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が追加される場合、SendCustomerChanges エージェントは外部システムのユーザーを同期化します。

sendCustomerChanges エージェントは、バックアップ手段としても機能します。顧客の同期イベントが失敗した場合、エージェントは、指定された時間の経過後に自動的に同期を再試行します。

顧客の MaxModifyTS の更新は、顧客が変更される場合と syncTS が MaxModifyTS より小さい場合には常に、現在のタイム・スタンプを使用して行われ、また syncTS が NULL の場合にも現在のタイム・スタンプを使用して行われます。次に、トランザクションはそれらの顧客に関する詳細情報を取得し、ON_SUCCESS イベントを発生させます。このイベントは、顧客変更の送信アクションを起動するために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 155. 顧客変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_CUSTOMER_CHANGES
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 156. 顧客変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。顧客の同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とする顧客の数です。これは、コンシューマーであり、ユーザー ID を現在有し、さらに同期化を必要とする、顧客について算出されます。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 157. 顧客変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS	なし	YSC_SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS.XML	あり

オーダーの送信

このトランザクションは、OrderHeaderKey がタスク・キュー・オブジェクトに格納されるオーダーに関して、ON_SUCCESS イベントが発生するように試行します。イベントが発生するのは、オーダーのすべてのオーダー明細が特定のステータス (複数の場合あり) に完全に達するときのみです。つまり、明細ごとの ORDERED_QTY 全体が特定のステータス (複数の場合あり) になる必要があります。イベントの発生に加え、明細のステータスもドロップ・ステータスに変更されて、ピックアップ・ステータスに対応します。抽象化トランザクション SEND_ORDER から派生する

SendOrder トランザクションでは、イベント、ピックアップ、およびドロップの各ステータスを構成する必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `sendOrder()` API で提供される詳細情報を参照してください。

オーダーでサード・パーティーとの通信が必要な場合は、このトランザクションを使用します。

タスク・オブジェクトにポストされる `TransactionKey` は、オーダーに関連付けられる `ProcessType` の抽象化トランザクション `SEND_ORDER` のインスタンスであることが必要です。それ以外の場合、例外がスローされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 158. オーダーの送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>sendOrder()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 159. オーダーの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の sendOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

リリースの送信

リリースの送信エージェントは、リリースを出荷ノードにディスパッチします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 160. リリースの送信の属性

属性	値
トランザクション名	リリースの送信
トランザクション ID	SHIP_ADVICE
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	com.yantra.yfs.agent.YFSWMSShipAdviceAgent

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 161. リリースの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 162. リリースの送信の統計

統計の名前	説明
処理されたりリース数 (NumReleasesProcessed)	処理されたオーダー・リリースの数。
送信されたりリース数 (NumReleasesSent)	送信されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 163. リリースの送信トランザクションで発生するイベント

トランザクションイベント	公開されるデータ
PUBLISH_SHIP_ADVICE	YFS_publishShipAdvice_output.xml

オーダー開始交渉

このトランザクションは、交渉プロセスを経るよう構成される、オーダーの交渉を作成します。

このトランザクションは、オーダーが、リリース前に交渉フェーズを経る必要のある環境で使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 164. オーダー開始交渉の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	START_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createNegotiation()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCPBeforeCreateNegotiationUE、YCPGetNegotiationNoUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 165. オーダー開始交渉の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 166. オーダー開始交渉の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された交渉数 (NumNegotiationsCreated)	作成された交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の createNegotiation() API で指定されるイベントを発生させます。

コロニー・マップの同期化

コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェントは、PLT_COLONY_MAP テーブル内の組織およびユーザーのコロニー・マップの挿入または更新を行います。エージェントを最初に実行する場合、エージェントはこのテーブルにデータを入れま

す。これは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のインストール後および更新後、マルチ・スキーマ・モードにアップグレードする際に必要なステップです。

マルチ・スキーマ・モードへのアップグレードについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Multi-Tenant Enterprise Guide*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 167. コロニー・マップ・シンクロナイザーの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	COLONY_MAP_SYNC
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 168. コロニー・マップ・シンクロナイザーの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	同期されるコロニー。 エージェントが PLT_COLONY_MAP テーブルにデータを設定するように、Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール済み環境に備わっているデフォルトのコロニーで、最初にエージェントを実行する必要があります。この後に、別の ColonyID でエージェントを実行できます。
InsertDefaultMappings	「Y」が設定されている場合、コロニーが特定できないユーザーは、コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェント実行対象のコロニーにマッピングされます。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

なし。

ベスト・マッチ地域の更新

ベスト・マッチ地域の更新トランザクションは、YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルを管理し、このテーブルは、ベスト・マッチ地域データをレポートするデータウェアハウス分析で使用されます。ベスト・マッチ地域は、個人情報レコード内の以下の 5 つの住所属性により定義されます。

- ADDRESS_LINE6
- CITY
- 都道府県 (STATE)
- SHORT_ZIP_CODE
- COUNTRY

ベスト・マッチ地域の更新トランザクション用のエージェントは、2 つのモードで稼働します。このモードを使用して、YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルのセットアップおよび更新を行うことができます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 169. ベスト・マッチ地域の更新の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	UPDATE_BEST_MATCH_REGION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YSCGetShortZipCode UE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 170. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 UpdateOnly = N の場合、エージェントを呼び出すごとに特定のレコードのみ戻されます。空欄のままにすると、デフォルトは 1000 です。
テーブル・タイプ (TableType)	YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。 有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。 CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。 TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。 エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対しても実行されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。
UpdateOnly	実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • N - デフォルト値。レコードを YFS_PERSON_INFO テーブルから YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルに追加し、地域キーを YFS_BEST_MATCH テーブルに入れます。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行するには、UpdateOnly に N を設定します。 • Y - 更新モード。地域キーを YFS_REGION_BEST_MATCH 内の住所に基づき更新します。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行後、この値に Y を設定して更新モードを指定します。
LastPersonInfoKey	オプション。UpdateOnly に N が設定される場合、LastPersonInfoKey は、最初に入れる個人情報レコードを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

表 170. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
LastRegionBest MatchKey	オプション。UpdateOnly に Y が設定される場合、LastRegionBestMatchKey は、更新する最初の地域ベスト・マッチ・キーを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

なし。

所有権転送サマリーの読み込み

このメソッドは、YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルを更新します。

このトランザクションは、YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブル内のレコードをチェックすることによって、YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルを更新します。

また、このトランザクションによってレコードが使用された後、YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブル内の IS_STATISTICS_UPDATED を「Y」に更新します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 171. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POPULATE_OWN_TRANS_SUMM
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 172. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルおよび YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

なし

時間トリガー・ページ・トランザクション

一定の時間間隔でデータベース表をページするために使用できる、いくつかのトランザクションがあります。

ページ・トランザクションは、現在日付を判別し、ページに指定された保持日数を差し引くことで、表をページする時を決定します。表のタイム・スタンプが「現在日付から保持日数を差し引いた日付」を経過していれば、表はページされます。

場合によっては、ページが表のタイム・スタンプ以外の別のフィールドを参照することもあります。これらは資料内で示されています。

エンティティーがページされる場合、他の表に存在する関連情報または従属情報を一緒にページするかを考慮する必要があります。例えば、ライブ出荷があるオーダーがページされると、オーダー出荷コンソール内のそのオーダーの相互参照は不正確になります。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべての時間トリガー・ページ・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、その時間トリガー・トランザクションの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

ページ方法

各ページ・トランザクションに対してページ方法を計画するには、以下の推奨事項を考慮に入れる必要があります。

- 「ライブ」を「N」に設定して、ページをテストします。
- ページ内容をテストするためにロギングをオンにします。
- System Management Console でページ・トレースをセットアップし、情報を分析します。

ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成

このタスクについて

ページを構成して、指定するディレクトリーにログ・ファイルを書き込むことができます。特定のページを実行するたびに、新規データがこのファイルに追加されます。ファイルが存在しない場合、作成されます。

ページ・ログ・ファイル・ディレクトリーを指定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. yfs.purge.path プロパティーを <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに構成します。例えば、UNIX では、ログ・ファイルが /app/yfs/logs/purges ディレクトリーに書き込まれるように指定できます。

customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティー・ガイド』を参照してください。
2. UNIX で <INSTALL_DIR>/bin/setupfiles.sh スクリプトを実行するか、Windows で <INSTALL_DIR>/bin/setupfiles.cmd スクリプトを実行します。

使用可能なページ

このセクションでは、すべてのページ・トランザクションの詳細を英字順に記載しています。

アクセス・トークン・ページ

このページは、アクセス・トークンをシステムから削除します。以下の条件がすべて満たされる場合、PLT_ACCESS_TOKEN テーブルからページ対象が選択されま

- アクセス・トークンが期限切れか、非アクティブ状態にある。
- 最終変更日時が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付以前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 173. 「アクセス・トークン・ページ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ACCESSTOKPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 174. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 174. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 175. 「アクセス・トークン・ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたアクセス・トークン数 (NumAccessTokenPurged)	ページされたアクセス・トークンのレコード数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_ACCESS_TOKEN テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_ACCESS_TOKEN

キャパシティー・ページ

このページは、システムからキャパシティー・データを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、ページ対象のキャパシティー・データが選択されます。

- すべてのリソース・プールの標準キャパシティー期間の有効終了日が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのオーバーライド済みキャパシティーの日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、予定日が、システム日付からページ条件の保持日数 (手動で作成された予約の場合は「手動予約のページ・リード日数 (ManualReservationPurgeLeadDays)」) を引いた日付よりも古い。

- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、有効期限が過ぎており、予約 ID が空欄ではない。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 176. 「キャパシティー・パージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CAPACITYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 177. 「キャパシティー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 178. 「キャパシティー・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた標準キャパシティー期間数 (NumStdCapacityPeriodsPurged)	パージされた標準キャパシティー期間の数。
パージされたキャパシティー・オーバーライド数 (NumCapacityOverridesPurged)	パージされたキャパシティー・オーバーライドの数。
パージされたキャパシティー消費数 (NumCapacityConsumptionsPurged)	パージされたキャパシティー消費の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_RES_POOL_STD_CAPCTY_PERD、YFS_RES_POOL_CAPCTY_OVERRIDE、YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS、およびYFS_RES_POOL_CAPCTY_CONSMPTN の各テーブルからパージできるレコードの総数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_RES_POOL_STD_CAPCTY_PERD テーブルは、EFFECTIVE_TO_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS_RES_POOL_CAPCTY_OVERRIDE テーブルは、CAPACITY_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS_RES_POOL_CAPCTY_CONSMPTN テーブルは、CONSUMPTION_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合、または手動で予約された場合は、CONSUMPTION_DATE <= (現在日付 - 手動予約の保持日数) の場合にパージされます。このテーブルがパージされると、YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS もパージされます。

YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS テーブルは、RESERVATION_EXPIRATION_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

ドラフト・オーダー履歴パージ

このパージは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルからデータを削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。

ページ・コードの疑似論理を使用して、ページを分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴をページするためにドラフト・オーダーが選択されます。

- 最後に変更されたドラフト・オーダーの日付が、保持日数の期間を過ぎている。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

注: ドラフト・オーダーをページして履歴テーブルに移動してから、ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする必要があります。237 ページの『ドラフト・オーダー・ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー履歴をページするトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード `DRAFTORDERHISTPRG` を指定することができます。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするための「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、271 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

条件パラメーター

ドラフト・オーダー履歴トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 179. 「ドラフト・オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。資格を満たすレコードを、「ページされるテーブル」に記載された履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。

表 179. 「ドラフト・オーダー履歴パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERHISTPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ANSWER_SET_TRAN_H

YFS_ANSWER_TRAN_H

YFS_CHARGE_TRAN_DIST_H

YFS_CHARGE_TRANSACTION_H

YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION_H

YFS_ENTITY_ADDRESS_H

YFS_HEADER_CHARGES_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_INVOICE_COLLECTION_H

YFS_LINE_CHARGES_H

YFS_NOTES_H

YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL_H

YFS_ORDER_AUDIT_H

YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL_H

YFS_ORDER_DATE_H

YFS_ORDER_HEADER_H

YFS_ORDER_HOLD_TYPE_H

YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL_H
YFS_ORDER_INVOICE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_LINE_H
YFS_ORDER_LINE_OPTION_H
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG_H
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC_H
YFS_ORDER_RELEASE_H
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS_H
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM_H
YFS_PAYMENT_H
YFS_PROMOTION_AWARD_H
YFS_PROMOTION_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_H
YFS_REFERENCE_TABLE_H
YFS_TAX_BREAKUP_H

ドラフト・オーダー・ページ

このページは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルにデータを保存します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。履歴テーブルからのドラフト・オーダーのページについて詳しくは、234 ページの『ドラフト・オーダー履歴ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー・ページ用のトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダーをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダーをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード DRAFTORDERPRG

を指定することができます。ドラフト・オーダー・ページ用の「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、271 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

ドラフト・オーダーは、以下の条件が満たされる場合に、検証用のエージェントによって選択されます。

- ドラフト・オーダー・フラグが、Y に設定されている。
- 変更時のタイム・スタンプが、保存日付に対して設定されている。

ドラフト・オーダーの選択後、以下の条件に基づいて、各ドラフト・オーダーのページについて妥当性が検証されます。

- オーダーに、資格を満たすオーダー・リリース・ステータス・レコード (ゼロより大きなステータスを持つレコード) が存在しない。
- オーダーの未完了の子オーダー (派生、連鎖、返品、交換、または返金フルフィルメント) が既にすべてページされている。

ドラフト・オーダーが上記の一連の検証条件を満たす場合、エージェントは以下の条件について引き続きドラフト・オーダーを検証します。

- 「ドラフト作成済み」ステータス (1000) およびすべての拡張「ドラフト作成済み」ステータスが含まれる。
- 保持日数に適合しないオーダー・リリース・ステータス・レコードが含まれない。
- オーダーの最後の変更が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
- 交換オーダーが返品オーダーの一部である場合、返品オーダーをページする前に交換オーダーが履歴テーブルからページされている。
- オーダー明細予約の場合、ドラフト・オーダーのページは不可。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが N に設定されている場合、ドラフト・オーダーはページされる。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが Y に設定され、ドラフト・オーダーに料金が存在する場合、ドラフト・オーダーはページされない。ただし、ドラフト・オーダーのページを検証する場合、承認は考慮されない。
- オーダー明細の場合、以下のサービス・オーダー明細は除外されます。
 - セラーの在庫更新が必要で、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンに設定され、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。(「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが使用可能なカスタム・セラー供給タイプでも可。)
 - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
 - バイヤーの在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。

条件パラメーター

「ドラフト・オーダー・ページ」トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 180. 「ドラフト・オーダー・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクの再処理を検討するまでの中断期間を、時間単位で指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー・ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 エンタープライズ・コードが空欄の場合、デフォルト・エンタープライズに対して構成されたページ条件が使用され、ドラフト・オーダーのエンタープライズに対して構成されたページ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ACTIVITY_DEMAND

YFS_ANSWER_SET_TRAN

YFS_ANSWER_TRAN
YFS_CHARGE_TRANSACTION
YFS_CHARGE_TRAN_DIST
YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION
YFS_ENTITY_ADDRESS
YFS_HEADER_CHARGES
YFS_INSTRUCTION_DETAIL
YFS_INVOICE_COLLECTION
YFS_LINE_CHARGES
YFS_MONITOR_ALERT
YFS_NOTES
YFS_ORDER_AUDIT
YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL
YFS_ORDER_HEADER
YFS_ORDER_HOLD_TYPE
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG
YFS_ORDER_INVOICE
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL
YFS_ORDER_KIT_LINE
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE
YFS_ORDER_LINE_OPTION
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG
YFS_ORDER_LINE_RESERVATION
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE_SRC_CNTRL
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC

YFS_ORDER_RELEASE
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM
YFS_ORDER_DATE
YFS_PAYMENT
YFS_PMNT_TRANS_ERROR
YFS_PROMOTION
YFS_PROMOTION_AWARD
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL
YFS_REFERENCE_TABLE
YFS_TAX_BREAKUP

配送計画のパージ (Delivery Plan Purge)

配送計画が通常のライフサイクルを完了した場合、このパージによって配送計画を削除します。配送計画に関連付けられたすべての集合・混載と出荷をパージしてから、このパージ・エージェントを実行する必要があります。

条件パラメーターで指定された保持日数を超える期間「完了」のマークが付けられていた配送計画、および、どの出荷、集合・混載も含まない配送計画が、すべてパージされます。設定されたリード・タイム (日単位) より前に、オーダーを履歴に移動しておく必要があります。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、配送計画がパージ対象として選択されます。

- 配送計画が「完了」ステータスにある。
- 配送計画が、どの集合・混載、出荷にも関連付けられていない。
- 配送計画に関連付けられたすべてのオーダーが、パージされている。
- 配送計画に対して最後に行われた変更が、設定されたリード・タイム (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 181. 「配送計画のバージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DELIVERYPLANPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 182. 「配送計画のバージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「配送計画のバージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。

表 182. 「配送計画のパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_DELIVERY_PLAN テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 183. 「配送計画のパージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた配送計画数 (NumDeliveryPlansPurged)	パージされた配送計画の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_DELIVERY_PLAN テーブルからパージできるレコードの数です。

7 発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_DELIVERY_PLAN

エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)

このパージは、システムからエクスポート・テーブルのデータを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、パージ対象として YFS_EXPORT テーブルから選択されます。

- YFS_EXPORT レコードに、処理済み (ステータス = 10) のマークが付けられている。
- 最後に変更された時刻が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このパージは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

アプリケーション・コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 184. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 185. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 185. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_EXPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 186. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の統計

統計の名前	説明
ページされたエクスポート数 (NumExportsPurged)	ページされたエクスポートの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Export テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_EXPORT

インポート・テーブル・ページ

このページは、インポート・テーブル・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS_IMPORT テーブルがページ対象としてピックアップされます。

- YFS_IMPORT レコードが「処理済み」としてマークされている (Status = "10")。
- 「最終変更時刻」がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
このページは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 187. 「インポート・テーブル・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	IMPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 188. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。
パージ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 188. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID	YFS_IMPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 189. 「インポート・テーブル・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたインポート数 (NumImportsPurged)	パージされたインポート・テーブルの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Import テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_IMPORT

在庫監査パージ

このパージは、在庫監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

現在日付からパージ条件の保持日数を引いた日付より前の変更時のタイム・スタンプを持つ、指定された組織のすべての在庫監査を、「在庫監査パージ」でピックアップされるように構成できます。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、在庫監査レコードはパージ対象としてピックアップされます。

- 在庫監査レコードの最終変更日時が、現在のタイム・スタンプから保持日数を引いた日時よりも前である。

このパージのエージェント条件の詳細のスレッド数が 1 に設定されている必要があります。エージェント条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

「在庫監査パージ」は、そうするように構成されていた場合でも、過去 60 日以内のレコードはパージしません。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 190. 「在庫監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYAUDITPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 191. 「在庫監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫監査ページ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 192. 「在庫監査」の統計

統計の名前	説明
ページされた在庫監査数 (NumInventoryAuditsPurged)	ページされた在庫監査の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Inventory_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_INVENTORY_AUDIT

在庫ページ

このページは、在庫データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このページは、ページの際に保持日数を考慮しません。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

YFS_INVENTORY_SUPPLY では、以下の条件を満たす場合、在庫供給はページ対象としてピックアップされます。

- 供給レコードとノードの在庫状況タイプが同じである。例えば、「追跡」または「無限」である。
- 供給レコードの量が 0 である。
- 供給レコードに、「情報」の供給タイプが含まれていない。

YFS_INVENTORY_DEMAND では、以下の条件を満たす場合、在庫需要はページ対象としてピックアップされます。

- 需要レコードの量が 0 以下である。
- YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内に需要の詳細および一致する需要レコードがない。

YFS_INVENTORY_TAG の場合、INVENTORY_TAG_KEY を使用する既存の供給および需要がない場合に、ページされます。

YFS_INVENTORY_RESERVATION では、以下の条件を満たす場合、在庫予約はページ対象としてピックアップされます。

- 在庫予約レコードの量が 0、または出荷日が、システム日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前である。

YFS_INVENTORY_NODE_CONTROL では、INV_PIC_INCORRECT_TILL_DATE が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

YFS_IBA_TRIGGER では、IBA_REQUIRED = 'N'、IBA_RUN_REQUIRED = 'N'、および LAST_IBA_PROCESSED_TS が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 193. 「在庫パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 194. 「在庫パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「在庫パージ」を実行する対象の在庫組織。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 194. 「在庫パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 195. 「在庫パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫需要数 (NumInventoryDemandsPurged)	パージされた在庫需要の数。
パージされた在庫ノード管理数 (NumInventoryNodeControlsPurged)	パージされた在庫ノード管理の数。
パージされた在庫予約数 (NumInventoryReservationsPurged)	パージされた在庫予約の数。
パージされた在庫タグ数 (NumInventoryTagsPurged)	パージされた在庫タグの数。
パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガー数 (NumItemBasedAllocationTriggersPurged)	パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Inventory_Supply、YFS_Inventory_Demand、YFS_Inventory_Tag、YFS_Inventory_Reservation、YFS_IBA_Trigger、および YFS_Inventory_Node_Control テーブルからパージできるレコードの総数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_IBA_TRIGGER

YFS_INVENTORY_DEMAND

YFS_INVENTORY_TAG

YFS_INVENTORY_RESERVATION

YFS_INVENTORY_SUPPLY

YFS_INVENTORY_NODE_CONTROL

在庫供給一時パージ

「在庫供給一時パージ」エージェントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫ピクチャーとノード上の実際の在庫ピクチャーの同期プロセスによって生成された、一時在庫テーブルのコンテンツをクリーンアップします。

ノード在庫ピクチャーは、ロードのプロセス時に、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルに保管されます。同期フェーズが完了し、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブルの更新が終了したら、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルをパージする必要があるため、このエージェントがそのパージを実行します。

ノード在庫との同期の構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

「在庫供給一時パージ」エージェントを使用して、YantraMessageGroupID のグループについて、現在日時からパージ条件の保持日数を引いた日時より前の変更時のタイム・スタンプを持つ YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP 内のすべてのレコードがパージされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 196. 「在庫供給一時パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SUPPLYTEMPPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 197. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 197. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫供給一時パージ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 198. 「在庫供給一時パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫一時供給数 (NumInventorySupplyTempsPurged)	パージされた YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブル内のエントリーの数。

保留中のジョブの数

最大の変更時のタイム・スタンプが現在のタイム・スタンプからパージ条件のリード日数を引いた日時より前である、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルの固有の YantraMessageGroupID の数。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP

アイテム監査パージ

このパージは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このパージ

は、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをパージします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS_AUDIT レコード、および「YFS_ITEM」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS_ITEM テーブル内のレコードを変更したときに、YFS_ITEM が監査され、監査レコードが YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このパージ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションを適宜スケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 199. 「アイテム監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ITEM_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 200. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。

表 200. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 201. 「アイテム監査パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたアイテム監査レコード数 (NumItemAuditRecords Purged)	パージされたアイテム監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_AUDIT、YFS_AUDIT_HEADER

集合・混載履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、集合・混載データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。集合・混載に行われた最終変更が、リード・タイム (日単位) が満たされるより前の場合、パージ対象として集合・混載がピックアップされます。

このトランザクションを実行する前に、必ず集合・混載をパージして、履歴テーブルに移動してください。集合・混載のパージに関する詳細は、257 ページの『集合・混載パージ』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 202. 「集合・混載履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADHISTPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 203. 「集合・混載履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 204. 「集合・混載履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載履歴数 (NumLoadHistoriesPurged)	パージされた集合・混載履歴の数。
パージされた集合・混載の出荷履歴数 (NumLoadShipmentHistoriesPurged)	パージされた集合・混載の出荷履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Load_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_LOAD_H

YFS_LOAD_STOP_H

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGE_H

YFS_LOAD_STATUS_AUDIT_H

YFS_SHIPMENT_CONTAINER_H

YFS_CONTAINER_ACTIVITY_H

YFS_LOADED_CONTAINER_H

YFS_LOAD_SHIPMENT_H

YFS_ADDITIONAL_DATE_H

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_H

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_LOG_H

集合・混載パージ

このパージは、集合・混載データをシステムから削除します。「クローズ」としてマークされているすべての集合・混載をピックアップしてパージします。空の集合・混載 (出荷のない集合・混載など) は、パージ対象と見なされません。このパージの一部として、関連した子テーブルもパージされます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、集合・混載はページ対象としてピックアップされます。

- 集合・混載の最終変更が、リード・タイム設定 (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 205. 「集合・混載ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 206. 「集合・混載ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 206. 「集合・混載パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 207. 「集合・混載パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載の出荷数 (NumLoadShipmentsPurged)	パージされた集合・混載の出荷の数。
パージされた集合・混載数 (NumLoadsPurged)	パージされた集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Load テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_DATE

YFS_LOAD

YFS_LOAD_HOLD_TYPE

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_LOG

YFS_LOAD_STOP

YFS_LOAD_SHIPMENT

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGES (この集合・混載に関する料金)

YFS_LOAD_STATUS_AUDIT

YFS_LOADED_CONTAINER

YFS_SHIPMENT_CONTAINER

交渉履歴ページ

このページは、交渉履歴データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これによって、オーダー交渉履歴テーブルからデータがページされます。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉は履歴ページ対象としてピックアップされます。

- 交渉の最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 208. 「交渉履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	NEGOTIATIONHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 209. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 209. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 210. 「交渉履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた交渉履歴数 (NumNegotiationHistoriesPurged)	ページされた交渉履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Negotiation_Hdr_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_NEGOTIATION_HDR_H

YFS_NEGOTIATION_LINE_H

YFS_RESPONSE_H

YFS_RESPONSE_HDR_H

YFS_RESPONSE_LINE_H

YFS_RESPONSE_LINE_DTL_H

交渉ページ

このページは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キュー (YFS_TASK_Q) テーブルから動作します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉はページ対象としてピックアップされます。

- 交渉に対して行われた最終変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- 交渉がピックアップ可能なステータスにある。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 211. 「交渉ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 212. 「交渉ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 212. 「交渉ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 213. 「交渉ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたオーダー交渉数 (NumOrderNegotiationsPurged)	ページされたオーダー交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_NEGOTIATION_HDR

YFS_NEGOTIATION_LINE

YFS_RESPONSE

YFS_RESPONSE_HDR

YFS_RESPONSE_LINE

案件履歴パージ

このトランザクションは、案件パージによって前にアーカイブされたタスクを削除します。265 ページの『案件パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件パージ・エージェントによって前にパージされた案件が、履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 見積履歴がパージされている。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 214. 「案件履歴パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYHISTPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 215. 「案件履歴パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。

表 215. 「案件履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたページ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたページ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 216. 「案件履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた案件履歴数 (NumOpportunityHistoryPurged)	ページされた案件履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_OPPORTUNITY_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_OPPORTUNITY_H

案件ページ

この時間トリガー・トランザクションは、「案件ページ」条件で指定された保持日数より長い期間のすべての案件、および「キャンセル済み」または「完了済み」のいずれかのステータスにあるすべての案件をページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件はページ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 案件に関連付けられた見積がページされている。
- 案件が、ページ・トランザクションによってピックアップ可能なステータスにある。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 217. 「案件ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 218. 「案件ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 218. 「案件パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 219. 「案件パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた案件数 (NumOpportunityPurged)	パージされた案件の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_OPPORTUNITY テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_OPPORTUNITY

オーダー履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

このトランザクションを実行するには、オーダーがパージされ、履歴テーブルに移動されている必要があります。これについて詳しくは、271 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーは履歴パージ対象としてピックアップされます。

- オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 220. 「オーダー履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDERHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 221. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 221. 「オーダー履歴パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 222. 「オーダー履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたオーダー履歴数 (NumOrderHistoriesPurged)	パージされたオーダー履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Order_HEADER_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ANSWER_SET_TRAN_H

YFS_ANSWER_TRAN_H

YFS_CHARGE_TRAN_DIST_H

YFS_CHARGE_TRAN_REQUEST_H

YFS_CHARGE_TRAN_RQ_MAP_H

YFS_CHARGE_TRANSACTION_H

YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION_H

YFS_ENTITY_ADDRESS_H

YFS_HEADER_CHARGES_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_INVOICE_COLLECTION_H

YFS_LINE_CHARGES_H

YFS_NOTES_H

YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL_H

YFS_ORDER_AUDIT_H
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL_H
YFS_ORDER_DATE_H
YFS_ORDER_HEADER_H
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_H
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL_H
YFS_ORDER_INVOICE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_LINE_H
YFS_ORDER_LINE_OPTION_H
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG_H
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC_H
YFS_ORDER_RELEASE_H
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS_H
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM_H
YFS_PAYMENT_H
YFS_PROMOTION_AWARD_H
YFS_PROMOTION_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_H
YFS_REFERENCE_TABLE_H
YFS_TAX_BREAKUP_H
YIC_BOM_HEADER_H
YIC_BOM_LINE_H
YIC_BOM_MESSAGE_H

オーダー・パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。オーダーを履歴テーブルからパージするには、267ページの『オーダー履歴パージ』を参照してください。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キューで動作します。トランザクション PURGE で使用可能なオーダーを、YFS_TASK_Q テーブルからピックアップします。

パージ条件が一致しない場合、AVAILABLE_DATE が YFS_ORDER_HEADER テーブルおよび YFS_TASK_Q テーブル内のオーダーの変更タイム・スタンプで、どちらか最大の方に基づいて計算されます。この値については、保持日数が新規の AVAILABLE_DATE に追加されます。

このトランザクションは、「パージ」トランザクションによってピック可能なステータスにあるオーダーの、すべての明細に依存します。

以下のステータスが、オーダー・パージでピックアップされる構成で使用可能です。

- 「ドラフト作成済み (1000)」、およびすべての拡張された「ドラフト作成済み」ステータス。
- 「作成済み (1100)」およびすべての拡張された「作成済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「販売オーダー」、「購入オーダー」および「転送オーダー」のみです。
- 「リリース済み (3200)」およびすべての拡張された「リリース済み」ステータス。
- 「出荷済み (3700)」およびすべての拡張された「出荷済み」ステータス。
- 「完了済み (3700)」およびすべての拡張された「完了済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「マスター・オーダー」のみです。
- 「受入済み (3900)」およびすべての拡張された「受入済み」ステータス。
- 「キャンセル (9000)」およびすべての拡張された「キャンセル」ステータス。
- 「不足 (9020)」およびすべての拡張された「不足」ステータス。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーはパージ対象としてピックアップされます。

- オーダーのすべてのオープンな子オーダー (派生、チェーン、返品、交換、調達または返金のフルフィルメント) がパージ済み。
- 転入を超える他のオーダーへの保留中の転出料金が無い。
- 保留中の調整インボイスが無い。

前述の 3 つの条件に一致した場合、オーダーは即時にパージされ、支払集金が完了すると完全にキャンセルされます。

パージ・エージェントがキャンセルされたオーダーをピックアップするには、オーダーの支払ステータスが以下のいずれかでなければなりません。

- 支払済み

- 該当せず

オーダーが前述の条件のいずれにも一致しない場合、以下に示す条件についてチェックが続行されます。

- 保持日数に一致しないオーダー・リリース・ステータス・レコードがないこと。
- パージ対象となる正しいステータスにある。例:
 - オーダーのすべてのサービス要請のステータスが「出荷済み」または拡張された「出荷済み」である。
 - オーダーの支払ステータスが「支払済み」または「該当せず」である。
 - パージ未済の交渉がない。
- サービス要請の明細以外のすべてのオーダー明細について、以下が該当する。
 - セラー在庫更新が必要な場合、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンになっており、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。（「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが有効になっているカスタム・セラー供給タイプでも構いません。）
 - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
 - バイヤー在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。
- オーダーの最終変更は、リード・タイム設定（日単位）より前でなければなりません。
- コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。
- オーダーは、配達未済のサービス明細を保有してはいけません。
- 返品オーダー処理のための交換オーダーの場合、返品オーダーをパージするには、その前に交換オーダーを履歴からパージする必要があります。

ステータス在庫のタイプに変更がない場合、バイヤーが渡されないと、「出荷済み (3700)」ステータスまたはその拡張ステータスにあるオーダーがパージされます。

デフォルト・パイプラインで「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスにあるオーダーは、渡されたバイヤーが在庫を追跡している場合、パージされません。これによって、在庫を追跡しているバイヤーの保留中の供給に関連したオーダーがパージされることを防ぎます。

そのようなオーダーをパージするには、「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスのステータス在庫のタイプを構成して、「バイヤー供給タイプ」がステータス在庫タイプで ONHAND になるようにします。

パージ・エージェントが実行されている場合、明細のないドラフト・オーダーが、オーダー履歴テーブルにパージされます。パージ履歴エージェントが実行されると、明細のないドラフト・オーダーは永久に削除されるようになります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 223. 「オーダー・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 224. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 224. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	<p>必須。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。このパラメーターを、以下の値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DRAFTORDERHISTPRG。ドラフト・オーダー情報をオーダー履歴テーブルからパージします。 • DRAFTORDERNOLINEHISTPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをオーダー履歴テーブルからパージします。 • DRAFTORDERNOLINEPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをパージします。 • DRAFTORDERPRG。ドラフト・オーダー情報をパージし、オーダー履歴テーブルにアーカイブします。 <p>「パージ・コード」の値は ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定できません。</p>
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	<p>オプション。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。</p> <p>詳しくは、276 ページの『オーダー・リリース・ステータスのパージ』を参照してください。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 225. 「オーダー・パージ」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
パージされたオーダー数 (NumOrdersPurged)	パージされたオーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ACTIVITY_DEMAND
YFS_ANSWER_SET_TRAN
YFS_ANSWER_TRAN
YFS_CHARGE_TRANSACTION
YFS_CHARGE_TRAN_DIST
YFS_CHARGE_TRAN_REQUEST
YFS_CHARGE_TRAN_RQ_MAP
YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION
YFS_ENTITY_ADDRESS
YFS_HEADER_CHARGES
YFS_INSTRUCTION_DETAIL
YFS_INVOICE_COLLECTION
YFS_LINE_CHARGES
YFS_MONITOR_ALERT
YFS_NOTES
YFS_ORDER_AUDIT
YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL
YFS_ORDER_HEADER
YFS_ORDER_HOLD_TYPE
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG
YFS_ORDER_INVOICE
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL
YFS_ORDER_KIT_LINE
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE
YFS_ORDER_LINE_OPTION

YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG
YFS_ORDER_LINE_RESERVATION
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE_SRC_CNTRL
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC
YFS_ORDER_RELEASE
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM
YFS_ORDER_DATE
YFS_PAYMENT
YFS_PMNT_TRANS_ERROR
YFS_PROMOTION
YFS_PROMOTION_AWARD
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL
YFS_REFERENCE_TABLE
YFS_TAX_BREAKUP
YIC_BOM_HEADER
YIC_BOM_LINE
YIC_BOM_MESSAGE
YIC_BOM_PROP

オーダー・リリース・ステータスのパージ

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントは、「オーダー・パージ」エージェントがデータを履歴テーブルに完全にパージする前に、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージすることによって、「オーダー・パージ」エージェントの機能を拡張します。

オーダーがパージ対象の条件を満たした場合、数量 0 のオーダー・リリース・ステータス・レコードは YFS_ORDER_RELEASE_STATUS テーブルから削除され、履歴テーブルに入れられません。

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントが完了すると、タスク・キューの AVAILABLE_DATE は、「オーダー・パージ」のパージ条件で指定

された日付にリセットされます。これによって、「オーダー・パージ」エージェントは、必要に応じてオーダーをピックアップし、処理することができます。「オーダー・パージ」は、通常どおりオーダー・リリース・ステータス・レコードのページを続行します。

以下の条件を満たす場合、「オーダー・パージ」エージェントは、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージします。

- 「オーダー・パージ」のすべての条件が一致。「オーダー・パージ」の条件については、271 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。
- オーダー・リリース・レコードの数量が 0 である。
- 「オーダー・パージ」条件の「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」が ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定されている。
- 「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」の「オーダー・パージ」リード日数内にオーダーが変更されている。

条件パラメーター

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 226. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。「オーダー・パージ」エージェントを拡張して、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、ORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。また、「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」も設定する必要があります。

表 226. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	必須。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) の「オーダー・パージ」によって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ORDER_RELEASE_STATUS

オーダー・ステータス監査パージ

このパージは、オーダー・ステータス監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダー・ステータス監査は履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 227. 「オーダー・ステータス監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	STATUSAUDITPRG
基本伝票種別	オーダー

表 227. 「オーダー・ステータス監査ページ」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 228. 「オーダー・ステータス監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・ステータス監査ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_STATUS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 229. 「オーダー・ステータス監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたステータス監査数 (NumStatusAuditsPurged)	ページされたステータス監査の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Status_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_STATUS_AUDIT

組織監査ページ

このページは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS_AUDIT レコード、および「YFS_ORGANIZATION」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS_ORGANIZATION テーブル内のレコードを変更したときに、YFS_ORGANIZATION が監査され、監査レコードが YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 230. 「組織監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ORGANIZATION_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 231. 「組織監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。• N - テスト・モード。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 232. 「組織監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた組織監査レコード数 (NumOrganizationAudit RecordsPurged)	ページされた組織監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_AUDIT_HEADER

個人情報のページ

このページは、個人情報レコード・カウントを持つ日付のリストを取得し、日付の昇順にソートします。次に、バッファーに入れる指定済みのレコード数および変更タイム・スタンプに基づいて、該当するレコードをページし、YFS_PERSON_INFO_H テーブルに配置します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 233. 「個人情報ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 234. 「個人情報ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 234. 「個人情報ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

空欄のままにするか、10000 よりも小さい数字が指定された場合、デフォルトの 10000 に設定されます。しかし、10000 より大きい数字が指定された場合、その値が使用されます。

表 235. 「個人情報ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた個人情報数 (NumPersonInfoPurged)	ページされた個人情報レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PERSON_INFO テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_PERSON_INFO

個人情報履歴のページ

これは、ページ基準に基づいて、YFS_PERSON_INFO_H テーブルからレコードを削除します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 236. 「個人情報履歴のページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOHISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 237. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。

表 237. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	<p>オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	<p>必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。</p>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	<p>このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。</p>
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	<p>オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。</p>
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_PERSON_INFO_H テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 238. 「個人情報履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた個人情報履歴レコード数 (NumPersonInfoHlstoryRecords Purged)	パージされた個人情報履歴レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PERSON_INFO_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_PERSON_INFO_H

ピック・リスト・パージ

このパージは、条件パラメーターで指定された保持日数より長い期間存在し、出荷を保有していない、すべてのピック・リストをピックアップします。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、ピック・リストはパージ対象としてピックアップされます。

- ピック・リストが指定された保持日数よりも長い期間存在する。
- ピック・リストが出荷に関連付けられていない。

ピック・リストに関連付けられたすべての出荷は、このパージ・エージェントを実行する前に、パージ済みでなければなりません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 239. 「ピック・リスト・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PICKLISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 239. 「ピック・リスト・パージ」属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 240. 「ピック・リスト・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PICK_LIST テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 241. 「ピック・リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたピック・リスト数 (NumPickListsPurged)	パージされたピック・リストの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PICK_LIST テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_PICK_LIST

価格リスト・ページ

このページは、価格リスト・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、価格リストはページ対象としてピックアップされます。

- 価格リストが、現在日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前の有効な日付である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 242. 「価格リスト・ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRICELISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 243. 「価格リスト・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 243. 「価格リスト・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 244. 「価格リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた価格セット数 (NumPriceSetsPurged)	パージされた価格セットの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Price_Set テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

現在日付からリード日数を引いた日付以前の VALID_TILL_DATE を持つ YFS_PRICE_SET テーブル

YFS_PRICE_PROGRAM_DEFN

YFS_ITEM_PRICE_SET

YFS_ITEM_PRICE_SET_DTL

カタログ一括監査のパージ

このパージでは、YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルから古い監査レコードを削除します。このテーブルには、属性および属性値をカテゴリーおよびアイテムに対して割り当てたことに起因する、カタログに対する変更についてのデータが含ま

れています。また、継承される属性および属性値に関する情報が含まれます。ページ・トランザクションは、指定された日数の間に変更されなかった一括監査レコードを検出し、このレコードをデータベースから削除します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 245. カタログ一括監査のページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CATALOG_MASS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 246. カタログ一括監査のページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 247. カタログ一括監査のページの統計

統計の名前	説明
ページされる一括監査レコード数 (NumCatalogMassAuditsPurged)	ページされる一括監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、
YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルからページできるレコードの合計数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルは、MODIFYTS < (CurrentDate - LeadDays) の条件を満たす場合にページされます。

受入履歴ページ

このトランザクションは、以前、受入ページでアーカイブされた受入を削除します。293 ページの『受入ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、受入ページ・エージェントで以前にページされた受入は、履歴をページするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷が履歴テーブルからページされること。

受入履歴をページするには、受入を閉じて、出荷をページするようにします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 248. 受入履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし

表 248. 受入履歴ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 249. 受入履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入履歴ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 250. 受入履歴ページの統計

統計の名前	説明
ページされた受入明細履歴数 (NumReceiptLineHistoriesPurged)	ページされた受入明細履歴の数。
ページされた受入履歴数 (NumReceiptHistoriesPurged)	ページされた受入履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Receipt_Header_H テーブルからバージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

バージされるテーブル

YFS_RECEIPT_HEADER_H

YFS_RECEIPT_LINE_H

YFS_RECEIPT_STATUS_AUDIT_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

受入バージ

このバージは、受入データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、開かれておらず検査が保留されていない受入をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。291 ページの『受入履歴バージ』を参照してください。また、受入の子テーブルのアーカイブおよびバージを行います。

これはパイプライン・トランザクションで、タスク・キューから動作します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、バージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

バージは、バージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、受入はバージするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷がバージされること。
- 受入がバージ・トランザクションに対してピックアップ可能ステータスであること。
- OpenReceiptFlag フィールドの値に「N」が設定されていること。
- 受入に保留中の検査がないこと。
- 受入のウェアハウスに在庫がないこと。

受入をバージするには、受入を閉じて、出荷をバージするようにします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 251. 受入ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 252. 受入ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 253. 受入パージの統計

統計の名前	説明
パージされた受入明細数 (NumReceiptLinesPurged)	パージされた受入明細の数。
パージされた受入数 (NumReceiptsPurged)	パージされた受入の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_RECEIPT_HEADER

YFS_RECEIPT_LINE

YFS_RECEIPT_STATUS_AUDIT

YFS_INSTRUCTION_DETAIL

再処理エラー・パージ

このパージは、再処理エラーをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルはパージするためにピックアップされます。

- 状態 (State) = 固定 (Fixed) または状態 (State) = 無視 (Ignored) の YFS_REPROCESS_ERROR レコードが処理されること。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。

ConsoleConsole を使用するあらゆるエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールに入れる必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 254. Reprocess Error Purge Attributes

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REPROCESSPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 255. 再処理エラー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_REPROCESS_ERROR テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 256. 再処理エラー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた再処理エラー数 (NumReprocessErrorsPurged)	ページされた再処理エラーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_REPROCESS_ERROR

予約ページ

このページは、有効期限が切れた在庫予約をシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減するとともに、有効期限切れの予約で使用される需要を解放します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブル内のすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- EXPIRATION_DATE が現在日付よりも早いか、数量が 0 以下である

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 257. 予約ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RESERVATIONPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 257. 予約ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 258. 予約ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 259. Reservation Purge Statistics

統計の名前	説明
NumReservationsPurged	ページされた予約の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_INVENTORY_RESERVATION

出荷履歴ページ

このトランザクションは、以前、出荷ページでアーカイブされた出荷を削除します。301 ページの『出荷ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴テーブルにアーカイブされたすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。167 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 260. 出荷履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 261. 出荷履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 261. 出荷履歴パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷履歴パージの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 262. 出荷履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた出荷履歴数 (NumShipmentHistoriesPurged)	パージされた出荷履歴の数。
パージされた出荷明細履歴数 (NumShipmentLineHistoriesPurged)	パージされた出荷明細履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Shipment_H テーブルからパージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_ATTRIBUTE_H

YFS_ADDITIONAL_DATE_H

YFS_AUDIT

YFS_CONTAINER_DETA ILS_H

YFS_CONTAINER_STS_AUDIT_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_SHIPMENT_CONTAINER_H

YFS_SHIPMENT_H

YFS_SHIPMENT_LINE_H

YFS_SHIPMENT_LINE_REQ_TAG_H

YFS_SHIPMENT_STATUS_AUDIT_H

YFS_SHIPMENT_TAG_SERIAL_H

YFS_CONTAINER_ACTIVITY_H

出荷ページ

このページは、出荷データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、「クローズ」とマークが付いた出荷をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。299 ページの『出荷履歴ページ』を参照してください。また、出荷の子テーブルのアーカイブおよびページを行います。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。詳しくは、167 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、出荷はページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- ShipmentClosedFlag フィールドの値に「Y」が設定されていること。
- オーダー・レコードがすべての出荷明細に関して既にページ済みであること。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 263. 出荷ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTPRG
基本伝票種別	オーダー

表 263. 出荷バージの属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 264. 出荷バージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
実行する日数	オプション。バージする出荷レコードをエージェントが探すリード日数より前の最大日数。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷バージの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 265. 出荷バージの統計

統計の名前	説明
NumShipmentsPurged	バージされる出荷の数。
NumShipmentLinesPurged	バージされる出荷明細の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Shipment テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_ATTRIBUTES

YFS_ADDITIONAL_DATE

YFS_AUDIT

YFS_CONTAINER_DETAILS

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGE

YFS_MONITOR_ALERT

YFS_SHIPMENT_CONTAINER

YFS_SHIPMENT_STATUS_AUDIT

YFS_SHIPMENT

YFS_INSTRUCTION_DETAIL

YFS_SHIPMENT_MONITOR_ALERT

YFS_HEADER_CHARGES

YFS_LINE_CHARGES

YFS_TAX_BREAKUP

YFS_SHIPMENT_HOLD_TYPE

YFS_SHIPMENT_HOLD_TYPE_LOG

YFS_SHIPMENT_TAG_SERIALS

YFS_SHIPMENT_LINE

YFS_SHIPMENT_LINE_REQ_TAG

YFS_ACTIVITY_DEMAND

YFS_CONTAINER_STS_AUDIT

YFS_CONTAINER_ACTIVITY

出荷統計ページ

このトランザクションは、指定される保持日数を経過したテーブルから出荷統計を削除します。

このエージェントは、出荷統計レコードの削除が必要な場合 (アプリケーション・サーバーの再始動後など) は常に使用する必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、出荷統計はページするためにピックアップされます。

- 出荷統計で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 266. 出荷統計ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRG_SHIP_STATS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 267. 出荷統計ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷統計ページの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 267. 出荷統計パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

統計パラメーター

このトランザクションの統計パラメーターは、以下のとおりです。

表 268. 出荷統計パージの統計

パラメーター	説明
パージされた出荷統計数 (NumShipmentStatisticsPurged)	パージされた出荷統計の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルからパージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_SHIPMENT_STATISTICS

ユーザー・アクティビティー・パージ

このパージは、ユーザー・アクティビティー・データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコード、およびログアウトのステータスにあるレコードをパージします。このパージは、バッチ削除モード (BatchDelete)=Y で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをパージする際は、以下の制限が想定されます。

このパージは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもパージしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最

後のアクティビティー時刻またはログアウト時刻には値が入りません。ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、これらのレコードを手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 269. ユーザー・アクティビティー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTIVITYPRG
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 270. ユーザー・アクティビティー・ページのパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。

表 270. ユーザー・アクティビティ・ページのパラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッチ削除 (BatchDelete)	<p>必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_USER_ACTIVITY テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 271. 統計ページの統計

統計の名前	説明
ページされた統計数 (NumStatisticsPurged)	ページされた統計の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_USER_ACTIVITY

ユーザー・アクティビティ・監査ページ

このページは、ユーザー・アクティビティ・監査データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコードをページします。ページするのは、ログアウトのステータス (ログイン・タイプが「T」または「N」のレコード) にあるレコードのみです。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをページする際は、以下の制限が想定されます。

- このページは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもページしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最後のアクティビティ時刻またはログアウト時刻には値が入らず、ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、このレコードは手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 272. ユーザー・アクティビティ監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTAUDPURGE
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 273. ユーザー・アクティビティ監査ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_USER_ACT_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 274. 統計パージの統計

統計の名前	説明
パージされた統計数 (NumStatisticsPurged)	パージされた統計の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_USR_ACT_AUDIT

作業オーダー履歴パージ

このトランザクションは、以前、作業オーダー・パージでアーカイブされたタスクを削除します。311 ページの『作業オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている場合、作業オーダー・パージ・エージェントで以前にパージされた作業オーダーは、履歴をパージするためにピックアップされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 275. 作業オーダー履歴パージの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_HISTORY_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 276. 作業オーダー履歴パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー履歴パージの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 277. 作業オーダー履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた作業オーダー履歴数 (NumWorkOrderHistoriesPurged)	パージされた作業オーダー履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_WORK_ORDER_H テーブルからパージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_WO_APPT_USER_H

YFS_WORK_ORDER_H

YFS_WORK_ORDER_APPT_H

YFS_WORK_ORDER_ACTIVITY_H

YFS_WORK_ORDER_ACTY_DTL_H

YFS_WORK_ORDER_AUDT_DTL_H

YFS_WORK_ORDER_COMPONENT_H

YFS_WORK_ORDER_COMP_TAG_H

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_H

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H

YFS_WORK_ORDER_PROD_DEL_H

YFS_WORK_ORDER_SERVICE_LINE_H

YFS_WORK_ORDER_STS_AUDIT_H

YFS_WORK_ORDER_TAG_H

作業オーダー・ページ

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダー・ページ条件に指定される保持日数を超えている作業オーダー、および「キャンセル」ステータスまたは「完了」ステータスの作業オーダーをすべてページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、作業オーダーはページするためにピックアップされます。

- 作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 作業オーダーに関連付けられるオーダーがページされること。
- 作業オーダーがページ・トランザクションによりピックアップ可能なステータスであること。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 278. 作業オーダー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 279. 作業オーダー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー・ページの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。

表 279. 作業オーダー・ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 280. 作業オーダー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた作業オーダー数 (NumWorkOrdersPurged)	ページされた作業オーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_WORK_ORDER テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_WO_APPT_USER

YFS_WORK_ORDER

YFS_WORK_ORDER_ACTIVITY

YFS_WORK_ORDER_ACTY_DTL

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_LOG

YFS_WORK_ORDER_APPT

YFS_WORK_ORDER_AUDT_DTL

YFS_WORK_ORDER_COMPONENT

YFS_WORK_ORDER_COMP_TAG

YFS_WORK_ORDER_PROD_DEL

YFS_WORK_ORDER_SERVICE_LINE

YFS_WORK_ORDER_STS_AUDIT

YFS_WORK_ORDER_TAG

YFS 監査ページ

このページは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定される保持日数より大きい modifyts を有し、かつ YFS_AUDIT テーブル内に一致するテーブル名の値を有する YFS_AUDIT レコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

YFS 監査ページの構成方法によっては、構成データ・バージョン管理ツールの機能に何らかの影響を及ぼすおそれがあります。データ・バージョン管理ツールの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成デプロイ・ツール・ガイド*」を参照してください。

エンタープライズがエンティティを拡張し、拡張エンティティ属性 AuditTable="Y" を設定する場合、拡張されたテーブルは監査されて、監査レコードは YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 281. YFS 監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 281. YFS 監査パージの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 282. YFS 監査パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
テーブル名	必須。監査レコードのパージが必要なテーブル名。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。</p> <p>TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。</p> <p>エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対しても実行されます。</p>

表 282. YFS 監査ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 283. YFS 監査ページの統計

統計の名前	説明
ページされる監査レコード数 (NumAuditRecordsPurged)	ページされる監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT、YFS_AUDIT_HEADER

YFSInventoryOwnershipAudit ページ

このトランザクションは、条件パラメーターに指定されるリード日数より前の YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD からすべてのレコードをページします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 284. YFSInventoryOwnership ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE_INV_TRANSFR_RECORD
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 284. YFSInventoryOwnership ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 285. YFSInventoryOwnership ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。YFSInventoryOwnership 監査ページの実行が必要な在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
リード日数	エージェントがレコードをページする、現在日付より前の日数。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

ページされるテーブル

YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD

パスワードのリセット要求ページ

このページは、パスワードのリセット要求データをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 286. 「パスワードのリセット要求ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 287. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 287. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	PLT_PWD_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 288. 「パスワードのリセット要求ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたパスワード要求数 (NumPasswordRequestPurged)	ページされたパスワード要求の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_PWD_REQ テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_PWD_REQ

ユーザー・ログイン失敗ページ

このページは、ユーザーのログイン試行失敗数に関するデータをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 289. ユーザー・ログイン失敗ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

表 289. ユーザー・ログイン失敗ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 290. ユーザー・ログイン失敗ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 291. ユーザー・ログイン失敗ページの統計

統計の名前	説明
ページされたログイン失敗数 (NumUserLoginFailPurged)	ページされたログイン試行失敗の数

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_USER_LOGIN_FAILED

タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション

多くのトランザクションは、タスク・キューをその作業リポジトリとして使用します。パイプラインで構成済みの次の処理ステップを取り扱うために、ワークフロー・マネージャーはトランザクションのタスクを自動的に作成します。

状況によっては、タスク・キュー・リポジトリは期限切れになる場合もあります。例えば、パイプラインがアクティブであるときに処理パイプラインを再構成すると、キューが新規パイプライン構成と同期しなくなることがあります。

ビジネス・ドキュメントのライフサイクル内の一時停止を示す警告は、期限切れのタスク・キュー・リポジトリを示す場合があります。

タスク・キュー同期プログラム・トランザクションは、最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新するように設計されています。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、次のリリースで変更される可能性があります。

集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューを同期化します。

以下の疑似論理を使用して、この時間トリガー・トランザクションを分析できます。以下の条件を満たす場合、その集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューは同期化されます。

- 集合・混載の `LOAD_CLOSED_FLAG` が「Y」でない。
- 集合・混載が、パイプラインのトランザクションでピック可能なステータスにある。
- タスク・キュー・テーブルに集合・混載のタスク・キュー・レコード、トランザクションの組み合わせがない。この場合、システムは、この集合・混載のとトランザクションの組み合わせについて、利用可能日として現在のデータベース時刻を設定したタスク・キュー・レコードを 1 つ挿入します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 292. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_L_D
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 293. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 294. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー配達タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー配達プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 295. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_D
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 296. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 297. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 298. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 299. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 300. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー交渉プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 301. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_N
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 302. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 303. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、見積フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 304. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_Q_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 305. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 305. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 306. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

モニター

モニターとは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すトランザクションのことです。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのモニターは、CollectPendingJobs 条件パラメーターを持ちます。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、そのモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。これは、1 つのモニターがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

在庫状況モニター

この時間トリガー・トランザクションは、在庫状況をモニターします。在庫量が、当日、今後の ATP 時間フレーム内の日数、および今後の ATP 時間フレーム外の日数に対して構成されている数量を下回った場合、在庫状況モニターはグローバル警告を発します。ATP 時間フレーム外の日数に対する数量は、最大モニター日数によ

って決定されます。在庫状況モニターは、スケジュールやリリースのトランザクションとは異なり、無限在庫を想定するのではなく、ATP 水準を上回る実際の在庫量を計算します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 307. 「在庫状況モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 308. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
MonitorOption	オプション。在庫のモニター方法を指定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 - 現在の在庫 • 0 - ATP 時間フレームの範囲内と範囲外の在庫。これはデフォルト値です。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス	モニターしている交渉ステータスです。

表 308. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに対して公開されるデータは、AVAILABILITY_MONITOR_dbd.txt です。

例外モニター

この時間トリガー・トランザクションは、以下に示すようにシステムの例外をモニターします。このトランザクションは、システムのログに記録された例外をモニターし、以下の場合にそれらの例外を上申します。

- 特定の時刻までに例外がユーザーに割り当てられなかった場合。
- 特定の時刻までに例外が解決されなかった場合。
- キューのアクティブ・サイズが、特定の最大サイズを超えた場合。

例外モニターを実行するたびに例外に対して再警告するのを防ぐために、Applications Manager の警告管理を使用して再警告時間間隔を指定します。この属性はキューに関連付けられており、キューごとに構成できます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 309. 「例外モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXCEPTION_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 310. 「例外モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
キュー ID	オプション。このモニターの例外を格納する警告キューを定義します。
組織コード	オプション。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
キュー・グループ	オプション。例外のモニター対象となるキューのセットを定義します。キュー ID とキュー・グループの両方が指定された場合、キュー ID は無視されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 311. 「例外モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された警告数 (NumInboxProcessed)	処理された警告の数。
キュー・サイズ超過警告数 (NumExceededQueueSizeAlerts)	未解決の警告数がキューの最大アクティブ・サイズを超えた場合に発生するアクションの数。
未解決警告数 (NumUnResolvedAlerts)	警告の未解決警告時間がキューの解決時間を超えた場合に発生するアクションの数。
未割り当て警告数 (NumUnAssignedAlerts)	警告の未割り当て警告時間がキューの割り当て時間を超えた場合に発生するアクションの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

在庫モニター

この時間トリガー・トランザクションは、出荷ノードのレベルで在庫状況をモニターします。使用可能な在庫が構成済みの量を超えたとき、または下回ったときに、出荷ノード・レベルで警告を発行します。

このモニターは、OPEN_ORDER 需要タイプを使用して、指定されたノードで使用可能な在庫を計算します。OPEN_ORDER 需要タイプによって考慮される供給タイプに割り当て済みの、すべての供給が考慮されます。在庫供給と需要の考慮の構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 312. 「在庫モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	checkAvailability()

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 313. 「在庫モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 313. 「在庫モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	このパラメーターが「Y」に設定された場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライドの値を、エージェントのトリガー時に以下の形式でコマンド・ラインで指定できます。 <AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue> これらの属性を渡す場合の詳細については、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> インストール・ガイド」を参照してください。
出荷ノード	オプション。この実行で処理する必要のある有効な出荷ノードのコンマ区切りリスト。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに公開されるデータは、<INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/dbd/INVENTORY_MONITOR_dbd.txt です。

交渉モニター

この時間トリガー・トランザクションは、交渉が一定時間特定のステータスのままの場合に、エンタープライズに警告します。また、交渉の有効期限をモニターします。この時間トリガー・トランザクションは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。交渉の有効期限をモニターするには、ステータス「期限切れ (2000)」を構成します。

オーダーまたはオーダー・リリースに交渉フェーズが必要な環境で、その交渉をモニターしたい場合に、このモニターを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 314. 「交渉モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 315. 「交渉モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉モニター」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス	モニターしている交渉ステータスです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 316. 「交渉モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。

表 316. 「交渉モニター」の統計 (続き)

統計の名前	説明
警告を要する交渉数 (NumNegotiationsRequiringAlert)	少なくとも 1 つの警告が発行されている交渉の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

これは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開されるデータ - YCP_getNegotiationDetails_output.xml

強化したオーダー・モニター

「強化したオーダー・モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。
- オーダーが y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。
- オーダーが日付タイプ z の前の y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。

オーダー・モニターを構成して、以下のシステム日付タイプと購入オーダー・ドキュメント・タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの ORDER_DATE 列から読み取られます。
- 実際の次の反復日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの NEXT_ITER_DATE 列から読み取られます。
- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_SHIP_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_SHIP_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。

- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化したオーダー・モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについては、164 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 317. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDER_MONITOR_EX
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 318. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 319. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

「強化したオーダー・モニター」トランザクションは、ON_AUTO_CANCEL イベントを生成しますが、オーダーのキャンセルは行いません。オーダーをキャンセルするには、このイベントに対するサービスを構成する必要があります。

表 320. 「強化したオーダー・モニター」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
ON_AUTO_CANCEL	ORDER_MONITOR_dbd.txt	YFS_ORDER_MONITOR_EX.ON_AUTO_CANCEL.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

強化した見積モニター

「強化した見積モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

見積モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際の有効期限 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの EXPIRATION_DATE 列から読み取られます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*』を参照してください。

「強化した見積モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、164 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されま
す。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 321. 「強化した見積モニター」の属性

属性	値
トランザクション ID	ORDER_MONITOR_EX.0015
ドキュメント・タイプ	見積
プロセス・タイプ	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 322. 「強化した見積モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「見積モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 323. 「強化した見積モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理された見積の数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、ORDER_MONITOR_EX.0015.xml です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

```
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、  
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの  
MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。
```

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

強化した返品モニター

「強化した返品モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

強化した返品モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの ORDER_DATE 列から読み取られます。

- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_SHIP_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_SHIP_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。
- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化した返品モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、164 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 324. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RETURN_MONITOR_EX

表 324. 「強化したオーダー・モニター」の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	返品オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 325. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行に必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ステータス最小値 (FromStatus)	オプション。渡されたステータス以上のステータスがモニターされます。
ステータス最大値 (ToStatus)	オプション。渡されたステータス以下のステータスがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 326. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、RETURN_MONITOR_EX.xml です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

リアルタイム在庫状況モニター

リアルタイム在庫状況モニターの時間トリガー・トランザクションは、在庫アイテムの在庫状況をモニターします。このトランザクションは、Global Inventory Visibility モジュール内の Applications Manager で定義されるしきい値の間で、特定のアイテムの在庫レベルが変わった場合に REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生するように構成できます。

このトランザクションは、以下の 3 つのモードで実行できます。

- アクティビティー・ベース: アイテムがしきい値のいずれかを上回るか下回るたびにリアルタイムにイベントを発生させます。
- クイック同期: 最も近くに公開された在庫状況情報を再送します。
- 完全同期: アクティビティーにかかわらずすべてのアイテムをモニターし、すべてのアイテムの在庫情報を公開します。

すべての場合、将来の在庫状況のパーセンテージは検索時に在庫状況を検討の際に使用されます。将来の在庫状況について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

在庫状況ピクチャーを把握するには、OPEN_ORDER タイプの要求を使用します。供給が維持されていれば、リアルタイム在庫状況モニターは、ノード全体の総合在庫状況または個々のノードの在庫状況をモニターできます。在庫状況モニター・ルールのない在庫アイテム、または使用できないルールがある在庫アイテムは、この時間トリガー・トランザクションで処理することはできません。

ノード全体の総合在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫組織のデフォルトの分配グループ内のすべてのノードをモニターします。

個別のノードの在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定された分配グループ内のすべてのノードをモニターします。分配グループの構成およびノード・レベルの在庫モニターについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

構成する場合、リアルタイム在庫状況モニターでは、モニターする際の、手持ちおよび将来の在庫状況のセーフティー要因も考慮します。在庫状況のセーフティー要因および `findInventory()` API については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より大きい場合、REALTIME_ONHAND 警告タイプが発生し、警告レベルは手持ち数量がベースになります。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より小さくなった場合、REALTIME_FUTURE_MAX 警告タイプが発生します。その場合、警告レベルのベースになるのは将来の供給合計 (`FutureAvailableQuantity`) で、`FirstFutureAvailableDate` に最も早く供給される日付が設定され、`FutureAvailableDate` に最も遅く供給される日付が設定されます。

リアルタイム在庫状況モニターがアクティビティー・ベース・モードで稼働する場合、在庫アイテムのしきい値のいずれかを変更しても、アクティビティーで変更がない限りエージェントはその在庫アイテムをモニターしません。例えば、在庫数量が 700 のアイテム I が 600 の下限しきい値でモニターされており、下限しきい値が 1000 に変更される場合、I のアクティビティーに変更がない限りイベントは公開されません。このようなシナリオで I がモニター対象外のままにされないようにするには、アイテムのモニター・ルールを変更する場合に `createInventoryActivity` API を呼び出します。

在庫数量の最大出荷日の計算および公開

使用可能な場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫数量の最大出荷日のマトリックスを計算し、公開します。マトリックスには、以下の情報が含まれます。

- 在庫数量 - 最大出荷日に出荷できるアイテムの数を表します。
- 最大出荷日 - 在庫数量が出荷される日時を表します。
- 有効期限日 - オーダーが最大出荷日に出荷される場合に、オーダーを起票できる最後の日時を表します。

マトリックスは、REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントに対して公開され、YFS_INVENTORY_ALERTS 表の AVAILABILITY_INFO フィールドに XML 形式で保管されます。マトリックスの更新には `monitorItemAvailability()` API が使用

できます。monitorItemAvailability() API について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

在庫数量の最大出荷日のマトリックスの計算および公開を行うためのリアルタイム在庫状況モニターの使用について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」の在庫ルールの構成に関する章を参照してください。

最大出荷日の計算

最大出荷日は、考慮対象のノード全体での最大予定出荷日と同じです。予定出荷日の計算について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。さらに、以下のオプションを最大出荷日の一部として構成できます。

- 最大出荷日時
- 最大出荷日時を相殺する日数

最大出荷日時 - 最大出荷日の時刻を指定する場合、リアルタイム在庫状況モニターは、先に説明したように、最大出荷日を計算してから、以下のロジックを適用します。

- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より遅い場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定される時刻で最大出荷日をリセットします。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 21 日の午前 10 時と計算し、最大出荷日時に午前 11 時が設定される場合、最大出荷日は 7 月 21 日の午前 11 時と再計算されます。
- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より早い場合、最大出荷日に 1 日加算されて、指定される時刻でリセットされます。例えば、最大出荷日が 7 月 21 日の午前 11 時と計算され、最大出荷日時に午前 10 時が設定される場合、リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日を 7 月 22 日の午前 10 時と再計算します。

最大出荷日時を相殺する日数 - 最大出荷日を相殺する日数を指定できます。リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日時を含む最大出荷日を計算してから、相殺日数で指定される日数を最大出荷日に加算します。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 19 日の午前 11 時と計算し、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定される場合、最大出荷日は 7 月 20 日の午前 11 時と再計算されます。

有効期限日の計算

リアルタイム在庫状況モニターは、有効期限日を、最大出荷日からノードの最小通知時間を減算することで計算してから、ノードの通知スケジュール上の先行する通知時間に調整します。有効期限日は、供給がノードで提供される間のみ有効です。

例えば、在庫数量の最大出荷日が 7 月 19 日の午後 4 時で、出荷ノードの通知スケジュールが以下のような場合、有効期限日は 7 月 18 日の午後 3 時と計算されます。

- 24 時間の最小通知時間
- 午後 3 時と午後 5 時の通知時刻

この例で有効期限日は、最初に 24 時間の最小通知時間を 7 月 19 日の午後 4 時の最大出荷日から減算し、次に午後 3 時の通知時刻に調整します。オーダーが 7 月 18 日の午後 3 時より前に起票されない場合、7 月 19 日の午後 4 時まででアイテムを出荷する前に少なくとも 24 時間前の通知がノードには必要なため、7 月 19 日の最大出荷日はもはや使用できません。また、該当のオーダーが 7 月 19 日の午後 3 時に起票される前に、別のオーダーによりノードの在庫数量が減少する場合、最大出荷日の条件に合わないため、有効期限日は無効になります。

さらに、有効期限日を計算する場合、調整日数は考慮されません。このため、先の例の最大出荷日が、最大出荷日時を相殺する日数に 1 を指定して 7 月 20 日の午後 4 時に更新される場合、有効期限日は 7 月 19 日の午後 3 時と更新されます。

例 1: 在庫数量の最大出荷日の計算

ノード 1 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 24 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 3 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

ノード 2 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 48 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 2 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

以下の表は、次の条件が真の場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。

- 現在日付は 7 月 19 日
- 到着予定時刻 (ETA) は数量がノードで使用可能になると推定される日時と同一
- 最大出荷日時に午後 4 時を設定
- 最大出荷日時を相殺する日数に 0 を設定

表 327. 例: 在庫数量の最大出荷日の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 20 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 3 時
7/22/2010	10	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 21 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 2 時
7/22/2010	20	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 20 日、午後 2 時

この例で、7 月 19 日は、ノード 1 の 80 アイテムおよびノード 2 の 100 アイテムの数量の ETA です。表で、ノード 1 の使用可能な 80 アイテムの最大出荷日は 7 月 20 日の午後 4 時、ノード 2 の使用可能な 100 アイテムの最大出荷日は 7

月 21 日の午後 4 時と示されます。ノード 1 の場合、最大出荷日は、7 月 19 日午後 3 時の通知時刻に 24 時間の最小通知時間を加算し、さらに午後 4 時の最大出荷日時に調整することで計算します。有効期限日は、24 時間の最小通知時間を最大出荷日から減算してから、午後 3 時の通知時刻に調整することで計算します。ノード 2 の場合、最大出荷日および有効期限日は、ノード 2 の最小通知時間が 48 時間で通知時刻が午後 2 時であることを除いて同様に計算されます。

さらに、例では、ノード 1 の 10 アイテムおよびノード 2 の 20 アイテムの数量の ETA として 7 月 22 日を表示しています。ノード 1 の 10 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時、ノード 2 の 20 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時です。現在日付と ETA の間の差が、ノードの最小通知時間よりも大きい場合、ETA 日付は最大出荷日に使用されます。この例で、現在日付 (7 月 19 日) および ETA 日付 (7 月 22 日) の間の差は、両方のノードで最小通知時間よりも大きくなっています。したがって、最大出荷日には、ETA 日付の最大出荷日時 (ノード 1 およびノード 2 とともに 7 月 22 日の午後 4 時) が設定されます。

例 2: 作業日でないノードでの最大出荷日の計算

以下の表は、例 1 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、7 月 19 日および 7 月 20 日は作業日ではありません。

表 328. 例: 作業日ではないノードの在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 には 7 月 19 日時点で 80 の在庫数量があり、最小通知時間は 24 時間です。7 月 19 日および 20 日はノード 1 の作業日ではないため、80 アイテムは 7 月 21 日までは使用可能と見なされません。この場合、最大出荷日は 24 時間の最小通知時間を 7 月 21 日に加算し、午後 4 時の最大出荷日時に調整します。ノード 2 の場合、最大出荷日は、最小通知時間が 48 時間であることを除いて同様に計算されます。

例 3: 最大出荷日の相殺

以下の表は、例 2 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されます。

表 329. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 3 時

表 329. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス (続き)

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 24 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 およびノード 2 の最大出荷日は、例 2 と同様に計算されます。ただし、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されるため、最大出荷日に 1 加算されます。この例で、ノード 1 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 3 時が設定され、ノード 2 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 2 時が設定されます。相殺日数は有効期限日を計算する際に考慮されないためです。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 330. リアルタイム在庫状況モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REALTIME_ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	FindInventory

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 331. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	MonitorOption に 3 が渡される場合に使用される在庫組織コード。在庫組織はエンタープライズであることが必要です。 このコードが渡されない場合、モニターはすべての在庫組織に対して実行されます。

表 331. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
MonitorOption	<p>1 - アクティビティー・ベース (YFS_INVENTORY_ACTIVITY テーブルの別個の在庫アイテムをベースにモニター)。</p> <p>2 - クイック同期 (YFS_INVENTORY_ALERTS テーブルから情報を公開するためにイベントを再発生)。</p> <p>3 - 完全同期 (指定された在庫組織で管理される全在庫をベースにモニター。在庫組織コードが入力されない場合、全在庫アイテムがモニター対象。)</p> <p>指定されない場合、デフォルト値は 1 です。</p>
アイテムのステータス (ItemStatuses)	<p>処理されるアイテムの有効なステータスのリスト。ステータスは、で区切られる必要があります (例: 3000,2000)。これは、MonitorOption が 2 または 3 として渡される場合のみに使用されます。指定されれば、ステータスに一致するアイテムのみモニターされます。</p>
警告開始タイム・スタンプ (FromAlertTimestamp)	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡される場合のみ使用されます。指定される場合、エージェントは REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントを発生させ、エージェントが開始された時刻と FromAlertTimestamp の間に公開された在庫状況情報を再公開します。</p> <p>指定されない場合、全在庫状況情報が公開されてから、エージェントが開始された時刻が再公開されます。</p>
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	<p>Y が設定される場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライド値は、エージェントをトリガーする際に以下の形式でコマンド・ラインから指定できます。</p> <p><AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue></p> <p>これらの属性を渡す場合の詳細については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド」を参照してください。</p>
開始経過時間 (FromLastNumberOfHours)	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡されて FromAlertTimestamp パラメーターを計算する場合のみに使用されます (必要な場合)。</p> <p>FromAlertTimestamp パラメーターは、指定されない場合、現在のタイム・スタンプから FromLastNumberOfHours を減じた時刻として計算されます。</p>

表 331. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
すべての在庫変更についてイベントを発生 (RaiseEventsOnAllAvailability Changes)	「Y」が設定される場合、すべての在庫状況の変更について REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生します。発生条件については、在庫状況が、指定されるしきい値を上回ったのか下回ったのかを問いません。これは、MonitorOption が 1 として渡される場合のみに使用されます。有効値は「Y」か「N」で、デフォルト値は「N」です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 332. リアルタイム在庫状況モニター・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE	なし	YFS_REALTIME_ATP_MONITOR、 REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

「リアルタイム」と説明されていますが、処理するメッセージのバックログがエージェントにある場合、在庫の変更が発生する際にも在庫状況の変更は即時にはトリガーされない可能性があります。さらに、このモニターは、時間トリガー・トランザクションとして存在するため、在庫アイテムの在庫状況のモニターを、構成される実行時プロパティーをベースにモニターがトリガーされる場合のみ行います。

出荷モニター

この時間トリガー・トランザクションは、YFS_MONITOR_RULE テーブル内のルールに基づき、出荷の状態をレポートします。このトランザクションを使用して、以下の状態をモニターできます。

- 出荷のステータスが指定される合計時間を超えている場合。
- 出荷に関連付けられて、指定される日付が以下の場合。
 - 指定される別の日付の n 時間前
 - 指定される別の日付の n 時間後
 - 指定される別の日付の n 時間前ではない
 - 指定される別の日付の n 時間後ではない
- 出荷が、指定される時間数に対して保留タイプである場合。
- 出荷が、指定される日付の n 時間前の保留タイプである場合。

モニター・ルールは、出荷品の出荷元ポイントおよび宛先ポイントについて構成できます。

モニター・ルールは、出荷の中間ピックアップ・ポイントおよびドロップオフ・ポイントについては構成できません。出荷は、複数のピックアップ・ポイントまたはドロップオフ・ポイントがある場合のみ、中間のピックアップまたはドロップオフを設けることができます。例えば、出荷には出荷品を運ぶ複数の集合・混載があります。集合・混載の最初の荷降ろし、2 番目の荷降ろし、さらにその次の荷降ろしと、出荷ステータスをモニターすることはできません。最後の集合・混載で出荷品が宛先に荷降ろしされると、その時点で出荷ステータスにマークが付けられてモニターすることができます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

マイルストーン、日付タイプ、およびモニター・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide*」、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*」、および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 333. 出荷モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENT_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 333. 出荷モニターの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 334. 出荷モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 335. 出荷モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる出荷数 (NumShipmentsMonitored)	モニターされる出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT_ALERT_TS の値が現在日付以下 (<=) のオープン状態の出荷の数になります。

発生するイベント

これは、出荷ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開済みデータ - SHIPMENT_MONITOR.xml

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、出荷の詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デフォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Shipment エlement、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Shipment-> MonitorRule Elementは無視されて、条件に渡されません。

作業オーダー・モニター

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダーが一定の長さの時間にわたり特定状態または保留タイプのままである場合、エンタープライズに警告します。

このモニターを使用して、作業オーダーがどれくらいの間、特定状態または保留タイプのままであるかを追跡します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 336. 作業オーダー・モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_MONITOR
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 337. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値)に設定されます。

表 337. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。作業オーダー・モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	オプション。作業オーダー・モニターの実行に必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 338. 作業オーダー・モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる作業オーダー数 (NumWorkOrdersMonitored)	モニターされる作業オーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT_ALERT_TS が現在の日付の値以下 (\leq) の条件でモニターされる作業オーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。アクションに対して公開されるデータは、workOrder_dbd.txt です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/monitor/WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、作業オーダーの詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/
WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デ
フォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->WorkOrder エlemen
ト、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/
WORK_ORDER_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->
WorkOrder-> MonitorRule エレメントは無視されて、条件に渡されません。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

J46A/G4

555 Bailey Avenue

San Jose, CA 95141-1003

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2012. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムの派生物です。© Copyright IBM Corp. 2012.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は、英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO, LTO ロゴ、Ultrium および Ultrium ロゴは、米国およびその他の国における HP、IBM Corp. および Quantum の商標です。

Connect Control Center[®]、Connect:Direct[®]、Connect:Enterprise[™]、Gentran[®]、Gentran[®]:Basic[®]、Gentran:Control[®]、Gentran:Director[®]、Gentran:Plus[®]、Gentran:Realtime[®]、Gentran:Server[®]、Gentran:Viewpoint[®]、Sterling Commerce[™]、Sterling Information Broker[®]、および Sterling Integrator[®] は、Sterling Commerce[™]、Inc.、IBM Company の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アイテム 45
アイテム関連付けの定義 65
関連付けられたサービス・アイテムの定義 69
キット・コンポーネントの定義 75
在庫情報の定義 54
削除 82
作成 45
指示の定義 73
主要情報の定義 46
タグ管理 (tag controlled) 55
単位の定義 49
代替単位の削除 53
代替単位の追加 51
代替単位の変更 52
追加属性の定義 63
ノード属性のオーバーライドの定義 69
分類の定義 59
変更 46
容器属性 78, 82
容器として 78, 82
アイテム関連付け
アイテムに対する定義 65
アイテム関連付けによる交換 66
アイテム指示 139
削除 141
作成 139
変更 141
アイテム指示コード 28
削除 29
作成 28
変更 29
「アイテム指示コード」フィールド 65, 74, 140
「アイテム指示コードを使用」フィールド 65, 74, 140
アイテム指示タイプ
削除 31
作成 30
変更 30
「アイテム指示タイプ」フィールド 64, 73, 140

「アイテム出荷集約期間 _ 日」フィールド 54
アイテム除外コード 38, 64
削除 39, 42, 43
作成 38, 40, 41, 42, 118
変更 39, 42, 43
アイテム属性のオーバーライド 89
削除 91
作成 90
変更 91
アイテム・クエリー
作成 83
アイテム・ステータス 25
削除 26
作成 25
変更 26
「アイテム・タイプ」フィールド 62
アプリケーション・ルールのサイド・パネル 7
インデックス
カタログ検索 175
エイリアス・タイプ 35, 64, 116
削除 36, 117
作成 35, 116
変更 36, 117
オーダー単位 51
「オーダー単位」フィールド 51

[カ行]

価格設定組織 8, 10
価格設定単位
削除 95
作成 94
変更 95
「価格設定単位」フィールド 50
価格設定単位が在庫単位と異なる 50
「課税製品コード (Tax Product Code)」フィールド 61
「課税対象」フィールド 48
カタログ 97
インデックス作成 175
カテゴリ 97
追加属性
削除 100
作成 99
変更 100
容器詰め 80
カテゴリ・ステータス
削除 99
作成 98

カテゴリ・ステータス (続き)
変更 98
「簡略説明」フィールド 46, 47, 96, 122, 130, 137
関連製品販売アイテムの関連付け 66
関連付けタイプ 36
削除 37
作成 36
変更 37
「関連付けられた明細が完了するまでスケジューリングを保留にする」フィールド 71
「危険物」フィールド 61
「危険物クラス」フィールド 61
キット化解除サービス 135
キット化サービス 135
キットのコンポーネント
アイテムに対する定義 75
キット・コード・フィールド 47
「キャパシティー (量)」フィールド 80
「許容容積」フィールド 80
継承
決定 8
「原産国」フィールド 49
構成画面
アクセス 8
コスト計上分類 118
「コスト計上分類」フィールド 61
コスト計上分類コード
削除 119
変更 118
「固定キャパシティーの単位」フィールド 122, 130
「このサービスを必要とするオーダーのスケジューリング時に作業オーダーを作成」フィールド 138
「この単位を使用してオーダー可能」フィールド 52, 93
コンプライアンス・サービス 135
「梱包の容器として使用」フィールド 46

[サ行]

サード・パーティー物流管理モデル 2
サービスの複雑度
削除 34
作成 33
定義 33
変更 34
「サービスの複雑度」フィールド 125

「サービス領域検索用のサービス・アイテム ID」フィールド 125

「サービス領域検索用のサービス・アイテム単位」フィールド 125

「サービス・アイテムの価格設定数量」フィールド 71

「サービス・アイテムのキャパシティー数量」フィールド 71

サービス・アクティビティー 135

- 作成 141
- 詳細 142

サービス・アクティビティーの詳細

- 削除 143
- 追加 142
- 変更 143

サービス・オプション 129

- 提供サービス・アイテムからの削除 131
- 提供サービス・アイテムに対して作成 129
- 提供サービス・アイテムに対する変更 130
- 配送サービス・アイテムでの削除 123
- 配送サービス・アイテムでの変更 123
- 配送サービス・アイテムの定義 121
- 配送サービス・アイテム向けの作成 121

サービス・スキル

- 削除 33
- 作成 31
- 定義 31
- 変更 33

サービス・タイプ 33

- 追加キャパシティー 126
- 提供
 - 削除 134
 - 作成 133
 - 変更 134
- 配達
 - 削除 126
 - 作成 125
 - 変更 126

「サービス・タイプ ID」フィールド 125

「サービス・タイプ」フィールド 127

「サービス・タイム・オフセット」フィールド 71

「サービス・ツール」フィールド 48

在庫状況のセーフティー要因 57, 111

在庫情報

- 定義 55
- 「在庫単位への変換数量」フィールド 52
- 「在庫でシリアル番号を追跡」フィールド 58

在庫の FIFO 追跡 57, 110

「在庫はこの単位で保管されている」フィールド 93

在庫変更サービス 135

- 「最小オーダー数量」フィールド 48
- 「最大オーダー数量」フィールド 48

作業オーダー 135

作成

- カタログ・インデックス 175
- 「シーケンス番号」フィールド 64, 73, 140, 142
- 「時間依存」フィールド 56

指示

- アイテムに対する定義 73
- 「指示の URL」フィールド 142
- 「指示の使用法」フィールド 143
- 「実行数量」フィールド 139

重量フィールド 50, 52

- 「出荷予定日時の少なくとも __ 時間前にノードに通知する必要がある」フィールド 54

上位製品販売アイテムの関連付け 66

- 「商品コード」フィールド 61
- 「将来の安全係数率」フィールド 57, 110
- 「新規アイテム指示の作成」フィールド 65, 74, 140
- 「数量」フィールド 51, 80

数量単位

- 削除 94
- 作成 92
- 変更 93

「スケジュール B コード (Schedule B Code)」フィールド 61

「ステータス」フィールド 48, 137

「製造業者のアイテム」フィールド 48

「製造業者のアイテムの説明」フィールド 48

「製造業者の名前」フィールド 48

「正のパッケージ許容数量」フィールド 52

「製品 ID」フィールド 46, 70, 122, 130

「製品」フィールド 78

「製品回転コード (Velocity Code)」フィールド 62

「製品数量」フィールド 71

「製品明細」フィールド 62

「説明」フィールド 47, 96, 130, 137

「操作の構成が完了」フィールド 62

組織のルール 10

- オーバーライド 11
- 別の組織のルールをロード 13

組織レベル 8

- ルール 10

[夕行]

「代替単位」フィールド 52

「高さ」フィールド 50, 52

「タグ管理していない」フィールド 58

「タグ管理の場合あり」フィールド 58

「単位」フィールド 46, 51, 70, 122, 130

「単位コード」フィールド 92

「単位の説明」フィールド 93

「単位変換の精度」フィールド 93

追加キャパシティー

- サービス・タイプ 126
- 削除 128
- 作成 126
- 定義 126
- 変更 127
- 「追加キャパシティー」フィールド 127
- 「追加キャパシティーを適用するために使用する地域スキーマ」フィールド 127
- 「追加説明」フィールド 139

追加属性 26

- アイテムに対する定義 63
- 削除 27
- 作成 26
- 変更 27
- 「次のバイヤー用に予約」フィールド 79
- 「次の容器詰めカテゴリーのアイテム用に予約」フィールド 80
- 「常にタグ管理」フィールド 58

提供サービス・アイテム 129

- アイテムに対する定義 69
- 「テキスト」フィールド 143
- 「デフォルトの価格設定単位変換係数」フィールド 51
- 「デフォルトの有効期限」フィールド 56
- 「手持ちのセーフティー要因の数量」フィールド 57, 111
- 「手持ちのセーフティー要因率」フィールド 57, 111
- 「統一コード (Harmonized Code)」フィールド 60

[ナ行]

「長さ」フィールド 50, 52

ノード属性のオーバーライド

- アイテムに対する定義 69

[ハ行]

配送サービス・アイテム 121

- アイテムに対する定義 69
- 「幅」フィールド 50, 52

バリエーションのあるアイテム 47

ビジネス・モデル 1

ビジネス・モデル (続き)
 サード・パーティー物流管理モデル 2
 複数事業部制コーポレーション 2
 マーケットプレイス 2
「ピッキング・タイプ」フィールド 62
付加価値サービス。VAS を参照 135
複数事業部制コーポレーション 2
「負のパッケージ許容数量」フィールド
 52
分類 101
 アイテムに対する定義 59
 分類階層 107
 分類定義 102
 分類目的 103
分類階層 101
 分類値
 削除 112
 作成 107
 変更 108
分類定義
 削除 103
 作成 102
 変更 103
分類目的
 削除 107
 作成 106
 変更 106
「変換で分数値の使用を許可」フィールド
 93
「返品および出庫でシリアル番号を追跡
(Serial Numbers Tracked In Returns And
Outbound)」フィールド 58
「返品可能」フィールド 49
「返品期間日数」フィールド 49
「保管タイプ」フィールド 62

[マ行]

マーケットプレイス 2
マスター単位
 提供サービス・アイテムからの削除
 132
 提供サービス・アイテムでの変更 132
 提供サービス・アイテム向けの作成
 131
 配送サービス・アイテムでの削除 124
 配送サービス・アイテムでの変更 124
 配送サービス・アイテム向けの作成
 123
マスター・カタログ 46
 削除 97
 作成 96
 変更 96
「マスター・カタログ ID」フィールド
 96

「マスター・カタログ」フィールド 46,
47

[ヤ行]

容器
 定義 78, 82
 SKU キャパシティー定義 82
「容器に格納できる最大重量」フィールド
 80

[ラ行]

「リード日数」フィールド 57, 110
「領収書のないクレジット」フィールド
49

[数字]

2 次シリアルの数 58

A

Applications Manager
 アクション
 コンテキスト・ヘルプ 23
 伝票種別 19
 特殊文字 23
 トラブルシューティング 23
 日時の入力 22
 ユーザー 21
 リスト 21
 ルックアップ 機能 19
 開始 5
 作業領域 14
 レイアウト 5
「ATP モニター・ルール」フィールド
57, 110
「ATP ルール」フィールド 57, 110

E

「ECCN 番号」フィールド 61

G

GTIN フィールド 48

L

「LPN タイプ」フィールド 93

N

「NAICS コード」フィールド 61
「NMFC クラス (NMFC Class)」フィールド
61
「NMFC コード (NMFC Code)」フィールド
61

S

SKU キャパシティー定義
 削除 82
「SKU ユニット・サイズ・コード」フィ
ールド 80

U

「UCC パッケージ・インジケーター」フ
ィールド 93
「UNSPSC」フィールド 61
UOM (単位)
 価格設定 94
 数量 92

V

VAS (付加価値サービス) 135
 削除 144
 作成 136
 定義 136
 変更 144



Printed in Japan